

感謝を忘れず真人となる

90th

創立90周年記念

学校法人

総持学園



創立 90 周年記念

感謝を忘れず^ひ真人^ととなる

学校法人
総持学園



学校法人 総持学園 学園主 江川 辰三

総持学園創立90周年を祝う

本年、総持学園が創立90周年の佳辰を迎えられることは、まさに慶祝の至りであります。

当学園は、関東大震災の翌年の大正13(1924)年に、大本山總持寺御開山瑩山禪師600回大遠忌を記念して、光華女学校として発足しました。校主・新井石禪禪師様、初代校長・中根環堂先生、6人の教職員、16人の生徒という形態でした。

その当時は、様ざまな苦難を乗り越えて本山御移転が成就してから10数年が経ち、鶴見の地において、瑩山禪師様の衆生済度、興法利生のみ教えを社会に応じた形で次第に具体化していく時期でありました。その代表的な事業が当学園の創立でありました。

爾来、歴代の教職員の方をはじめとする関係各位、同窓会の方がた等のご尽力、ご協力によって、当学園は、総合学園として発展、充実の道を歩み現在に至っております。

さて、当学園の母体である大本山總持寺では、来年の平成27年に本山二祖峨山禪師650回大遠忌を迎え、その9年後には御開山瑩山禪師700回大遠忌が奉修されます。

この二つの難値難遇の大遠忌を「御両尊の大遠忌」として拝受し、単体のものではなく、一筋の流れによる「大報恩法会」として懇ろにお勤めいたします。

二つの大遠忌のテーマは、「相承-大いなる足音がきこえますか-」と定められています。

み教えを師から弟子へと絶えることなく正しく受け継ぎ、さらに次の代へとそれをきちんと伝えていくことを「相承」といいます。

瑩山禪師様の正伝のみ教えは、お弟子の峨山禪師様に余すことなく相承され、そしてそれがまた、峨山禪師様が育成された数多くのお弟子たちに伝わり、社会の共感を集めて、その後曹洞宗門は大きく成長、発展しました。

総持学園創立90周年にあたり、この「相承」のみ教えに鑑みて、当学園のこれまでの業績、歩みを改めて振り返るとともに、なおかつ、それを踏まえた上で、未来への限りない展開をも探求していかなければならないと念じております。

今後共、皆様からのなお一層のご支援を衷心よりお願い申し上げ、一言慶びの言葉といたします。



学校法人総持学園
理事長 乙川 暎元

総持学園創立90周年を迎えて

総持学園は、曹洞宗大本山總持寺御開山瑩山禪師様のご縁を頂いて今日に至っております。

大正13(1924)年に、瑩山禪師六百回大遠忌を記念として産声を上げ、さらに昭和45(1970)年には瑩山禪師六百五十回大遠忌記念事業として、大学に歯学部を開設いたしました。

やがて、平成36(2024)年には、七百回忌の大遠忌となります。

本年、学園創立90周年を迎え、創立以来学園主であられる歴代禪師様をはじめ先達のご尽力と、今日その伝統を脈々と継承されております教職員みなさまの努力に心から敬意を表するものでございます。

わが学園は、現在の中学・高等学校の前身光華女学校、鶴見高等女学校の発足以来、女子教育を眼目として心血を注いでまいりましたが、時代の変遷と社会の要請に応じて、今や幼稚園・中学・高等学校・短期大学・大学・大学院を設置した男女共学の総合学園として発展向上の実を挙げております。

「大覚円成 報恩行持」の二句八字をもって建学の精神とし、円満な人格の形成と人類社会に対する感謝・報恩の実践を心の指針としております。

瑩山禪師様は、自分の身の回りを改めて見直し、歩むべき真実の「道」として理解するだけでなく、実行することであると御慈訓「平常心是道」に諭されております。園児・生徒・学生のみなさんが改めて禪師様のみ心を感じ得られることを願って止みません。

今日、社会の急速な変化や改革により、学園もあらゆる面において変革を求められておりますが、現実を直視つつ平常心を心根に据えて「百尺竿頭進一步」の気概をもって、更なる精進に努める決意です。

総持学園創立90周年にあたり、この記念すべき勝縁が学園の限りない発展への礎となりますこと心いたしたく存じます。

目次

90周年を祝う	2
90周年を迎えて	3
学園の構成	6
校歌	7

中学校・高等学校 8

平成20年春 共学化、校名・校章変更	9
教科エリア・ホームベース型校舎	12
新制服、仏教専修科開設	15
年間の主な学校行事	16
3ステージ制と行事	22
部活動	30
機関誌「鶴の林」(年刊号表紙の10年史)	32
鶴友同窓会	33

大学・文学部 34

公式マスコットキャラクター	35
日本文学科	36
英語英米文学科	38
文化財学科	40
ドキュメンテーション学科	42
源氏物語研究所	44
比較文化研究所	46

大学・歯学部 48

歯学科	48
ハイテクリサーチセンター	55

大学院 56

文学研究科	56
歯学研究科	57

短期大学部 58

保育科	59
歯科衛生科	66
専攻科	76
保育専攻	76
福祉専攻	78

大学機関 80

図書館	80
保健センター	83
歯学部附属病院	84
女子学生寮	87
仏教文化研究所	88
先制医療研究センター	89
国際交流センター	90

課外活動 92

社会貢献・地域連携活動 96

地域貢献・ボランティア活動	96
生涯学習セミナー	102
横浜市民大学講座	103
司書・司書補講習	103

幼稚園 104

三松幼稚園	104
-------	-----

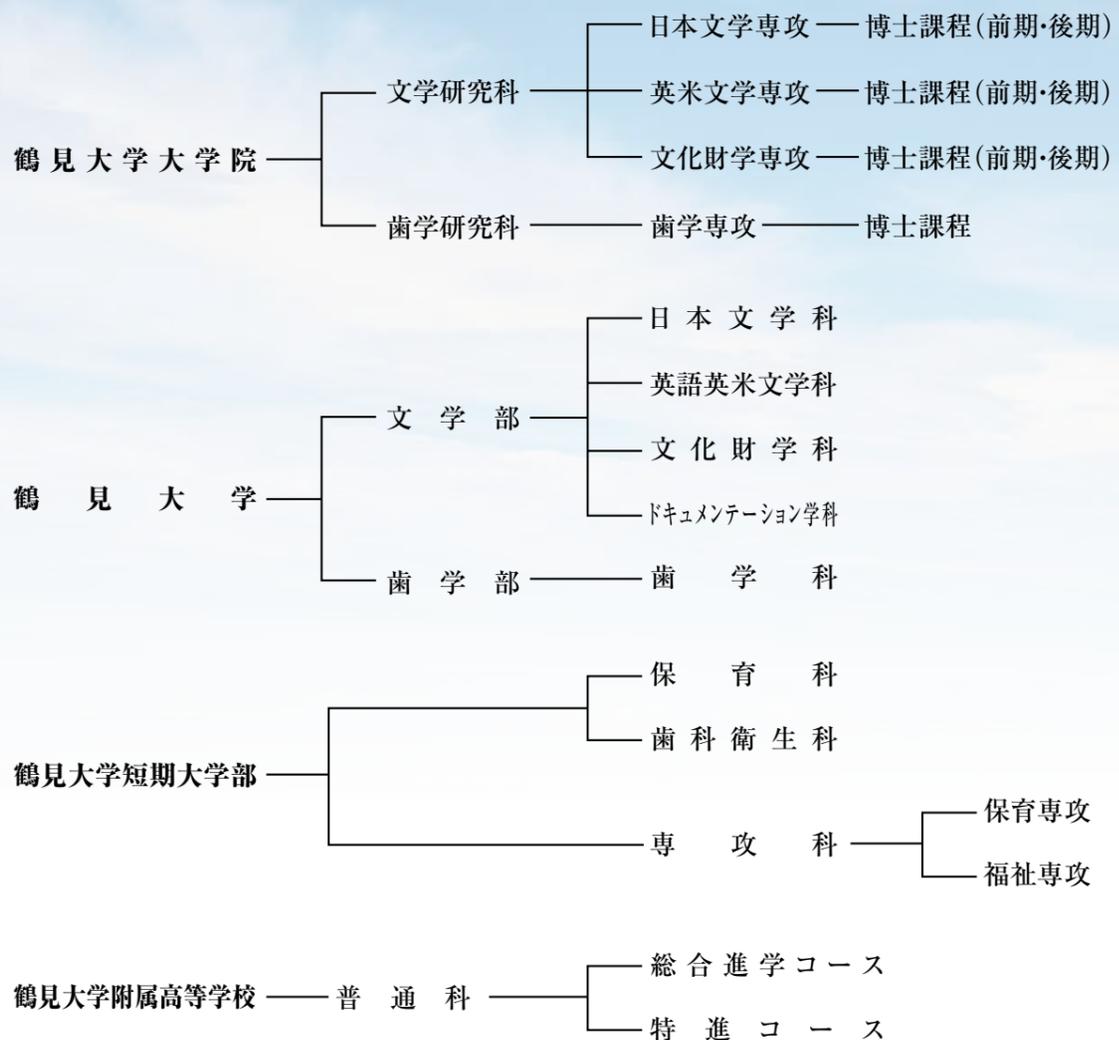
大学・短期大学部同窓会 110

文学部・短大部同窓会	110
歯学部同窓会	111

資料編 112

宗教行持	112
安心・安全の取り組み	114
大学祭(紫雲祭)	116
主な学園出版物	120
歴代学園主・理事長・学長・校長・園長	122
学園年表	124
総括委員会・実行委員会・記念行事	138

総持学園の構成



鶴見大学附属中学校

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園

大学機関

- 図書館
- 保健センター
- 歯学部附属病院
- 女子学生寮
- 仏教文化研究所
- 国際交流センター
- 先制医療研究センター

校歌

鶴見大学校歌

志田 延義 作詞
團 伊玖磨 作曲

一、 聖き沈黙のめぐる庭
港見おろす丘の上に
法の正道仰ぎつつ
わが大学は生まれたり
ともに謳はん 讃へなん
ああその名 ああその名
鶴見大学

二、 行持研学励む場
心通はず友垣の
笑まひ豊けき集ひこそ
わが大学の誇りなれ
ともに謳はん 掲げなん
ああその名 ああその名
鶴見大学

三、 求むる真理磨く技
道は各々異なれど
まこと貫く若人の
わが大学に栄えあれ
ともに謳はん 護りなん
ああその名 ああその名
鶴見大学

鶴見大学附属中学校・高等学校校歌

新井 石禅 作詞
島崎赤太郎 作曲

一、 富士の高嶺は窓近く
通う松風法の声
鶴見が丘の学舎に
咲くや懐しき文の華

二、 師のみ教に順いて
勤め励みつ身を鍛え
固き心に清き愛
恭儉ふかく徳つまん

三、 弥栄えゆく民主国
護るは吾等が務めなり
恩も義もいと重し
能力の限り尽さばや

三松幼稚園園歌

賀来 琢磨 作詞
足羽 章 作曲

一、 松のみどりの 森の中
山鳥 小鳥も 来てあそぶ
ここは たのしい 幼稚園
三松 三松 幼稚園

二、 み佛さまに まもられて
すくすく元気に 伸びていく
ここは たのしい 幼稚園
三松 三松 幼稚園

三、 仲よくみんなで あそびましょう
お寺のかねが 鳴っている
ここは たのしい 幼稚園
三松 三松 幼稚園

中学校・高等学校

学びの心で世界を変える

鶴見大学附属中学校・高等学校
校長 中川 光憲



鶴見が丘の一日は、校舎に向かって一礼する生徒の姿から始まる。ホームベースからは全校生徒の唱える読経、宗歌を歌う声が校舎に響き渡り荘厳ささえ感じる。教科エリアでは真剣なまなざしの授業風景。休み時間の教室移動は上級生と下級生が挨拶を交わし、足早の中にも友達同士の楽しげな会話が聞こえる。教科メディアでは生徒と教師が教科書を広げ会話をしている。昼食時になるとホームベースで「いただきます」と合掌しクラス生徒と担任の楽しげな食事風景が見られる。これが教科エリア型校舎での日々の姿です。放課後のグラウンドからは運動部の元気なかけ声が、芸術エリアからはギターの音色やドラムの音も聞こえ、また、自然科学部が3年越しで完成させたビオトープ・養蜂所、その池の周りではいつも変わらず黙々と部員達が作業をしている姿が見えます。

大正12(1923)年9月1日午前11時58分、突然南関東一帯の大地が猛烈に揺れました。この関東大震災で横浜大岡町にあった光華女学校が倒壊し、当時駒澤大学で教鞭を執られていた中根環堂先生はこの光華女学校の再興を打診されます。「私は宗教家である。宗教家が布教教化するのは、教育を通じて行うことが最も効果的であろう。」と生涯教育家を決意され、光華女学校の再興を引き受けられます。「教育の根本は、人物を作ることである。禅的業の教育を通し、真の日本人としての日本人を作ることである。」

そして何事も魂を打ち込み三昧になった時こそ坐禅であり仏行である。」“一点になりきれ”と34年間、学園の基礎を築かれます。それから90年、建学の精神「大覚円成・報恩行持」のもと四万五千余人の社会の一隅を照らす卒業生を世に送り出してきました。

この10年は、建学の精神を継承しながらも、さらなる教育の向上を目指し、大学附属化、女子教育から男女共学とし、また6年前、学びの空間「教科エリア」と生活の空間「ホームベース」で構成された「教科エリア型校舎」をスタートさせました。さらにICT教育の充実、また教育の基幹システムを3ステージ制の導入、実行性ある学習・進学指導面の構築など取り組んできました。こうした改革の中、教職員が教科指導、生活指導、部活動など生徒と真正面から向き合い教育活動に取り組む姿には頭が下がる思いです。

創立100年に向け新たな一歩を踏み出すことになった今、初代校長の“一点になりきれ”をさらに推し進め、90周年教育目標を“学びの心で世界を変える”としました。この年代は自分の夢を持ち、その夢の実現を目指しひたすら打ち込んでほしい、また「何事も三昧になること」は自分の内なる世界も大きく成長させ、グローバルに羽ばたいてほしいと願っています。この学園で学ぶ若者が、仏心のもと温かく尊い心の持ち主としての真の日本人として、世界で活躍することを確信してやみません。

平成20年春 共学化、校名・校章変更

平成20(2008)年度から、新中学1年(難関進学クラス・進学クラス)、および新高校1年特進コースが男女共学化(翌年、高校総合進学コース共学化)し、校名も鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校から鶴見大学附属中学校・高等学校に変更されました。

附属中学校・高等学校は、大正13(1924)年に設立された光華女学校を前身とし、戦後、新制鶴見女子中学校・高等学校となりました。初代校長中根環堂先生の願いである「女性の自覚と向上」を旨とし、80有余年の歴史を歩んできましたが、21世紀を迎えて時代の要請に応えるべく、大学附属校化を機に、共学化、新校舎建設の学校改革に着手しました。併せて、新たな教育ビジョンとして「自立の精神と心豊かな知性を育み、国際社会に貢献できる人間を育てる」を掲げ、学力向上・人間形成・国際教育の3つを教育の柱とする新たな学校として生まれ変わりました。



正門左右の門柱に新しい校名のプレート設置



新校章 左：中学校、右：高等学校

旧校章 左：中学校、右：高等学校

新しい校章の由来

鶴見大学附属中学校・高等学校の校章は、光華女学校の校章をモチーフとし、物事の完成を意味する〇印を基本として、中央部の卍の色が中学校は橙色、高等学校は緑色となっています。また、仏の教えを表す卍を囲む吉祥、誠実、清楚の意味を持つ鶴が飛翔する姿で構成しています。三羽の鶴は、生徒、保護者、教職員の三者をも表現しています。

平成21年春
教科エリア・ホームベース型校舎完成
新たな学びが始まりました



新しい学び舎で



ホームベース (朝礼)



英語科教室



国語科教室



数学科メディアセンター



階段 (教室移動)



化学室



ホームベース (放課後)



ラウンジ

新制服 (平成20年度より)



冬服 (リボン・ネクタイは高校生用)



夏服 (リボン・ネクタイは中学生用)

仏教専修科開設 (平成21年度)

仏教専修科は、曹洞宗の僧籍を有する男子生徒に対して、寺院住職に必要な基本的事項を修得することを目的としています。仏教専修科生は、總持寺の境内に設置された仏教専修科寮「鶴翔寮」に3年間在寮し、仏教専修科の科目を履修しながら、高等学校の卒業単位を取得します。



落慶式 (鶴翔寮)



入寮式 (鶴翔寮)



慈眼堂 (校舎1階)



モロカイ観音像 (校舎エントランス)

年間の主な学校行事

入学式 (4月6日)



創立60周年記念講堂での入学式



新入生誓いのことば

花まつり (4月8日)

生徒のみなさんが持ち寄った花で壇上を囲み、花御堂を設けて誕生仏に甘茶をおかけし(灌仏)、お釈迦様のご誕生と、そのみ教えにめぐりあうことができたことをお祝いします。



灌仏



み教えにこたえて

学校授戒会 (5月初旬)

高校3年生が参加する学校授戒会では、建学の精神にもとづき、宗教教育の総まとめを目指します。ご本山での厳粛な儀式を行い、禅師さまから一人ひとり戒名をいただきます。



読経



三師請拝



作務



薬石(夕食)



説戒(法話)



大祖堂前での記念写真

精霊祭 (7月初旬)

過去一年間に亡くなられた学園関係者、保護者、同窓会、職員等のみ魂を迎え供養する日です。生徒の持ち寄りのお供物を祭壇一杯に飾り、禅師さま大導師のもと真心をこめた供養が行われます。



献灯



追善のことば

太祖降誕会 (11月21日)

曹洞宗発展の基礎を築かれた瑩山禅師さまの降誕をお祝いするとともに、私たちの日頃の行動がみ教えにかなっているかどうかを省みるようにします。



散華の舞



献香・献華

耐寒参禅会 (1月中旬)

大寒の頃の四日間に、建学の精神の実践として、ご本山で寒中早朝参禅を行います。この耐寒参禅では、寒中に自分で自己に向かい、身と心を正して坐り坐禅すること「一点になりきる」ことを目指します。



大祖堂での坐禅

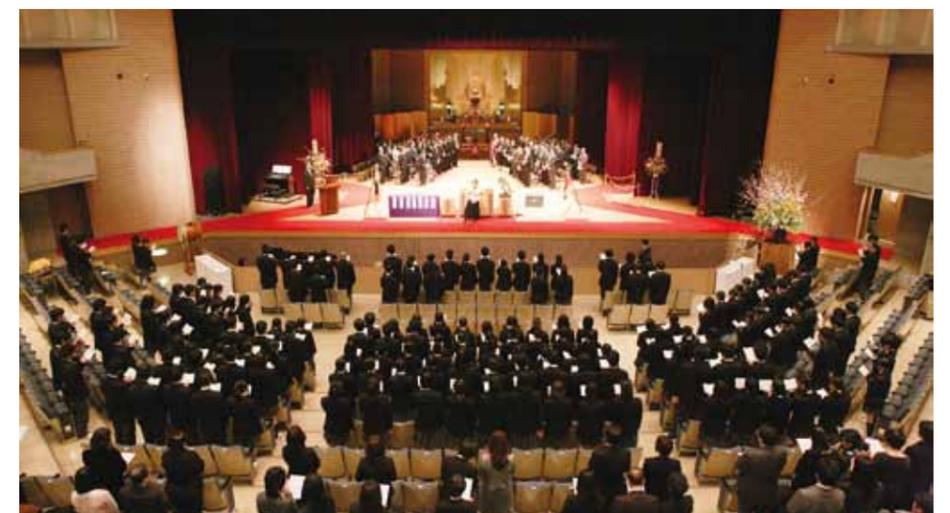


坐禅堂(衆寮)での坐禅

卒業式 (3月3日)



卒業証書授与



体育祭 (9月下旬)



棒倒し



騎馬戦



バトン部演技



クラス対抗リレー



大綱引き

光華祭 (文化祭) (11月初旬)



生徒会モニュメント



吹奏楽部



体験コーナー (社会科)



洋裁部



自然科学部



鉄道研究部



茶道部



模擬店

3ステージ制と行事

中学校・高等学校では、6年間で2年ずつに区切った3ステージ制を平成22(2010)年度から導入しました。各ステージには、智恵と慈悲(学力向上と人間形成)の達成に向けた目標が立てられています。

生徒は、縦割り活動のなかで目標を達成しながら、次のステップへ確実に成長していきます。また、各ステージでは特色ある行事が行われ、仲間と協力したり、競い合ったりしながら、充実した学園生活を送っています。

球技会 (4~5月、1st・2ndステージ) 平成25(2013)年度に体育館の耐震工事が完了しました。



女子バスケットボール(アリーナ)



女子バスケットボール(サブA)



男子バスケットボール(アリーナ)



男子卓球(サブB)



男女混合ドッジボール(アリーナ)



開会式(アリーナ)

遠足 (5月)

1stステージ(多摩動物公園)



1stステージ(こどもの国)



4学年部(高1)〈箱根・芦ノ湖〉



1stステージ(こどもの国)



1stステージ(多摩動物公園)



5学年部(高2)〈浅草・雷門〉



3学年部(中3)〈横浜散策〉



3学年部(中3)〈横浜散策〉



4学年部(高1)〈箱根・関所〉



5学年部(高2)〈上野・国立科学博物館〉

合唱祭 (11月、1stステージ) 本校講堂にて



弁論大会 (11月、2ndステージ) 本校講堂にて



書き初め大会 (1月、1stステージ) 本校体育館にて



サマースクール (7~8月、1stステージ1学年部)

1日目	總持寺—善光寺—信州高原荘—天狗の館 (バーベキュー・入浴) —信州高原荘
2日目	信州高原荘—戸隠森林植物園散策—とんくるりん (そば打ち体験) —チビッツ忍者村—天狗の館 (入浴・夕食) —信州高原荘
3日目	信州高原荘—おぎのや諏訪店 (釜飯弁当) —總持寺



善光寺



戸隠森林植物園



バーベキュー



戸隠森林植物園



チビッツ忍者村



そば打ち体験



信州高原荘 (玄関前)



信州高原荘 (食堂)



信州高原荘 (照心道場)



そば打ち体験

春期スキー研修旅行 (3月、1stステージ2学年部)

平成24(2012)年度より、長野県湯の丸スキー場にて2学年部(中2)を対象とした春期スキー研修を始めました。



朝の準備体操(湯の丸スキー場)



インストラクターによるスキー講習(初級)



百人一首大会(湯の丸高原ホテル)



信州高原荘玄関前(全校希望者対象スキー教室)



飯綱リゾートスキー場(全校希望者対象スキー教室)



インストラクターによるスキー講習(中級)

オーストラリア語学研修旅行 (3月、2ndステージ3学年部) 平成25(2013)年度より実施

1日目	横浜シティアターミナルー成田空港ーケアンズへ【機中泊】
2日目	ケアンズ空港ーキュランダ ジャブカイ・アボリジニ・カルチャーパーク(フェイスペインティング、ディジュリドゥ・ショー、ダンスショー、やり投げ・ブーメラン投げ体験、伝統的な武器や道具の説明)ーレインフォレステーション・ネイチャーパーク(ランチバイキング、アーミーダック、ワイルドライフパーク、コアラ抱っこフォト【有料:希望者のみ】)ースカイ・レールー【ホテル泊】
3日目	ホテルーアサートン アサートン・インターナショナル・クラブ(ホストファミリーとの対面式)ーファーム体験活動【ファーム泊】
4日目	ファーム体験活動【ファーム泊】
5日目	ファームーアサートン・インターナショナル・クラブーケアンズ港ー高速船にてグリーン島へ(昼食、グラスボトムボート、遊泳【希望者のみ】、島内散策等)ーケアンズ(ケアンズ中心部にて買い物等の自由散策)ーレストラン(夕食)ー【ホテル泊】
6日目	ホテルーケアンズ空港ー成田空港ー横浜シティアターミナル

平成25(2013)年度行程表



ワイルドライフパーク(キュランダ)



やり投げ体験(キュランダ)



ワイルドライフパーク(キュランダ)



アーミーダック(キュランダ)



ホテル前(ケアンズ)



グリーン島



グリーン島



グリーン島



グラスボトムボート(グリーン島)



ホストファミリーとの記念写真(アサートン)



ホストファミリーとのショッピング(アサートン)



アサートン・インターナショナル・クラブ



アサートン

広島・関西体験研修旅行 (3月、2ndステージ4学年部) 平成26(2014)年度より実施予定

1日目	新横浜駅—広島駅—広島平和記念公園—大崎上島にて民泊
2日目	ホームステイ体験学習(農業や漁業などの家業体験)—民泊
3日目	大崎上島—広島駅—新大阪駅—USJ—ホテル泊
4日目	班別自主研修(神戸散策、大阪散策、京都散策)—新大阪駅—新横浜駅



原爆ドーム



フェリーで大崎上島へ

スタディキャンプ (7月、3rdステージ5学年部) 平成26(2014)年度より湘南国際村センターにて実施



夏期オーストラリア語学研修 (7~8月)



ローンパイン・コアラ・サンクチュアリ (ブリスベン)



オペラハウスをバックに(シドニー)



現地高校の授業に参加(ゴールドコースト)

国際交流 ウィルコックスハイスクール来校 (6月)



坐禅体験(総持寺)



授業体験(本校書道室)



ホストファミリー生徒とともにご本山に宿泊

沖縄修学旅行 (11月、3rdステージ5学年部)

1日目	羽田空港—那覇空港—ひめゆり会館(昼食)—ひめゆりの塔・平和祈念資料館—平和祈念公園—ホテル
2日目	ホテル—終日、自主研修(タクシー行動)—ホテル
3日目	ホテル—琉球村—東南植物楽園—ゴーヤハウス(昼食)—国営沖縄記念公園(美ら海水族館)—ホテル
4日目	ホテル—首里城—国際通り 班別自主研修(各自昼食)—那覇空港—羽田空港



ひめゆりの塔



美ら海水族館



首里城

中学課程修了式

(3月、2ndステージ3学年部)



中学課程修了証授与

ステージ修了式

(3月、1st・2ndステージ)



ステージ全員で合唱



ステージ修了証授与

部活動

体育系12、文科系20の部活動があります。

それぞれの部活動で、生徒は自分で決めた目標に向かって毎日努力を続けています。
集中力を養い努力を続けることの大切さを学び、同時に仲間との絆を深めています。

体育系 平成26(2014)年度活動中のもの

- バトン部
- テニス部
- バスケットボール部
- 陸上競技部
- バレーボール部
- ソフトボール部
- 軟式野球部 (中学)
- 硬式野球部 (高校)
- 水泳部
- サッカー部
- バドミントン部
- 柔道部

文化系 平成26(2014)年度活動中のもの

- 洋舞部
- 数学部
- 英語部
- アンサンブルクレイン部
- 囲碁・将棋部
- 自然科学部
- 吹奏楽部
- 生花池ノ坊部
- 写真部
- 美術部
- 洋裁部
- 茶道部
- 放送部
- JRC 国際ボランティア部
- 書道部
- 漫画研究部
- 鉄道研究部
- パソコン部
- 調理部
- 社会科部



バトン部



ソフトボール部



柔道部



バドミントン部



バスケットボール部



JRC 国際ボランティア部



社会科部



囲碁・将棋部



生花池ノ坊部、書道部



自然科学部



バレーボール部



吹奏楽部



硬式野球部



鉄道研究部



軟式野球部



サッカー部



バスケットボール部



陸上競技部



テニス部



茶道部



美術部

機関誌「鶴の林」(年刊号表紙の10年史)

「鶴の林」は、鶴見大学附属中学校・高等学校の機関誌です。昭和2(1927)年に創刊され、昭和25(1950)年からは、第3種郵便物としての許可を受け、今日まで脈々と続いている刊行物で、月刊号と年刊号が発行されています。学校生活の折々の行事を通して、生徒と教師の様々な思いが綴られています。今も昔も変わらず、卒業生や学校関係者にも配布され、全国に読者を広げています。



平成16(2004)年度



平成17(2005)年度



平成18(2006)年度
4月 伊藤克子校長就任



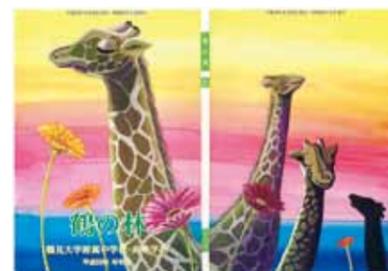
平成19(2007)年度
鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校に
校名変更



平成20(2008)年度
共学化(現在の校名に変更)、新制服スタート



平成21(2009)年度
教科エリア・ホームベース型校舎スタート



平成22(2010)年度
4月 中川光憲校長就任



平成23(2011)年度



平成24(2012)年度



平成25(2013)年度

鶴友同窓会

創立90周年のお祝いを同窓生一同より申し上げます。

21世紀にふさわしく、男女共学、エリア別教科校舎、プロジェクター授業、等半世紀前の卒業生には考えられない、素晴らしい環境で、12才から17才までの若々しいエネルギーがはじける日々は、輝かしい未来が、うかがえる光景です。

同窓会は先輩から引継いできた力で、在校生の一生に一度のこの時間を、次なる飛躍の力とされるお力添えをしたいと思います。

90周年の節目に止まることなく、前へと歩みつづける努力をしたいと思います。

近況を報告させていただきます。

- ・平成20(2008)年新校舎建設資金 3000万円
- ・平成21(2009)年プロジェクター設備資金 1100万円
- ・同窓会奨学金(毎年)
- ・会報「はたらき」全頁カラー化
(毎年23,000部送付)
- ・同窓会費納入者、パソコンに入力完了
- ・光華祭収入の内より
母校教育支援金、鶴見区社会福祉協議会
JHPへ寄付を続ける
- ・平成26(2014)年 90周年記念ホームカミングデイを
母校と共催の予定
同窓会副会長 関口崑久子記

平成26(2014)年7月18日



光華祭・同窓生作品の展示会場



平成26(2014)年度常任理事と先生方



光華祭出品の同窓生手作り編物



光華祭・同窓生作品 絵手紙と貝飾り



平成24(2012)年第43号



平成25(2013)年第44号



平成26(2014)年第45号

大学・短期大学部

未来の自分に、今の努力を贈ろう



鶴見大学・鶴見大学短期大学部
学長 伊藤 克子

学校法人総持学園は、本年創立90周年をむかえました。その記念すべき年を学長として迎えられることは、大変光栄なことと思っております。それと同時に、歴代の学長のお名前を思い浮かべては、あらためてその責任の重さに身の引き締まる思いがいたします。

さて、90年の学園の歴史をさかのぼって行けば、現在の附属中学・高校の前身である光華女学校に行き着きます。生徒16人で出発した学校が、隆盛期や停滞期を経て、今日まで歴史を刻んできました。奇しくも、私は5年前まで、附属中学・高校の校長を務めていましたので、この学園の根幹たる「仏教による学校教育」を自らつぶさに体験することができました。もちろん、初代校長が健在だった頃とは比べるべくもないでしょうが、それでも毎日の、毎月の、一年のと、まさに禅的行持を積み重ねた日々を目の当りにしました。私にとって校長時代の4年間で、学んだことは計り知れません。そして、この時の経験がなければ、今の私は、私たりえなかったと思っています。

そして5年後、今度は大学の学長に就任し90周年記念事業の実行委員長を務めることになりました。校長と学長というまさに2度のご縁をいただいたこととなります。

そして、90周年はゴールではなく、100周年、そしてさらにその先の新しい未来にと向かう通

過点ですから、歩みを止めるわけにはいきません。そのため、就任早々取り組んでいることは大学の改革です。平成25(2013)年度、文部科学省は、私学に対して改革を促すための「総合支援事業」をスタートさせました。これは、全学的な教育の質的転換、地域の発展、学内外の多様な連携、グローバル化の推進などですが、これらの改革に取り組んでいかなければなりません。また学校教育法の改正による大学のガバナンス改革も急務で学内の体制も一新させなければなりません。どれをとっても大掛かりな改革ですが、本学としては、100周年に向かって何としても取り組まなければならない改革なのです。

そして、これからどのような教育をしていくのか、それぞれが教育目標を作成しました。大学は「未来の自分に、今の努力を贈ろう」としました。大学を卒業すれば、その後は、社会人として、自分で自分の道を切り拓いて行かなければなりません。自分の力だけを頼りに進むのです。その道しるべは、自分の中に打ち立てなければなりません。その時のために自分を鍛えよ、今から備えよ、という思いを込めました。

学生や卒業生を全学的・組織的に支援するためにも、この大学改革が実り、100周年には更に良い大学・短大になっていることを願い、精進していくつもりです。

公式マスコットキャラクター 「つるみん」「つるたん」

大学創立50周年・短大部創立60周年を記念して、公式マスコットキャラクターを公募するコンテストが行われ、総選挙の結果、双子の鶴「つるみん」と「つるたん」が誕生しました。

平成24(2012)年度の紫雲祭(大学祭)において盛大にお披露目会が行われ、新聞社や地域情報誌等報道関係の方々取材に訪れました。

兄の「つるみん」は鶴見大学に通う大学生。大本山總持寺に居候中で、趣味は坐禅です。妹の「つるたん」は女子学生寮から短期大学部に通い、日々勉学に励んでいます。



タウンニュース鶴見区版
平成24(2012)年11月1日付



神奈川新聞
平成24(2012)年10月30日付

彼らはオープンキャンパスなどの学内行事のほか、大本山總持寺など地域のイベントやボランティア活動にも積極的に参加し、様々な場面で本学の魅力をアピールしています。



鶴見区との包括連携協定締結式



紫雲祭

大学・文学部

日本文学科

日本文学科は、昭和38(1963)年に久松潜一氏が初代文学部長・学科長を兼ねて設立されました。当初の入学定員は40名でした。平成25(2013)年度は、無事創立50周年を迎えることができました。今年度は創立51年目であり、新しい歩みの第一歩となります。

創立以来、教職員は一体となって日本文学科の整備、発展に努めてきました。入学定員も昭和48(1973)年に100名となり、昭和51(1976)年には150名にまで増員されました。

平成に入ってからは、いわゆる大学改革の方針の下、文学部改組の一環から、平成10(1998)年に文化財学科が設けられた折には定員を120名とし、さらに平成16(2004)年のドキュメンテーション学科の設立時には90名となりました。また、既に男女共学であった歯学部にならない、平成10(1998)年より男女共学になりました。

この間、入試制度の改革も行われてきました。指定校推薦、一般公募推薦、AO入試、センター試験利用入試などが取り入れられました。今年度からは、スポーツ推薦入試が導入されます。

多様な入試制度を導入したこともあり、学生に対する教育改革が必要となりました。カリキュラム改革等を通して、基礎学力を向上させ、それぞれの興味や関心を伸ばすことに努めています。たとえば、1年時に基礎古典、基礎漢文、現代文読解などを履修することからはじめて、講読、演習、講義、そして卒業論文の制作に至る体系的な履修プログラムが整備されました。日本語学、中国文学関係の科目も充実しており、また、専門英語、就職日本語などのキャリア形成にも資する授業も設置されています。書道教育にも力を入れており、毎年3月には学生の作品を展示する卒展が行われています。

日本文学科には、鶴見日本文学会と鶴見大学国語教育研究会の2つの学会が組織されています。鶴見日本文学会では学会誌「国文鶴見」、会報「鶴見日本文学」を定期的に発行しています。また、春秋2回の大会を開催して、学外者による講演や教員、大学院生の研究発表を行っています。昨年秋は50周年を記念して、著名な研究者6名による連続講演会を開催し、盛況をみました(ポスター参照)。また、元教員、現教員、卒業生、在学院生による記念論文集『国文学叢録一論考と資料』(笠間書院)も刊行され、本学科の伝統的学風である文献学的実証主義が結実しました。

国語教育研究会は、教職に就く卒業生を中心に組織されています。発足以来、会報「鶴見大学国語教育研究」を発行していましたが、加えて近年は別巻の「ひろば」を発行し、卒業生、附属中学・高校の教員、県内の高等



国文学演習(上代・中古)授業風景



教職国語科の授業風景



ゼミ旅行

学校の教員の方々による座談会や寄稿を掲載しています。いずれも、教職に就く者のスキルアップと情報交換、また、教職を目指す学生に資することを目的としています。この数年は、毎年コンスタントに数名が教職に就くことができています。なお、日本文学科では、中学・高校の教員免許の他に、図書館司書、司書教諭、博物館学芸員の資格を取得することができます。

附属図書館における日本文学関連の蔵書は、国内有数の充実度を持つに至りました。開学以来の、図書館職員と教員との協力、尽力の賜であります。古典籍や近代文学の原稿等を展示する貴重書展が、年に数回行われています。たとえば、昨年の「新収資料展 風格の古筆手鑑、深奥なる古筆切」は全国新聞に掲載され、大きな反響がありました。

本学科の研究と教育の環境は、全国に誇ることができるものであります。長年にわたって培われたこの財産を十二分に活かしながら、更なる飛躍、発展を期して止みません。



卒業証書授与式



卒業記念パーティー



大学院博士号授与式(前学長、現副学長、指導教授とともに)



創立50周年記念 秋期連続講演会ポスター

英語英米文学科

平成24(2012)年より、英語英米文学科はコース制を取り入れました。これにより、学生は2年次より「英語コミュニケーションコース」「英語文学コース」「英語教育コース」「国際文化コース」の、4つのコースに分かれて、単位履修をすることになりました。また、このコース制に対応するように、カリキュラムの増強を行い、現在コース卒業生に対応した大学院カリキュラム改革に取り組んでいます。

このコース制により、三つのメリットが生まれました。第一に、学生にとって目的意識を明確にした上で無駄なく希望の科目を学べること、第二に教員にとって、学生が時間割りなどの都合ではなく、内容で履修してくれるので、授業の効率が上がったこと、そして三番目が、受験する高校生にとって選択の幅が広がったことです。

また、この十年の間に、英語英米文学科は多くのコミュニケーション関係の強化を行ってきました。短期海外英語研修、短期海外文化研修に加えて、長期留学制度を充実させました。この制度は学生にとって他大学よりも有利な制度を目指して作られました。毎年6名の学生をカナダのリジャイナ大学と、オーストラリアのニューイングランド大学へ送っています。

更には、夏休み中2週間にわたる夏期集中オールラウンドコミュニケーションの授業、土曜日午後2時間にわたる集中TOEICの授業を選択科目として置き、それに対応するために外国人教員も増員しました。

こうした教育をサポートするために、英語英米文学会では従来から行っていた論文集『ツルミ・レビュー』の発行や、講演会の開催に加えて、様々な活動を行っています。英文情報紙、見開き4頁カラー版の『ニュースレター』の年2回の発行、マーティン・コネリー先生とケヴィン・ミラー先生による週4回の「イングリッシュ・カフェ」(学生が自由に研究室に行って皆で先生を交えて英会話を楽しむ時間)、「イングリッシュ・リーダー・マラソン」(5月から12月までの間に読んだイングリッシュ・リーダーの冊数・語数・正確さを競う競技。上位入賞者には賞状と副賞として図書券が授与されます。毎年参加者が増え、レベルも上がっている)、紫雲祭への展示イベント参加「イングリッシュスクエア」等々、様々なサポートを行っています。

更には、文学部創立50周年記念行事として、国際交流委員会や鶴見大学比較研究所との共催による国際シンポジウムの開催、提携大学との学術交流など、国際交流の面でも著しい成果を出しています。

また、コース制に移行するに当たって、従前からのスタッフでも十分カリキュラムに対応できますが、英語教



平成25(2013)年9月25日発行



英語英米文学科 情報紙「ニュースレター」平成24(2012)年5月発行

育学とアメリカ文化研究(アメリカ史)の専門家の採用人事を行いました。先に外国人教員を増員したことに加え、この人事により、コース制の体制が名実ともに整ったと言えます。

最後に、大学院について触れておきます。平成元年の大学院創設以来多くの修了生を輩出してきましたが、大学院生に対するサポート体制もかなり整ってきています。返還の必要のない鶴見大学奨学金、大学院生及び修了生のための論文集『鶴見英語英米文学研究』の発行、「大学院修了生研究発表会」、ティーチング・アシスタント制度など、着々と院生の環境改善に努めてきました。その結果、院生の努力の成果が顕著に上がってきています。

2006年度、博士後期課程修了生、林明江さんはシェイクスピアとジョルダナーノ・ブルーノとの関連を研究した博士論文で、英文学専攻で最初の博士学位取得者になりました。当論文は世界的に高い評価を得て、ケンブリッジ大学及び大英図書館の各委員会で永久保存図書に認定されたばかりでなく、アメリカの世界博士論文機構が10年に一度出す「イギリスルネッサンス演劇」において、論文4万本の中から選ばれた153論文の一つに選出されました。

更に、一昨年博士後期課程を終了した長谷川千春君は、イギリス、バンゴール大学大学院アーサー王文学専攻に留学してMAを取得後、現在は博士論文作成に取り組んでいます。今年度、後期課程を修了した松田卓也君は、フルブライト奨学生に見事合格し、アメリカのテキサス大学大学院に留学中です。また現在後期課程3年の長谷川修平君は、文化研究で、既に3冊の研究書(電子書籍)を発行しています。

昨今、どこの大学院でも入学者が激減していると聞きます。我が大学院も入学者こそ少ないですが、豊かに大輪の花を开花させています。



大学院生及び修了生の論文集 平成26(2014)年3月発行



英語英米文学科 情報紙「ニュースレター」平成26(2014)年6月発行

文化財学科

教育課程

文化財学科は平成10(1998)年に文学部に設置されました。貴重な文化財を後世に伝えるための基礎から応用までを学び、文化財の調査・研究や保護・修復を担当する専門家を育成するため、次の四つの柱をその教育課程の基本的な考えとしてきました。

- ①建学の精神に則り社会人としての広い教養の育成。
- ②多様な内容をもつ文化財に対する理解と幅広い視点。
- ③学外の社会にも目をむけた実習を中心とする実物教育。
- ④深い専門性と幅広い選択の可能性。

①を実現するために共通科目として、建学の精神を具現する「宗教学」を必修にすえ、その他に必修として「日本語」をはじめとして、「体育」、「英語」等を課し、その他数多くの共通科目より自由に幅広く選択できるようにしています。

②を実現するために、入学後、早い時期に文化財についての基礎的知識と研究の進め方を学ぶ「文化財研究法」(オムニバス方式)をおいています。そして、文化財を生み出す背景をなす科目である「考古学」・「文化人類学」・「地理学」を設け、さらに文化財を活用するための「博物館概論」・「博物館経営論」、歴史の基本である史料を読み込むための「歴史資料講読」。以上、7科目の基礎概説科目を必修とし、一部に片寄らない基礎的素養を身につけさせると共に幅広い視点を学生に与えるようにしています。

③を実現するために、1年次から4年次にわたって実習科目をすべて必修としておいています。文献資料・物質資料についての調査・研究方法から資料の取り扱いなどの技術的な面にもふれ、さらに文化財の保存・修復の実技・実験や、文化財の実物を学外に巡検するなど、幅広い内容を含めています(後述)。また、3年生の後期から4年生にかけて演習科目をおいています。学生は指導教員のもとで自己の専攻を深めつつその成果を発表し、最終的にはそれを卒業論文として提出しています。

④を実現するために、専門の選択科目を専攻科目と名づけ、学生の将来の進路や知的探求心の系統づけをはかる3つの系列を設けています。一つは歴史・地理系列(文献資料を主な研究手段とする科目群)。そして考古・美術系列(物質資料を主な研究手段とする科目群)。さらに文化財系列(文化財の科学的特性と文化史的背景を学ぶ科目群)。それぞれの系列に10科目ずつ配置しています。学生は自己の専攻する系列より8科目以上を、他の系列より各3科目以上を履修することで、幅広い選択が可能とされています。この専攻科目(専門選択)を3系



実習ⅠB 考古学資料の整理



実習ⅡA 古文書の修復



実習ⅡB 遺跡の発掘と整理



実習ⅢA 分析・保存科学

列に分けて学ぶことが文化財学科の一つの大きな特徴になっています。

実習科目

専攻科目と並んで、文化財学科の大きな特徴として上記③で記した実習科目を挙げるができます。実習科目は全て必修とし、平成26(2014)年度は次のように1年次から4年次まで設けています。

- ・実習ⅠA (1年生前期・集中) 近隣の文化財巡検
- ・実習ⅠB (1年生後期) 考古学資料の整理
- ・実習ⅡA (2年生後期) 古文書の修復
- ・実習ⅡB (2年生夏期集中) 遺跡の発掘と整理
- ・実習ⅢA (3年生前期) 分析・保存科学
- ・実習ⅢB (3年生夏期集中) 美術品の扱いと展示
- ・実習Ⅳ (4年生夏期集中) 遠隔地の文化財巡検

実習ⅠA: 春の一泊見学旅行や、鎌倉の古社寺・横浜の開港関係地、遺跡や博物館などを見学し、毎回レポート提出を課しています。

実習ⅠB: 弥生式土器の模造品を接合して完全な形にし、その後、図面を取り、拓本で文様を写し取り、大型カメラで撮影して、出版物の原稿を作成するまでの流れを学びます。

実習ⅡA: 史料の扱い方、写真撮影や調書の作成、さらに虫喰いの穴の「繕い」や「裏打ち」など、修復技術までを実習します。

実習ⅡB: 専用の実習場(鶴見大学女子寮のグラウンド)に埋まった弥生期の竪穴住居址を掘り出し、測量機器を駆使して精密な図面を作成します。

実習ⅢA: 実体・電子顕微鏡、赤外線、X線透視検査装置・蛍光X線分析装置で資料の形状や成分を分析したり、金属遺物、木製遺物の樹脂含浸保存処理を実習します。

実習ⅢB: 掛け軸や工芸品の取り扱いと共に、保管管理法・展示解説法を学びます。さらに、展示・公開されているところの現地見学も二泊三日で行っています。

実習Ⅳ: 夏休みに集中で一週間30時間の遠隔地の文化財巡検をおこない、報告書を提出しています。国外コース・国内コース・自主コースの中から各自選択。自主コースでは、これまでに四国八十八カ所踏破、会津塗り工房体験、伝統的建造物群の宿場探訪、出雲大社周辺神話めぐりなどユニークなものがありました。国外コースは、中国・台湾・カンボジア・インド・イタリア・チェコ・ハンガリー・ドイツなどを今までに訪問。国内コースでは、沖縄のグスク群や石見銀山などの世界遺産、北海道や九州、四国の史跡などを巡っています。

おわりに

文化財学科も今年で17年目を迎えました。卒業生は現在各方面で活躍しています。その中には学科で学んだ実習などを生かして文化財関係に就職している者が多くいます。学芸員、教員、古文書修理師、埋蔵文化財調査員の他、民間企業の発掘調査員、漆研究の知識を活かす仏壇仏具企業、文化財調査に必須のハケの専門メーカー、日光東照宮の修理、博物館の陳列ケースの専門メーカー、イタリアでの絵画修復等々。

文化財学科は、実物・実地・実体験主義のもと「歴史・美術・考古・保存科学」を総合し、貴重な文化財を後世に守り伝える学識と技を学ぶことを主眼においています。それを支える基盤となるものが、建学の精神で謳うところの「大覚円成・報恩行持」—感謝を忘れず真人となる—です。常識をわきまえた人格形成の育成と相俟ってはじめて知識と技術が本来の使命を果たすわけであり、そこに本学文化財学科の目指す教育があります。



実習ⅢB 美術品の扱いと展示



実習Ⅳ 遠隔地の文化財巡検(国外)

ドキュメンテーション学科

学科の設立から10年

ドキュメンテーション学科は、10年前の創立80周年の年に新設され、この90周年に学科は10周年を迎えることになりました。

学科設立の趣旨には、従来の図書館情報学では十分ではなかった文献資料そのものの専門教育の強化と、それらを効率的に扱うための先端的人文系情報処理学の専門教育の強化が謳われています。さらに専門教育において英語教育の充実を目指すとしています。

設立当初は、2つのコースが設置され、古典籍の教育を充実させた「ライブラリーアーカイブ」コースと、情報処理技術の教育を充実させた「デジタルドキュメンテーション」コースのいずれかを3年次に選択し、卒業論文に向けて専門的な教育を受ける体制がとられていました。学科設立の趣旨には、2つのコースで学ぶ専門知識にとらわれない柔軟な学習を学生に期待するとされています。これまでの卒業論文で扱われてきたテーマは既存の学問領域をまたぐものが数多く、学生は時代に即した新しい知識の塊を自ら求めて身につけているようです。

卒業生の就職先は多岐にわたり、学科設立当初の思惑にあったIT関連企業への就職数は順調に伸びを見せ、とりわけ他学科と比べて女子学生のIT関連企業への就職率は高くなっています。また、図書館情報学を柱とする学科の理想的な進路である司書として活躍する卒業生は確実に数を増やしています。

設立から10年の間に、大きくカリキュラムを改訂しています。これは、学科に所属する教員が岡田靖先生（現名誉教授）以外は学科設立後に着任した者で、設立時の苦勞に無知であったことから、このような大胆で無遠慮な改訂を実施してしまいました。多少の言い訳をすれば、企業出身者が構成人員の半数を超えていたことから、柔軟な変革を好む雰囲気があったことも背景としてあります。設立5年目の平成20（2008）年には、既存の学問領域を名称に冠した「図書館学コース」「書誌学コース」「情報学コース」の3コース体制を採り、それぞれの専門領域の教員を担当者として配置しました。但し、学科設立の趣旨にある既存の学問領域を超えて知識を学ぶ姿勢は継承し、コース選択、卒業論文の指導教官の選択、卒業論文のテーマのいずれにおいても柔軟に対応し、学生が希望する新しい知識領域の学習・指導機会を妨げない体制を採っています。

変容の伝統

設立5年目にカリキュラムを大改訂するなどの大胆な変化を積極的に進めてきたドキュメンテーション学科

は、歴史のない学科であることを逆手に、変容を特色としてきました。

平成16（2004）年から国際セミナーを開催し、海外の教員や司書の方を招いて講演会を開いています。学科の資源は少ない中、学生が海外の研究者・司書の方との交流の機会を得られるよう努力をしています。

平成17（2005）年にはA4フルカラーの学会報「Documentation」を創刊し、年2回を原則にこれまで17号を発刊しています。学科の名称に恥じない出版物となるよう企画・意匠において努力を続けているつもりです。この学会報は、大学関係者の他、全国の高校にも配布し、新しい図書館情報学を高校に伝えるほか、学科の案内としての役割も果たしています。

平成18（2006）年にはインターンシップを授業として始め、企業経験者の教員を中心に事前指導が行われ、就労体験の後には、受け入れ企業からの招待者を迎えて報告会を開催しています。この一連のインターンシップの教育体制は、現在、入試キャリアセンターで実施されているインターンシップのモデルになっています。

平成19（2007）年からは学科から提案する出張講義の一覧を作成し近隣の高校に案内をしています。それまでは企画会社が主催する説明会を利用して授業や研究の案内をしていましたが、平成20（2008）年に初めての要請を受けて以来、毎年高校から直接の依頼を受けています。現在、このような提案型の出張講義は、文学部全体で導入されています。

平成20（2008）年から、オープンキャンパスの日を利用して、学科で学ぶ知識に関する展示を開いています。手で触れる機会がないであろう古典籍の展示は、高校生にとっては印象が強いようで好評を得ています。その他にも、機械式の計算機、活字による印刷体験、レファレンスサービス体験など、工夫を凝らした展示が続いています。

平成21（2009）年から、高校生を対象として、司書の仕事を大学図書館を例に体験してもらう図書館探検を、図書館と共に開催しています。図書館の内部を巡るツアーは一般でも人気が高い企画であり、司書に興味を持つ高校生からは相当の好評を得ています。高校2年生の時に参加し、その後本学科に進学した学生もいます。

平成24（2012）年から、台湾にある世新大学との相互インターンシップが始まり、毎年平均で10名程の学生が相互に交流を重ねています。この国際インターンシップの効果は絶大で、それまでは英語学習の動機付けに苦勞をしていた学生が、切実に英語を学習したいと発言するようになっています。学科設立の趣旨にある英語教育の

充実という目標の実現に、この国際インターンシップは相当の貢献をしています。

教育体制

現在、7名の専任教員と2名の実習技術員が指導にあっています。学科設立の平成16（2004）年からは岡田靖、長塚隆、原田智子、堀川貴司、伊倉史人、大矢一志と実習技術員の山川恭子が担当しています。平成17（2005）年に元木章博が着任し7名の教員が揃いました。平成21（2009）年に実習技術員の宮崎絹子が着任、平成22（2010）年に堀川貴司先生が慶應義塾大学に転任され、久保木秀夫が着任、平成24（2012）年には岡田靖先生が退職、名誉教授になられ、角田裕之が着任し、現在の体制になっています。また、英語教育においては、英語英米文学科の先生方に、学科設立以来、多大なご協力を頂いています。

教育資源の充実は、設立10年目においてもいまだに大きな課題です。電子機器類は3年も経てば一線では使えなくなることから、資産の積み上げが難しく苦勞を重ねていますが、学科で管理する古典籍の点数は確実に増えており、現在200点程の古典籍が学科の資産として授業や展示に活用されています。

図書館学コース：学科設立時から、入学者の7割近くが図書館学に興味を持つ傾向にあり、学生が自ら望む学習領域をわかりやすく選択できるよう、平成20（2008）年のカリキュラム改訂時に、名称に「図書館学」を入れたコースを用意しました。図書館学一般の授業に留まらず、「記録管理論」などの授業も開講しています。

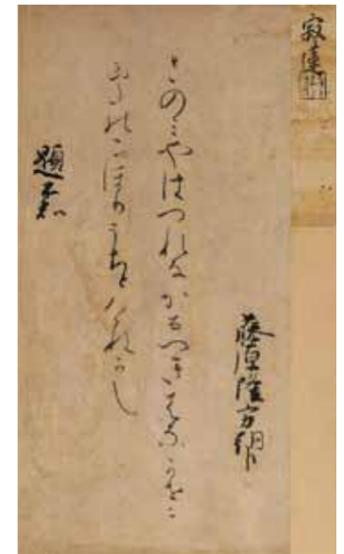
書誌学コース：図書館が誇る貴重書や学科が保管する古典籍を教材として使う授業を多く展開し、図書館において指導的な立場で資料を扱うことの出来る専門家を育てています。現在では、他大学からも、まっとうな書誌学を学ぶことが出来る数少ない学科として高い評価を得ています。

情報学コース：学科設立当初から、高校の教科情報の教諭免許を取ることができるコースとして設置されていた「デジタルドキュメンテーションコース」を解消し、カリキュラム改訂時に発展的に設けられたコースです。情報処理の対象は日々拡大し続け、文学部においても例外なく、コンピュータの導入が欠かせなくなっています。文学部ならではの情報教育に力を入れています。

これからの10年

来年の平成27（2015）年には、7名の教員のうち2名が定年退職、新任教員2名が着任し、学科設立以来の大

きな変革の年を迎えます。この変革をスイングバイとして利用し、今後も新しい活動を積極的に大学に提案、率先して導入する学科として成長を続けてまいります。



伝叙蓮筆「新古今集」断簡



国際交流



電子化授業風景

源氏物語研究所

古典中の古典『源氏物語』と本学との縁は、文学部設立当初に遡ります。初代文学部長であり後に文化功労者となられた久松潜一博士を会長とする紫式部学会事務局が、日本文学研究室に置かれ、本学は『源氏物語』研究と啓蒙活動の一拠点として、専門家のみならず広く一般市民にも知られるようになりました。久松博士の蒔かれた古典研究の種子は、池田利夫博士（本学名誉教授）のもとで芽吹き、大きく育てられました。昭和51（1976）年源氏物語研究所の設立を教授会決定、以来40年以上にわたる体系的かつ学術的目配りの利いた集書活動は、本学の名を高からしめる重要な力となり、定期的公開によって学生や地域住民への古典知識普及も果たされています。

研究所の主要活動は、まず第一に良質の古典籍を蓄積することにあります。それこそが研究の揺るぎない基盤を形成するという理念から、『源氏物語』の本文・古注釈・様々な享受資料および関連の諸文献にも目配りして、善本や学術的価値の高い貴重書を収集、全国的に知名度の高いコレク



蒔絵箱入り源氏物語

ションが形成されました。特に古筆切は他大学・他機関に殆ど例を見ない分野として、注目度の高いものです。これらを教育・研究に活用するため、書誌学的・文学的解題も並行して進められています。

第二に、展示による古典籍公開があります。平成15（2003）年度「源氏物語—書物の魅力—」より毎年1月～2月に『源氏物語』を主題とする展示を行っており、すでに新年の恒例行事として定着し、地域の方々や研究者、高校生の来訪もしばしばです。展示に際しては解題目録を刊行し、学会からの評価も高く、平成17（2005）年からは、図書館と協力して「源氏物語扇面貼交屏風」の卒業記念展示も継続的に実施しています。

さらに第三の事業として、『源氏物語』を主題とする講演会を主催もしくは共催し、幅広い聴衆を集めています。特に平成19（2007）年6月、秋山虔先生（文化功労者・東京大学名誉教授・紫式部学会会長）をお迎えしての講演会と源氏物語研究所の集書展示には、会場に入りきれない来訪者のために、臨時の席を設けるほどの盛況でした。平成24（2012）年9月9日には、大学創立50周年記念事業として、「源氏物語の小さな講座」と展示「源氏物語の古筆切」を紫式部学会と共催しました。

第四には、平成23（2011）年3月『年報』を創刊、広報活動の一環であると同時に、貴重書要目を掲載して集書の記録としています。研究所で集めた古典籍の中から注目すべき書物を選び、やや詳しい書誌学的解題を行い、

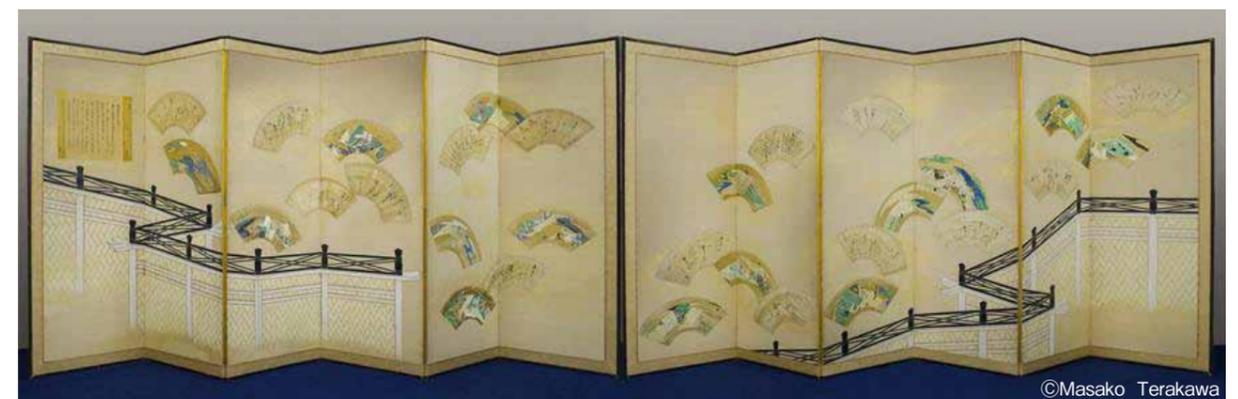
また『源氏物語』の読みに関する問題点をわかりやすく解説した記事を掲載するなど、掌篇ながら学術上の意義を高く持たせたものです。毎号巻頭には当代最高水準の研究者に寄稿を依頼し、現在第4号を編集しています。着実な土台の上にも、研究は大きく開花します。古

典籍の収集と調査と言う地味な、しかし肥沃な土壌を基盤として、従来の活動を継承発展させると共に、今後も節目ごとに種々の企画立案を行いたいです。

（図版：蒔絵箱入り源氏物語・源氏物語扇面の小さな講座」ポスター・『年報』創刊号・）



年報「創刊号」



源氏物語扇面貼交屏風

©Masako Terakawa

比較文化研究所

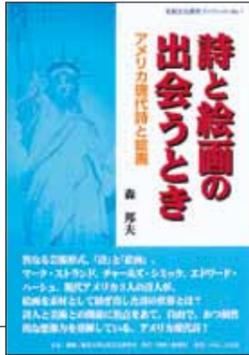
平成9(1997)年4月に正式開設された比較文化研究所は平成26(2014)年に設立18年目を迎え、所員数は21名です。所員は、英語英米文学科11名、日本文学科6名、文化財学科3名、ドキュメンテーション学科1名で構成されています。所長は現在3代目の富岡悦子教授です。

主要活動は、年1回の紀要の発行、同じく年1回のブックレットの出版、比較文化関連の図書の収集、シンポジウム、講演会の企画です。比較文化研究の発表の場としての紀要「比較文化研究」は平成26(2014)年3月には第16号を発行しました。また、啓蒙書として所員が執筆する「比較文化ブックレット」は第12号を平成26(2014)年3月に神奈川新聞社から出版しました。平成14(2002)年度の創刊号からのタイトルは以下の通りです。(著者敬称略)

- 創刊号 森 邦夫『詩と絵画の出会いとき ~アメリカ現代詩と絵画~』
- 第2号 富岡 悦子『植物詩の世界 ~日本のこころ ドイツのこころ~』
- 第3号 加川 順治『近代フランス・イタリアにおける悪の認識と愛』
- 第4号 相良 英明『夏目漱石の純愛不倫文学』
- 第5号 三宅 知宏『日本語と他言語 【ことば】のしくみを探る』
- 第6号 大崎ふみ子『国を持たない作家の文学 ユダヤ人作家アイザック・B・シンガー』
- 第7号 吉村 順子『イッセー尾形のつくり方ワークショップ 土地の力「田舎」テーマ篇』
- 第8号 加川 順治『フランスの古典を読みなおす 安心を求めないことの豊かさ』
- 第9号 大矢 一志『人文情報学への招待』
- 第10号 相良 英明『作家としての宮崎駿 ~宮崎駿における異文化融合と多文化主義~』
- 第11号 吉村 順子『森田雄三演劇ワークショップの18年』
- 第12号 岩間 正則『PISAの「読解力」調査と全国学力・学習状況調査 一中学校の国語科の言語能力の育成を中心に』

多岐にわたる比較文化関連の図書の収集も研究所の重要な活動の一つです。主に明治時代に出版されたりめん本の収集も続けています。また、平成24(2012)年6月には、本学と提携するカナダのリジャイナ大学シルヴァン・ロー准教授を中心に国際シンポジウム「Mangaとグローバル文化」を文学部英語英米文学科と共に開催しました。平成26(2014)年11月には、本学英語英米文学科から毎年留学生を送っているオーストラリアのニュー・イングランド大学より講師を迎えて比較文化をテーマにした講演会開催を予定しています。

●詩と絵画の出会いとき
平成14(2002)年
森 邦夫 著



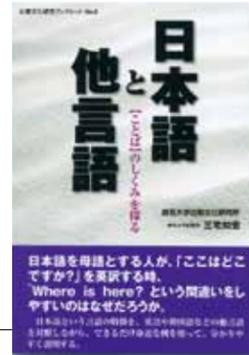
●植物詩の世界
平成16(2004)年
富岡 悦子 著

●近代フランス・イタリアにおける悪の認識と愛
平成17(2005)年
加川 順治 著



●夏目漱石の純愛不倫文学
平成18(2006)年
相良 英明 著

●日本語と他言語
平成19(2007)年
三宅 知宏 著



●イッセー尾形のつくり方ワークショップ
平成21(2009)年
吉村 順子 著

●人文情報学への招待
平成23(2011)年
大矢 一志 著



●森田雄三演劇ワークショップの18年
平成25(2013)年
吉村 順子 著

●国を持たない作家の文学
平成20(2008)年
大崎 ふみ子 著



●フランスの古典を読みなおす
平成22(2010)年
加川 順治 著

●作家としての宮崎駿
平成24(2012)年
相良 英明 著



●PISAの「読解力」調査と全国学力・学習状況調査
平成26(2014)年
岩間 正則 著

大学・歯学部

歯 学 科

この10年間に於いて、鶴見大学歯学部は全国的な教育改革と自主努力としての教育改革、そして組織改革を行って来ました。

全国的には、臨床実習を行う学生の知識、技能、態度を担保するための共用試験が、公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構により、全国の医学部、歯学部で行われています。歯学部は平成14(2002)年にトライアルが行われ、平成17(2005)年から正式実施となりました。共用試験は知識を評価するコンピュータを用いた試験(Computer based testing: CBT)と技能、態度を評価する実技試験(Objective structured clinical examination: OSCE)からなっています。CBTは、学生たちは蓄えた知識を振り絞ってコンピュータに1日中向かいます。OSCEは歯学部教職員が総出で、課題に向かう学生のために準備し、運営し、評価し、撤収します。学生は厳粛な態度でこれを受験します。トライアルから12年間、厳粛に実施して来ました。

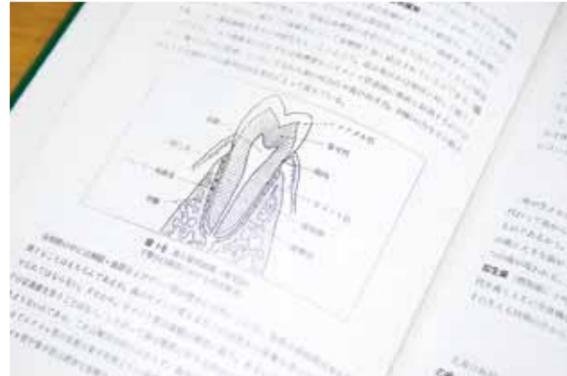
このような試験を行うにあたって、歯学教育モデル・コア・カリキュラムが作られました。これは、各大学で共通に教育する基準を示したものです。この内容を教育内容に含んでいるかを確認し、カリキュラムとシラバスを整えました。現在は数回の点検を経て、日々の講義、実習が行われています。平成18(2006)年からは歯科医師卒後研修が法制化され、歯科医師養成は、卒前から卒後までシステムが変革されました。

カリキュラムでは、今や、本歯学部の特徴の1つとなった、医療人間科学が平成16(2004)年から開講しました。そして入学直後から、建学の精神を始めとする、歯学部教育理念、總持寺の理念やコミュニケーション、理想の歯科医師をグループで考える、学習のしかた等を教育する特別研修が平成18(2006)年にスタートし現在まで続いています。

また、新入生が歯科医師を目指すモチベーションを育むため、専門基礎科目:歯の解剖学と専門科目:歯型彫刻実習を1年生から開始しました。さらに、歯科医学概論、歯科医学史を復活しました。結果的に歯科医師国家試験出題基準に対応することになりました。

講義は1時限80分を導入し、集中力の向上に努めました。ここには書けなかった様々な改革を教職員は一丸となって遂行してきました。これを、鶴真会、同窓の皆様を支えていただきました。

文部科学省の要請と受験者の減少に対して入学定員の見直しと歯学部組織の再編という大きな負担を実行しました。次の10年はこのような負の要因ができるだけ少なく、より良い教育のために発展していけることを願いま



基礎実習

す。最後になりましたが歯学部の教育理念を掲げて結びといたします。

鶴見大学歯学部は建学の精神に基づき、深い教養と良識を備えた信頼される優れた歯科医師の育成を使命としています。

次のような人材の育成を目指しています。

- ①創造性に富む総合的な歯科医療を実践し、地域医療に貢献する人
- ②医療人としての人格を形成し、コミュニケーション力に優れ、他者を思いやる心を忘れない人
- ③最新の歯科医学を求める研究心を持ち続け、国際的に活躍できる人
- ④専門の知識だけでなく、幅広い教養を身につけた人
- ⑤様々な局面における問題点を発見し解決する能力を持つ人



歯形彫刻



模型実習



修復講義

教育課程

本学の建学の精神に基づき、教養と良識を兼ね備えた信頼される歯科医師の育成を目指したカリキュラム編成を行うことにより、歯学教育の質向上に努めています。

1年次では人文科学、自然科学、一般教育科目を中心に、医療人として必要なコミュニケーション力と深い慈愛をもった人格形成を目的とした「医療人間科学」を学修します。また、「歯の解剖学」、「歯型彫刻実習」を開講し、入学早期から歯科の専門分野に触れさせ、感興を刺激しています。特に歯型彫刻実習ではデジタルテクノロジーを駆使して、CADによる歯型のデザインングを修得させ、今後の歯科医療に欠くことのできないパソコン操作にも力点を置いたカリキュラムとなっています。

2年次では従来からの基礎医学を徹底して学修するとともに、後期には各実習を実施し、知識の定着を図っています。また医療人間科学実習を継続して医療人としての成長を促すとともに、「歯科医学概論」、「歯科医学史」を開講し、歯学および歯科医療の全体像を把握し、専門課程に進学することになっています。

3年次では前期まで継続する基礎科目と並行し、歯科臨床科目の講義と実習がスタートして基礎知識と技術を習熟させています。

4年次では総合歯科医学Ⅳを通年制とし、共用試験CBTに対応する知識の整理を図るとともに、臨床科目の基礎実習を反復し、共用試験OSCEに向けた態度教育、技術教育を行っています。

5年次では8大学連携授業として、口腔疾患と全身の健康を関連づけたTV授業をスタートさせました。また現在も診療参加型臨床実習を継続し、実際に患者の治療をするだけでなく、ケースプレゼンテーションや簡単な技工物の製作等も行っています。

6年次の前期も臨床実習を引き続き実施することにより、多数の症例を経験させ、知識の蓄積と問題解決能力を養っています。後期には6年間の学修成果の総まとめである「統合歯科医学」を開講し、3回の試験を実施して卒業判定を行っています。

一方、1～4年の向上心ある成績優秀者に対しては、前期定期試験の追・再試験期間中にアドバンスゼミを開講し、各講座の基礎研究や勉強会に参加することにより、研究マインドを醸成し、将来リーダー的役割を担う歯科医師の育成に努めています。



病理学講義



理工学実習



生化学実習



矯正学実習



心肺蘇生実習



修復実習

平成26年度歯学部授業科目

心理学	地域歯科保健学
物理学	衛生・公衆衛生学
有機化学	衛生学・口腔保健学実習
基礎化学	保存修復学
細胞生物学	保存修復学実習
ヒトの細胞遺伝学	歯周病学
発生学	歯内療法学
化学演習	歯周病学実習
生物学演習	歯内療法学実習
基礎生物学	部分床義歯補綴学
動物学実験	部分床義歯補綴学実習
医療における社会行動学	歯型彫刻実習
日本語コミュニケーション	クラウンブリッジ補綴学
超高齢社会と歯科医学	クラウンブリッジ補綴学実習
歯科医学英語	全部床義歯補綴学
実践歯学英語	全部床義歯補綴学実習
英語	口腔外科学
ドイツ語	歯科麻酔学
保健体育講義	歯科矯正学総論
体育実技	歯科矯正学各論
統計解析	歯科矯正学実習
情報処理	口腔顎顔面放射線学
歯科医学概論	口腔顎顔面画像検査学
歯科医学史	口腔顎顔面画像診断学
解剖学総論・骨学	小児歯科学総論
人体解剖学	小児歯科学各論
頭頸部解剖学	小児歯科学実習
歯の解剖学	高齢者歯科学
人体解剖学・頭頸部解剖学実習	内科学
組織学	外科学
口腔組織学	耳鼻咽喉科学
組織学・口腔組織学実習	眼科学
一般生理学	皮膚科学
循環・呼吸の生理学	精神科学
口腔生理学	小児科学
生理学・口腔生理学実習	産婦人科学
一般生化学	歯科法医学
口腔生化学	リメディアル演習
分子生化学	情報リテラシー
生化学・生化学実習	医療人間科学
一般病理学	医療人間科学実習
口腔病理学	社会歯科学
病理学・口腔病理学実習	歯周病の基礎と臨床
基礎・一般微生物学	齶蝕学
口腔微生物学・基礎免疫学	加齢の科学
微生物学・口腔微生物学実習	有病者・障害者歯科学
薬理学	救命救急歯科学
歯科薬理学	咬合学
薬理学・歯科薬理学実習	口腔顎顔面インプラント学
歯科理工学	統合臨床基礎実習
歯科理工学実習	臨床実習
口腔保健学	総合歯科医学

臨床実習

鶴見大学歯学部の特徴のひとつである「診療参加型臨床実習」は、本学科開設以来継続しており、実際の患者さんの治療に加えて手術見学などを行いながら、歯科医師としての臨床技能を磨きます。

現在の臨床実習は、これまでの登院試験に相当する「共用試験」として実施される CBT（知識の評価）と OSCE（実技と態度の評価）の両者に合格し、登院を許可された学生のみが参加できる実習としての位置づけになります。

また、平成22（2010）年度文部科学省「歯学教育モデル・コア・カリキュラムの教育内容ガイドライン」を受け、平成23（2011）年度から臨床実習のシステムを改変いたしました。

臨床予備実習（ポリクリ）は約3ヶ月間のカリキュラムとし、臨床シミュレーション実習、口腔外科模型実習、各科見学・実習（補綴、保存、口腔外科、矯正科、小児歯科、放射線科、麻酔科、高齢者歯科）、プロフェッショナルリズム、治療計画立案実習、実践医療コミュニケーション講義・実習、災害歯科医学、探索歯科学講義を設け、歯科医師として必要な素養や臨床技術を学びます。

臨床実習では保存・補綴領域における合理的な臨床能力向上を目的に、見学、介助、自験の3段階のステップを各臨床術式に設けました。総合ポイント制度や、臨床各科の実習（口腔外科、歯科矯正、小児歯科、麻酔科、高齢者歯科、放射線科、内科）はこれまで通りですが、卒前教育にインプラント実習や、社会貢献プログラムとしての安全保障や難民治療など、新しい分野が加わりました。

臨床実習の重要課題となっていた教授診断は、一年間担当した患者様の治療内容に関して、保存、補綴の各教授を前にした個々のプレゼンテーションへと形を変えました。患者様とのコミュニケーション能力や、保存、補綴領域に関する臨床技能の評価試験が導入され、他大学と比較しても、質量ともに充実した臨床実習となっております。

一方で、年々難易度が増す歯科医師国家試験への対応として、月・土曜日には、解剖学、薬理学、生化学、細菌学、理工学といった基礎分野から、各臨床の一般問題、臨床実地問題に至るまでの講義と試験を常時行うこととし、歯科知識教育に充当する時間を設けております。

鶴見大学の伝統である臨床実習教育は、従来より継続してきた診療参加型の良い面を十分に生かし、「良き臨床医の育成」を目指し、実施されております。



治療説明



口腔内診査



口腔外科手術見学



総合診断



初診科実習



登院式



技工（ワックスアップ）



放射線科ディスカッション

鶴見歯学会

昭和50(1975)年7月5日に鶴見大学歯学会第1回総会が開催されてから、平成26(2014)年6月28日で第40回総会を迎えます。現在の会員数は2,157名です。学会長も初代の石川堯雄会長から数えて現在の小林薫会長で10代目となります。本学会の歩みについては、鶴見大学創立十周年、二十周年、三十周年記念誌の中でふれてきたので、本稿ではそれ以降の活動内容を中心に述べます。

学会活動としては、年1回の総会と2回の学術例会を行っており、平成26(2014)年6月には第79回例会を開催しました。各例会では、一般口演、ポスターセッションに加えて、新しく着任された教授による教育講演をお願いしています。歯学会の会員は、基礎医学から臨床にいたる幅広い分野の研究者によって構成されています。このような学内学会は、他分野にまたがる幅広い情報を収集できる場であると同時に、学内の研究動向を知り、共同研究を推進するという利点をもちます。例会以外にも、学会主催による講習会や講演会を随時企画しています。学会事業に宿題研究制度がありますが、この制度は平成22(2010)年度に特別講演というかたちに衣替えされ、平成24(2012)年度

までに計28名の教授に、研究補助金が供与されています。本制度では、本学の研究向上を目的として、それまでに行った研究成果を集大成し、例会で発表するとともに、本学会誌である「鶴見歯学」に論文を掲載することになっています。学会活動の大きな柱の一つが、学会誌「鶴見歯学」の刊行です。本誌は年3回刊行していましたが、投稿論文数の減少もあり、平成26(2014)年度から年2回の刊行に変更されることになりました。平成16(2004)年度に設立された「学術奨励基金制度」は、学術論文賞と研究助成金からなります。学術論文賞は、「鶴見歯学」に掲載された基礎系、臨床系論文のうち特に優れている論文各1編に授与されます。研究助成金は、学内における共同研究の推進と若手研究者の育成を目的としてつくられた制度で、毎年、数件のプロジェクトに与えられていますが、平成26(2014)年度は9件が採択されました。平成23(2011)年度からは、平成11(1999)年度以来積み立ててきた「記念事業積立金」を原資として、国際ボランティア活動の支援、姉妹校との国際交流支援を行っています。平成26(2014)年度には、さらに「ヒポクラテスの木の移設事業」などを行う予定です。



学会誌「鶴見歯学」と例会プログラム



第79回例会発表風景



第72回例会での記念撮影



大学会館メインホールにて

ハイテクリサーチセンター

ハイテクリサーチセンターの一端である顎口腔機能高次元解析室では、顎口腔領域疾患の三次元解析による新しい診断法や、顎口腔領域の運動を再現する多次元シミュレーションロボットの開発など、さまざまな先端的研究が進められています。本解析室は、2005(平成17)年度から5年間、文部科学省の「ハイテクリサーチセンター整備事業」として選定され、慈恵会医科大学高次元医用画像工学研究所との共同開発事業開始に伴い、鶴見大学3号館に設立されました。この解析室では、CTやMRIから得られた人体の画像データを、専用ワークステーションによってバーチャル空間上で三次元に再構築

した後、運動情報を統合し、下顎運動の解析や咀嚼筋の動態解析(四次元下顎運動解析システム)を行うことが可能であります。また、ラピッド・プロットタイピング・システムを用いて実体モデルを製作し、マニピュレーターを介して運動情報を統合することで、人体の動きを正確に再現可能な高精度顎運動再現ロボットの応用などに取り組んでいます。さらに、歯工連携を通じて、新たな顎口腔機能検査システムや歯科診療ナビゲーションシステムの臨床応用、デジタルデンティストリーに向けた研究開発を行っています。



ハイテク3次元構築



MRI

大学院

文学研究科

大学院文学研究科は、まず平成元(1989)年に日本文学専攻・英米文学専攻の修士課程、次いで平成6(1994)年に日本文学専攻博士後期課程、平成9(1997)年に英米文学専攻博士後期課程が設置され、さらに平成14(2002)年には、文化財学専攻博士前期課程・後期課程の増設をみました。学問研鑽の場として、また専門性を生かした職業人育成の機関として、内外の要望に応えるものであります。

いずれの専攻も、資料それ自体の精密かつ多角的検討や、対象の個性に即した堅実な実証的研究を特色とし、社会に貢献し学界に寄与すると共に、研究者として自立しうべき人材の育成に努めています。平成24(2012)年には、開設以来初めてドキュメンテーション学科の卒業生を受け入れ、大学院運営に新局面を迎えたと言ってよいでしょう。次に、各専攻の特色をやや詳しく述べておきます。

○日本文学専攻

- 1) 文献資料に対する書誌調査・本文比較・注釈・伝記考証等、徹底した実証的研究を軸とし、作品分析や作家論に及ぶ。
- 2) あらゆる時代の日本文学に関し、古典籍・自筆原稿・初版本等の基礎資料収集に根ざした原典重視の教育と研究を行う。
- 3) 思想・言語・国史・古筆・美術等の関連諸領域へも幅広く目配りし、斬新高度な研究をめざす。

○英米文学専攻

- 1) 英米文学・英語学の正統的方法を基礎とし、各時代・地域の文学及び語学を個別具体的に研究する。
- 2) 英語教育や文化史、あるいは実用的な語学等、伝統的研究の周辺分野にも柔軟に対応する。
- 3) 近代日本文学に対する英米文学の影響や、ヨーロッパ・アメリカ・カナダ等、諸国文化間の相互関連を比較文学の手法で解明する。

○文化財学専攻

- 1) 文献史学・考古学・美術工芸・保存科学の諸分野それぞれが独自の研究を進展させ、同時に相互連携を図りつつ、新たな学問領域を開拓する。
- 2) 美術工芸の分野では実技も重視し、観念的な議論に終わらない技法や素材に密着した研究を行い、着実な成果をあげている。
- 3) 保存科学では、専攻に設置された高機能の分析装置のみならず、歯学部最新の最新機材をも活用し、他大学

にはない独自のアプローチを展開する。

これらの特色ある研究指導の結果、大学・高校の教員や博物館学芸員、海外で活躍する研究者等、多彩な人材を生み出しています。具体的な成果の一つとして、学位(博士)取得者の輩出が挙げられるでしょう。博士論文の題目は、以下の通りです。

○日本文学専攻

『曾我物語』研究—その生成をめぐって—
『源氏物語』表現の基層探求
『青鞥』における作家と文学
中期の芥川文学—中国物を中心として—
京極派和歌の基礎研究
有島武郎研究
平家物語の研究史と考証

○英米文学専攻

Shakespeare and the Sindy Circle;Giordano Bruno's Influence in Renaissance England

○文化財学専攻

日本鮫皮工芸の研究
中世鎌倉の町屋研究
鎌倉の「やぐら」に関する研究
八橋蒔絵硯箱の復元的研究

学位取得者は、国内大学教員の他、研究機関に所属してさらなる進展を目指す者や、外国の大学でグローバルに研究成果を生かす者など、めざましい活躍を続けています。今後も着実に堅実な実証性を基とし、独自の学風を大きく育てていきます。なお、大学院生と教員の研究発表専門誌として『鶴見日本文学』日本文学専攻、平成8(1996)年創刊、『鶴見英米文学研究』英米文学専攻、平成12(2000)年創刊を刊行しています。

また、他大学大学院との連携では、日本文学専攻が駒澤大学・日本大学と、英米文学専攻が駒澤大学・獨協大学・関東学院大学とそれぞれ単位互換協定を結び、大学の枠を越えた交流と幅広い研究の機会を提供し、大学院生の研究環境向上が図られていることを付記します。

歯学研究科

鶴見大学大学院歯学研究科は昭和52(1977)年3月30日設置認可を受け、昭和56(1981)年3月に最初の修了者を輩出し学位を授与しました。平成26(2014)年3月末までの32年間で甲種(課程博士)429人(13.4人/年)、乙種(論文博士)250人(7.8人/年)が誕生しています。この間に、博士号の名称が、それ以前の歯学博士から平成3(1991)年9月1日以降は博士(歯学)と変更されました。

この10年間で大学院も様々な整備や教育改革を行って来ました。まず、教育方針をアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとして制定しました。この3つのポリシーを公表することが求められています。

○アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

鶴見大学大学院歯学研究科は、独創性に富み、先端的な研究を推進し、歯科医学の進歩と発展に寄与する医療人格をもった研究者を育成し、人類の健康と福祉の向上に貢献することを使命としています。

このような使命を理解し、歯科医学を学ぶ強い意欲と優れた能力と共に、広い視野と柔軟な感性を持ち、研究者、臨床歯科医師、教育者として、国内外に貢献する意志を持つ人材を受け入れます。

○カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成方針)

アドミッション・ポリシーに掲げた人材の育成のため、マンツーマンの先進的ならびに歯科医療に貢献できる質の高い研究指導を行うことを目的としています。臨床専攻においては高い専門性を有する臨床指導を実施します。また、研究者として必要な研究計画、統計解析については統一講義を行なっています。

○ディプロマ・ポリシー

(卒業認定・学位授与に関する方針)

研究能力の獲得は各単位認定をもって評価します。所定の単位数を修め、研究を行なった学生は研究経過報告を行い、専門誌に投稿し受理された論文を学位論文として提出し、学位論文審査と試験を行います。この結果と歯学研究科委員の可否の投票の結果、博士(歯学)の学位が授与されます。

この3つのポリシーは定期的に見直し、改定を行うことが求められています。このような教育方針に基づき履修要項を作成充実させてきました。統一講義を充実し、高い研究能力の涵養に努めています。学位審査は公開審

査を導入し主査、副査だけでなく多くの教員や研究者の前で研究内容を発表し、質疑応答を行います。

これらはすべて、鶴見大学から未来の歯科医学、歯科医療に貢献する人材を生み出すためです。これからも、質の高い研究が次々と公表されていきますのでご注目いただくようお願いして結びといたします。



—総持学園創立90周年、短大60年の時を経て—

総持学園は故中根環堂師の発願により、御本山の後援を得て、大正13(1924)年「光華女子校」の創立に始まり、今年で90周年を迎えることになりました。短期大学部は昭和28(1948)年に鶴見女子短期大学国文科の創立に始まり、昭和37(1962)年に保育科、保健科(現歯科衛生科)が開設され、平成25(2013)年、創立60周年を迎えました。これまで、学園を支えてこられた教職員の方々、並びに同窓会の皆様に感謝と敬意を表します。

60年の時を経た現在も、短期大学部の保育科、歯科衛生科そして専攻科(保育専攻、福祉専攻)の教育方針は、禅の教えに基づく人格形成と建学の精神を基礎に、社会に貢献できる高い専門性を有する人材の養成です。

保育に関しては、待機児童に伴う保育所の増設が各地方首長から重点課題して取り上げられ、同時に保育士の質の向上が求められています。保育科は2年間のカリキュラムで「幼稚園教諭」と「保育士」の両資格を同時に取得することが可能です。将来、幼保一元化等の動きを考えれば両方の資格を取得することが必要です。学生もこの点を十分自覚しており、毎年ほとんど学生がこの両方の資格を取得し卒業しています。そして、保育科には専攻科という更なる勉学の道を設けておりますが、家庭の経済的事情や就職状況が頗る良好なこともあり、進学者は年度により定員内で増減しているのが現状です。進学を促す方策を打ち出さねばならないと考えています。

保育者は保育を通して子どもの人格形成に関わる重要な役割を持っています。多様化した現代社会において、保育者としての使命と責任を自覚し、真摯に取り組んで行ってほしいと願っています。

歯科に関しては、近年、口の中の健康が全身の健康に繋がることが明確に示されており、現在、歯科衛生士は国民の「口腔保健衛生」の向上と維持に努め、その増進に深く関与しています。歯科医療の現場では、コミュニケーション能力が高く、高度な知識と技術を持った歯科衛生士が求められています。そのような人材育成を図るべく、歯科衛生科は平成15(2003)年に3年制に移行し、11年が経過しました。この間、何度かカリキュラムの改変がなされました。特に歯学部附属病院、診療所での臨床実習の充実、さらに幼稚園、小学校、特別支援学校及び介護施設での実習は人との触れ合いも多く、将来、歯科衛生士として地域社会に貢献できる能力を養う重要な体験学習となっています。今後は、国家試験の合格率を高いレベルで維持しつつ、人間性豊かで有能な知識と技術を有する人材を育成することが本学科の教育の使命と考えています。

さて、今後の高等教育の問題点として、18歳人口の減少が挙げられます。平成32(2020)年までは18歳人口は120万人前後で推移しますが、平成33(2021)年を境として一気に下降に転じます。今よりさらに受験生の確保が困難となることは必至です。幸い、これまで本学部は毎年、定員を越える入学生を確保して参りました。しかし、今後、受験生を獲得するため、さらなる教育の特色と存在意義を再構築しながら「教育の質」の良さを社会にアピールする必要があると思っています。今後、さらなる教育の質の向上と充実を図るべく努力して参ります。各方面からの御助言、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

保育科

10年の歩み

保育科はその前身の鶴見教育養成所が昭和31(1956)年に開設され、昭和32(1957)年に鶴見保育学校を経て昭和37(1962)年鶴見女子短期大学部保育科として今日の基礎が築かれました。この間、平成11(1999)年に男女共学となり、名称も鶴見女子短期大学部保育科と名称を変更してきました。また、平成7(1995)年には専攻科保育専攻、平成15(2003)年には専攻科福祉専攻が開設され、今日の形が完成しました。この10年間の、保育科の卒業生の実数は、平成16年度248名、17年度232名、18年度236名、19年度221名、20年度202名、21年度184名、22年度187名、23年度216名、24年度212名、25年度211名、合計2149名の卒業生のうち、幼稚園に716名、保育所に637名、児童福祉施設等に34名、その他保育関係に2名の卒業生を送りだしてきました。若者の就職状況が厳しい昨今、保育科の求人数は毎年1,000名を超えるというありがたい状況にあります。しかしこの間にも、学生募集が必ずしも順調というわけではなく、平成20(2008)年及び21(2009)年度においては、学生募集が定員に満たないという厳しい状況にも追い込まれました。このような状況において、安定した学生の確保に向け、新たに保育科独自のAO入試の実施、自己推薦入試の実施、社会人入試の導入等、広く多様な入学試験の実施に踏み切りました。その結果、近年は、安定した入学生の確保と、学生の質の向上を図ってきています。

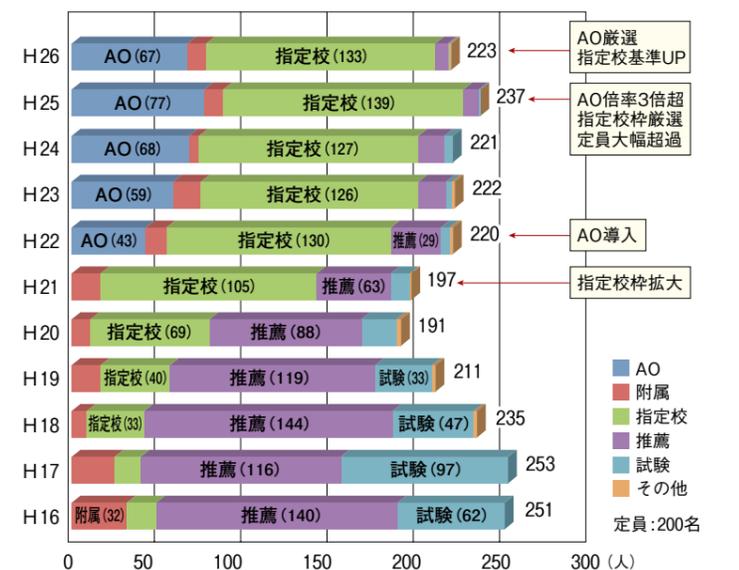
また、短期大学基準協会が、平成17(2005)年度より開始した第三者評価を本学では平成21(2009)年に実施し、(財)短期大学基準協会より第三者評価「適格認定証」を受審、また、平成25(2013)年度には関西女子短期大学との間で相互評価を実施しました。いずれにおいても、高評価を得ることができました。今後は、平成28(2016)年度に再度短期大学基準協会の第三者評価を受ける予定です。

保育科の国際交流は独立行政法人国際協力機構(JICA)横浜国際センターと連携のもと国別研修を開始し、平成16(2004)年度はニジェール国より「幼児教育」をテーマに1名、平成17(2005)年度はシリア・アラブ共和国から「就学前教育」をテーマに1名、平成18(2006)年度はシリア・アラブ共和国から「就学前教育」をテーマに5名、平成19(2007)年度は、シリア・アラブ共和国から「就

学前教育」をテーマに6名、平成20(2008)年度は、シリア・アラブ共和国から「シリア・アラブ共和国就学前教育の拡充」をテーマに6名、「乳・幼児を対象とした就学前教育の拡充(中東地域)」をテーマに、ヨルダン、シリア、イエメン、エジプトから7名、平成21(2009)年度は、「乳・幼児を対象とした就学前教育の拡充(中東地域)」をテーマに、ヨルダン、シリア、イエメン、モロッコ、エジプトから10名、平成22(2010)年度は、「乳・幼児を対象とした就学前教育の拡充(中東地域)」をテーマに、ヨルダン、シリア、イエメン、エジプト、モロッコから20名、平成23(2011)年度は「乳・幼児を対象とした就学前教育の拡充(中東地域)」をテーマに、エジプト、ヨルダンから6名、平成24(2012)年度は、「中東地域 乳・幼児を対象とした就学前教育の拡充」をテーマに、エジプト、ヨルダン、モロッコ、チュニジアから9名、平成25(2013)年度は「中東地域 乳・幼児を対象とした就学前教育の拡充」をテーマに、エジプト、ヨルダン、モロッコ、サウジアラビア、チュニジアから9名が参加し実施されました。

保育をめぐる環境は、今後大きく変貌を遂げるものと思われます。今後導入が予定されている「子ども・子育て支援制度」において、幼保連携型認定こども園の動向、保育教諭免許の資格取得に向けての制度改正等喫緊の課題が目前に迫っています。方針が決定され次第対策を講じる必要に迫られています。

入試制度別入学者 平成16(2004)年度～平成26(2014)年度



教育実習

保育科の幼稚園における教育実習について、この10年を振り返ると、大きく改善してきた点が、二つあります。

第一点は、学生が教育実習に行く前にオリエンテーションの中で行っていた実習指導を、授業としてカリキュラムの中に組み込み、指導内容をより専門的に、より少人数の学生に、より丁寧に実習指導するようにしたことです。

1年次の前期には、「教育実習概論」という名称で15回授業を行い、後期は、「教育実習Ⅰ」という名称で、12回授業を行います。2年次は、前期に「教育実習Ⅱ」という名称で15回授業を行います。

これは、一つには学生の質の変化が見られるようになったためです。もう一つは、実習の評価が、幼稚園の就職に少なからず結びついているためです。実習評価の高い学生は、幼稚園への就職を勧誘されることも多く、また、幼稚園実習の成功体験者の多くが幼稚園の就職を希望する傾向にあります。

まず、授業として、指導内容をより専門的に、より少人数の学生に、より丁寧に実習指導を行うために、教育実習指導の教員を増員し、教育、国語、言葉、体育、造形の専門分野の異なる教員の5人体制にし、教員一人が受け持つ学生を50人以内にして、一学年を5クラスに分け、専門分野別にどのクラスもそれぞれの先生が2回ずつ授業を担当し、それぞれの教員の授業を全員が受けます。

また、実習指導を授業にしたことで、「ハンドブック」という名称の、教科書兼ワークブックを制作しました。この「ハンドブック」は、それまで実習指導で配布していたプリントを整理し、またそれぞれの授業で使う授業内容や、授業中に行うワークを行うためのワークブックまでも組み込んだ、総ページ数が120ページ程度のものであり、学生全員に配布しています。

第二点は、外部の幼稚園で実習する前に、鶴見大学短大部の附属三松幼稚園で、学生全員に1日の、実践しながらの実習体験を課したことです。8月末から9月の中ごろまで土日を除いた毎日、幼稚園の全クラスに学生全員をそれぞれ2、3人ずつ振り分け、実習体験してもらいます。その間、幼稚園教育実習担当の教員が交代で全行程に出席し、学生の点呼から実習中の諸注意、見回り、指導を行います。

以上、この10年間における実習指導の改善によって、外部の幼稚園における本学保育科の学生の実習評価は日

に日に高くなっています。もちろん、短大部附属三松幼稚園の協力なしには、このような評価は頂けなかったと考えています。附属三松幼稚園の教職員の方々には、この場を借りて感謝申し上げます次第です。



保育所実習

この10年で保育士を取り巻く環境、及び本学保育科の保育所実習を取り巻く環境は、大きく様変わりしたと言えます。

本学は、横浜市を所在とする保育士養成校ですが、近年、横浜市は、保育所の待機児童が多い地域の一つとして取り上げられることが何度もありました。それに対して、横浜市は保育所を増やすなど、待機児童対策を重点施策とした取り組みを続け、その結果として平成25(2013)年には待機児童ゼロを達成し、世間の注目を集めました。平成26(2014)年には、残念ながら2年連続の待機児童ゼロは達成出来なかったようですが、このような社会状況からも保育士養成については強い関心が集まっており、保育所を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。

また、この10年間における特筆すべき変化として保育所保育指針の改定を挙げることができます。平成20(2008)年に行われた保育所保育指針の改定では、次の4つの点に重点が置かれました。

第1は、保育指針を大臣告示として定め、規範性を有する基準としての性格を明確にした点。第2は、各保育所の質の向上のための創意工夫を促すことを目指し、基準として規定する事項を基本的なものに限定し、その内容の大綱化が図られた点。第3は、保育の内容に関する事項と保育の内容を支える運営に関する事項とを整理して示すことにより、保育所保育の取組の構造を明確化し、保育の内容や方法の改善、保育所の機能の強化など保育所の質の向上を促すことを目指した点。第4は、保育現場での保育実践に日常的に活用されるとともに、子どもの育ちに関する保護者の理解に役立つ資料としても活用されるように、より分かりやすい記述や表記となるように工夫された点です。

上記の4つは、保育所における更なる保育の質の向上をめざすことを強く意識したものであり、本学の保育士養成においても、改訂された保育所保育指針の精神を尊重し、質の高い保育士を世の中に輩出することを社会的使命であると考え、たゆまぬ努力を続けています。

現在、本学保育科の保育士養成における保育所実習については、1年生の2月に2週間、選択で2年生の9月に2週間、実習協力園に協力を



保育所実習の日誌

仰ぎながら実施しています。学生は、実習前にそれぞれ、1年次には保育所保育実習指導Ⅰ、2年次には保育所保育実習指導Ⅱにおいて、実習の事前指導を受け、綿密な準備を行った上で実習に取り組めるようになっています。

また、保育所実習担当教員のこの10年間の取り組みとして、今までに蓄積されてきた実習に関する様々な教材を一冊のテキストとして整理しまとめたという点を挙げることができます。さらに、そのテキストを実習指導のテキストの完成版とするのではなく、さらなる充実した指導のための通過点と考え、現在の学生の理解度に合わせた教材開発についても継続しています。その結果、さらなるテキストの改訂を行い現在に至っています。

創立90周年を迎え、これを大きな節目とし、創立100周年に向けて保育所実習が学生にとってさらに充実したものとなるよう継続的努力を続けていきたいと考えています。



本学教員が作成した保育所実習のためのテキスト

施設実習

保育士養成については、子どもたちの状況を十分に理解し考察できることを意図して様々な教科目を学習することが定められています。その中の1つが現場での実習であり、ここにおいて多くの学生は実際の福祉現場における援助の場を体験することによって子ども家庭福祉の意義についての考察をすることになります。

家庭において、正しい愛情と知識と技術のもとで育てられるべき子どもたちは今、どのような状況の中で生活しているのでしょうか。そして、そこにおいてどのような課題があるのでしょうかといったことを、乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、児童養護施設、児童相談所一時保護所などの施設・機関の協力を得て、学外に一定期間出向いて学習する施設実習を通して家庭以外の生活の場を知るようになります。

この実習では様々なことを体験することによって、社会が果たすべき課題に直面することでさらに考察を深めることになります。そしてその生活は本当に子どもたちにとって望ましい生活と断言できるのでしょうかといったことを考える大きな要因になっています。

子どもたちは本来、輝ける存在でなければならないと述べた先人がいらっしゃいましたが、このためには輝ける存在として子どもたちになってもらえると確信を持って述べるような環境を、私たちは用意しなくてはなりません。当然のことではありますが、このことのために用意しなくてはならない環境は社会全体によってなされなくてはなりません。ここにおける社会とは、輝ける存在として子どもたち本人が主体であるという上でのことであり、「子ども中心」以外の何ものでもありません。しかし現実はどうでしょうか。そこには「子どものため」と称して時には押しつけることまでしてきたいわゆる“大人社会”が、本来果たすべき役割から大きく離れたところで作用させてしまったことによって負の要因を増加させたことが散見できます。

新たな制度の構築は重要なことですが、それ以前になぜそのような制度が必要なのかということに対する全ての社会を構成する人の理解到達度が高まらなくてはなりません。すなわち、社会的責任を全うしなくてはならないということです。ここにおいて一方的な大人の都合は存在すべきではないことは当然ですが、同時に、中心におかれた子ども一人ひとりの状態をどのように理解するかが大きな鍵になります。

改正された児童福祉法が施行され、次世代育成支援、子育て支援、里親制度、障害児支援施設などさまざまな分野において「子どもと家族を応援する日本」が今動きはじめています。このような中での施設実習はさらに意義あるものはずです。

このような状況のもと、社会の現状を理解することによって子どもたちに降りかかっている多くの問題点(課題)の具体を体験することで、児童福祉(子ども家庭福祉)分野の深い考察に発展させることを目指して激変する現代社会での施設実習を有意義なものにしています。



保育学会

保育学会は、昭和52(1977)年の発足以来30年以上存続する、鶴見大学短期大学部保育科在学学生、教員および保育科卒業生から構成される組織です。その活動目的は本学の建学の精神に基づき、保育の理論と実践の研究並びに会員の親睦をはかることであり、そのために研究会、研究発表会、講演会等を開催し会報や研究誌を発行してきました。

現在の主たる活動としては、毎年6月の総会および10月の講演会(公演会)の開催、年度末の研究誌「保育鶴見」の発行が挙げられます。「保育鶴見」は元来保育科2年生がゼミナール(「総合演習」)のなかで学び、まとめたレポートを中心に掲載していましたが、平成24(2012)年3月発行の第36号より、専攻科学生の研究報告や実習の報告を中心に掲載しています。

この10年間で開催した講演会(公演会)の演目および演者は以下の通りです。

平成17(2005)年10月20日(木)
 「私の考える幼児教育」 堀合文子氏
 「自閉症の理解と支援」 諏訪利明氏
 「パネルシアターとアコーディオンを楽しむ」 古宇田亮順氏・真野泰治氏

平成18(2006)年10月19日(木)
 「ペープサート」 劇団 ひとみ座
 「保育所の現状と課題」 浜田和幸氏

平成19(2007)年10月20日(土)(保育学会創立30周年記念公演)
 「おもちゃ+遊び心+子どもと環境」 野出正和氏
 「陽気なハンス」 劇団 風の子

平成20(2008)年10月16日(木)、10月18日(土)
 「たにぞう先生の創作あそび」 谷口国博氏
 「ねずみくんのチョコキのなかえよしを先生の絵本のお話」 中江嘉男氏

平成21(2009)年10月3日(土)
 「愉快的コンサート」 ロバの音楽座

平成22(2010)年10月2日(土)
 「エイサー、獅子舞、荒馬踊りほか」 民族歌舞団 荒馬座

平成23(2011)年10月1日(土)
 「保育者をめざす学生のための身体づくりと表現」 近藤良平氏

平成24(2012)年10月6日(土)
 「ぼくのなかのぼく」 劇団 風の子

平成25(2013)年10月5日(土)
 「森と夜と世界の果てへの旅」 デフパペットシアターひとみ

平成26(2014)年10月4日(土)
 「子どもの笑顔を広げよう! ~青年海外協力隊~」 JICA 青年海外協力隊事務局
 坪川紅美氏・野澤あかね氏・赤井僚子氏
 「ぼよんコンサート in 鶴見大学」 中西圭三氏・山岡ゆうこ氏・小西貴雄氏



保育鶴見



ぼよんコンサート in 鶴見大学 平成26(2014)年

就職支援

平成24(2012)年の学内の組織体制の再編成により、保育科の学生に対する就職支援組織は、従来の学生厚生部就職課から入試キャリアセンターが設立され、さらに平成26(2014)年度より入試課とキャリア支援課へと改編されました。この改編の意図は、学生の就職を入学から1年次、2年次の専門教育を就職へと結びつけて教育・支援していくというところにありました。

保育科では、既に平成20(2008)年度から入学前教育として新1年生に対して保育科入学後に必要な勉学に対する心構え、姿勢、意欲を持ってもらうために入学前に課題を与えて教育を行ってきました。さらに平成24(2012)年度からは、希望者にピアノのレッスン、指導も行うようになっていきます。

このように保育科の就職支援は、入学前教育から始まる保育職を目指した専門教育とキャリア支援課で行う就職支援とが結びついた一元的体制で行われるようになっていきます。

キャリア支援課で行う1、2年生の就職支援行事日程は表1の通りです。表1から推測されるように、就職ガイダンス、就職の為の講座の種類・回数、模擬試験の種類等は以前と比較するとかなり多くなり、充実して来ています。この表1に掲載されている支援の他にも、「横

◆就職支援行事日程

表1 保育科 就職に関する行事予定		
年次	月	ガイダンス・講座・報告会・模擬試験等
1年	10	●就職ガイダンス①(今後の予定、今すべき事) ※進路(就職)希望調査(第1回)
	12	●就職ガイダンス②(自己分析、マナー、国語力等) ◇保育士就職模擬試験・作文添削(希望者のみ) ◇短大用就職模擬試験(希望者のみ)
	1	●就職ガイダンス③ ~私の就職活動~ (就職内定者による就職活動体験報告会、進路(就職)登録カード提出)
2年	4	●年度始オリエンテーション(3月末~4月始)
	5	●就職活動対策講座(面接対策) ●履歴書用写真撮影会 ●幼稚園教諭専門試験(希望者のみ) ◇保育士就職模擬試験(希望者のみ) ◇保育士作文添削(希望者のみ)
	6	●就職ガイダンス④ (協会登録手続について、ポータルシステム利用方法) ※進路(就職)希望調査(第2回)
	7	●就職ガイダンス⑤ (履歴書書き方講座、夏期休暇中の活動)
	8	●夏休み履歴書書き方講座 ●個人面談・履歴書個別指導開始
	9	●就職ガイダンス⑥(最終回) ※進路(就職)希望調査(第3回・最終)

浜市私立保育園園長会」、「横浜市幼稚園協会」、「横浜市社会福祉協議会」による講演、説明会を実施して現場からの情報を直接学生に提供して戴いています。

1年生の1月に行う「就職内定者による就職活動体験報告会—私の就職活動—」は、先輩の実際の就職活動を通じた成功例や失敗例を聞くことにより、1年生の就職に対する意識を高めることになっています。

現在キャリア支援課は、9名のスタッフで構成され、そのうち5名が厚生労働省指定のキャリアアドバイザー(有資格者)で、「面接講座」個人面談、履歴書個別指導などを行っています。

この他にも公立の保育園、幼稚園の就職希望者を対象にした「公務員対策講座」等を教員と連携して実施しています。

12月、1月には「内定者向けガイダンス」を実施し、就業前研修の心構えや社会人としてのスキルを身につける為の相談・指導も行っています。

このような就職支援により学生の就業に対する意識は年々向上し、そのことが次に報告する保育科の就職状況の好結果を生み出すことに繋がることとなっています。



就職ガイダンス



就職個別相談

就職状況

保育科の過去10年間の就職状況、職種別就職状況、求人状況は、表2、表3、表4の通りです。平成25(2013)年度は、卒業生が208人で、その内、進学(本学の専攻科保育専攻と福祉専攻)、家庭の事情で家事に従事することになった学生を除くと、就職希望者が179人に対して179人全員が就職を果たしています。就職先も私立幼稚園、私立保育園、公立保育園、保育所以外の児童福祉施設など保育科で学んだ専門性と免許、資格を生かした専門職として就職しています。その他に、ここには掲載

していませんが、専攻科福祉専攻の卒業生で、6名が福祉専攻で取得した介護福祉士の資格を生かして施設に就職しています。

求人の状況は、表4にあるように、幼稚園、保育園、施設とも年々増大しています。求人は例年9、10、11月が多く、就職の内定は、それに対応して10、11、12月が多くなっています。しかし、近年は、求人先の都合で求人が早まる傾向があり、そのことに対応した就職指導、支援が必要になってきています。

◆保育科の就職状況

表2 就職状況

進路	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
就職	170	174	147	145	133	124	131	169	161	179
臨時					2	3	3	1	2	
進学	52	44	53	55	48	40	32	36	38	18
専修・各種学校	2	2	1				1			
家事従事(パート・アルバイト含む)	5	4	17	14	6	8	15	9	11	11
留学		1	1							
その他(未就職者)	20	5	16	4	9	4	4			
合計(卒業)	249	230	235	218	198	179	186	215	212	208

表3 職種別就職状況

職種	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
幼稚園(私立幼稚園)	64	62	63	71	63	54	68	83	80	104
幼稚園(公立幼稚園)		3	3		2			2		
保育士(私立保育園)	92	89	60	52	54	64	61	77	73	64
保育士(公立保育園)	5	6	4	2	1	3		1	1	3
職員(施設・その他)	4	8	4	6	6	3	2	3	5	4
事務・販売・営業・その他(一般企業)	5	6	13	14	9	3	3	4	4	4
合計(就職)	170	174	147	145	135	127	134	170	163	179

表4 求人状況

求人先	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
幼稚園	252	269	269	314	342	322	379	356	362	414
保育園	161	175	175	231	244	261	313	408	453	471
施設・その他	106	144	144	185	233	215	177	207	243	221
求人総件数	519	588	588	730	819	798	869	971	1058	1106

◆過去5ヶ年の主な就職先

幼稚園(私立)

鶴見大学短期大学部附属三松 城郷 三ツ池 大倉山アソカ 潮田 戸塚こばと 秋葉 新沢 今宿 南白ゆり 南聖心 春日野 英明 白根 つかさ フレンド 金港 カナリヤ 清来寺 杉山神社 いつみ 岡津 ゆたか しのはら エンゼル 杉之子 かおり 平戸 高津 宮前 大楽 浅田 倉見 都筑ヶ丘 飯島東 湘南やまゆり 片岡 和光 二宮 育美 川崎さくら すみのえ 小峰 三輪 藤沢若葉 聖心 津久井 久里浜 湘南栄光 相武 横須賀若草 岩戸 海老名みなみ 相模ひまわり 厚木のぞみ 湘南桜ヶ丘 平岡 清明 道塚 六郷 光明 和敬 鈴が森めばえ 鈴蘭ほか

幼稚園(公立)

伊東市 鴨川市

保育所(私立)

總持寺 總持寺本町通こども園 横浜ルンビニー 金剛 あおぞら 百合 第二しらとり台 羽沢 東漸 西寺尾 別所 むつみ 横浜文化

鳩の森愛の詩 多摩 うちゅう あかいとり 屏風ヶ浦 つくし もみじ 双葉 横浜小谷かなりや 港南ひまわり 花園保育園ベビーホーム みどり 玉成 えぶち 初声 すこやか 平作 聖徳 長岡 五反田 浦賀 大船ひまわり 上和田 横浜六ツ川 上宮田小羊 葉山にここ 野川南台 川崎市下作延中央 ひばりっこくらぶ 龍巖寺 星川ルーナ くるみ わかくさ 立正 松林 深見台 八幡 聖星 富士しらかば みなみマーノ 亀井野 金目 三和 梅花 石塚 あすなる 桜山 雪谷 洗足池 なかよしの森 東海道 浅川 祖師谷 田園うらら 女塚ほか

保育所(公立)

港区 品川区 足柄下郡箱根町 下新川郡朝日町 村上市 館山市 白根学園 神奈川県社会福祉事業団 藤沢市太陽の家しいの実学園 くるみ会 ゆりかご園 新日本学園 聖公会 ほか

歯 科 衛 生 科

10年の歩み

歯科衛生科の前身は、昭和37(1962)年曹洞宗開祖道元禪師の「正法眼蔵」の「洗面」の巻の「歯を磨くことは心を磨くこと」の教えを根本として、鶴見女子短期大学保健科として発足しました。昭和46(1971)年、鶴見女子短期大学保健科、昭和48(1973)年、鶴見女子短期大学保健科、昭和63(1988)年、鶴見女子短期大学保健科に名称変更しました。平成15(2003)年より2年制から3年制に移行し、現在まで全国に9,187名の卒業生を輩出しています。平成16~平成25(2004~2013)年の10年は歯科衛生士が飛躍する激動の時でありました。「歯科衛生士の資質の向上」が検討され、平成16(2004)年に、「歯科衛生士学校養成所指定規則」が改正され、平成17(2005)年4月1日に施行し、修業年限が3年以上となり5年間の経過期間を経て平成22(2010)年4月1日よりすべての歯科衛生士学校養成所が3年以上の修業年限になりました。

修業年限の変更に伴い平成21(2009)年4月に「歯科衛生士法」の一部が改正され、それまでの「歯科衛生士試験」から「歯科衛生士国家試験」と改められました。また、「歯科衛生士国家試験出題基準」も平成19(2007)年と平成23(2011)年に改正され、平成24(2012)年春実施の第21回歯科衛生士国家試験からは試験問題数を1割増加し220問となりました。本学のカリキュラムも平成19(2007)年度入学生から変更しましたが、平成24(2012)年3月に全国歯科衛生士教育協議会より示されました「歯科衛生士教育コア・カリキュラム—教育内容ガイドライン—」に沿って変更する必要があります。

この10年は施設の充実を積極的に図ってきました。特に、すべての基礎実習室及び相互実習室にマルチメディア実習教育システムを取り入れ、パソコン、AVコントロール装置、デモ撮影カメラ装置、資料提示装置の画像をスクリーンとモニターで学生が確認できるように改善しました。また、平成17(2005)年には相互実習室のすべての歯科用ユニットを新品に交換し、相互実習の充実を図りました。平成23~24(2011~2012)年には基礎実習室の半分のファントム実習機の交換を行い、さらに基礎実習の充実を図りました。平成25(2013)年には、平成23(2011)年の東日本大震災を受け、歯科衛生科の実習室のある4号館の耐震補強工事が行われました。

平成25(2013)年には、歯科衛生科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー

が整備され、ホームページ上に掲載されました。歯科衛生科で取得できる資格は歯科衛生士国家試験受験資格、選択科目として介護職員初任者研修修了者の資格が取得できます。

また、卒業予定者並びに3年制卒業生には、歯学部への編入学試験受験資格が与えられ、歯学部2年生への編入学の途も拓かれています。



基礎実習室

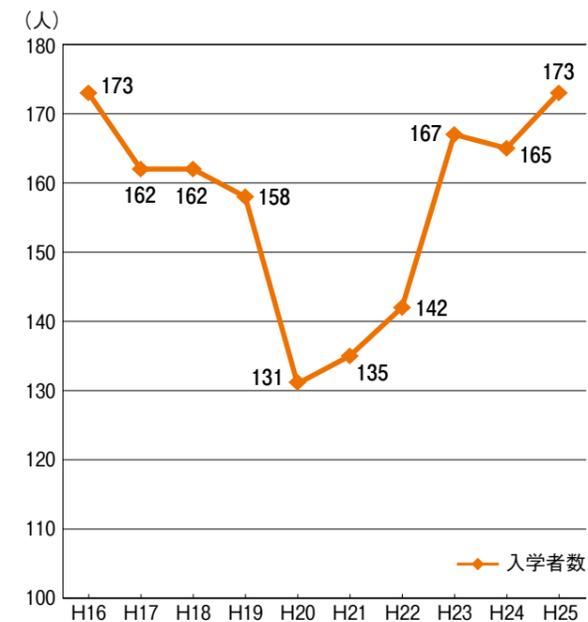


相互実習室

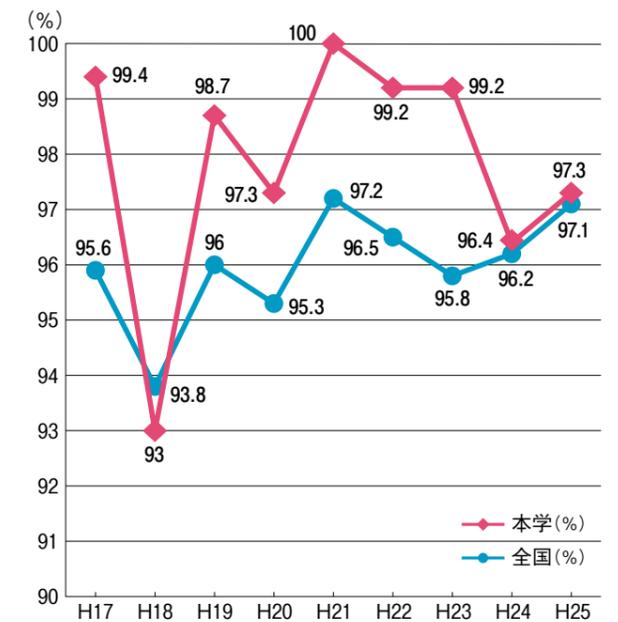
入試状況

入学試験方式はこの10年で大きく様変わりしてきています。平成16(2004)年には指定校推薦、一般公募推薦、試験入試の3方式でありましたが、平成20(2008)年には一般公募推薦が1~2期、自己推薦入試が加わりました。平成21(2009)年に社会人特別選抜が加わり、平成22(2010)年からAO入試を導入、一般公募推薦が1~4期に、社会人特別選抜が1~2期に増え、平成25(2013)年に至っています。入学者数は表とグラフのように平成20(2008)年から3年間定員割れとなりましたが、平成23(2011)年からは定員を満たしています。歯科衛生士は現在の3大業務に加え、高齢者や障がい者への訪問歯科診療、咀嚼が困難な者への口腔ケアなど今後役割が広がると共に歯科衛生士法の改正により法律で規定される業務範囲の拡大が成されることによる歯科衛生士希望者の増加が見込まれます。

入学者数の推移



歯科衛生士国家試験 合格率



本学の合格率は既卒者を除く。

歯学部附属病院・口腔保健科

口腔保健科では、主に歯周治療後のメンテナンスを担当し、歯科医師、歯科衛生士の指導の下、歯科衛生士の学生が歯科予防処置、歯科保健指導を行っています。

口腔保健科は、平成16(2004)年8月に開設され今年で11目を迎えます。開設当時のメンバーは、歯学部予防歯科学講座から松平文朗、山田秀則、短期大学部歯科衛生科からは渡辺孝章、宮田孝義、佐野孝子、玉木裕子、佐々木サト子、中村則子で構成されていました。その後、平成20(2008)年4月科長に歯学部第二歯科保存学教室の鈴木丈一郎が就任し、平成21(2009)年4月からは病院歯科衛生士である岡部早苗が加わりました。平成25(2013)年4月からの口腔保健科は短期大学部歯科衛生科での管理運営となり、現在は小林一行(科長)、渡辺孝章、花谷重守、藤原久子、実習助手、佐々木サト子、中村則子で構成されています。



診療所実習

歯科衛生科は平成15(2003)年度より教育年限を3年制に移行しました。

それに伴い、第1回生の歯科診療所実習(履修科目名称: 歯科臨床実習Ⅲ)の実習期間は平成16(2004)年度後期及び平成17(2005)年度前期が設定されました。これは履修2年次後期と3年次前期に当たりますが、半期ごと各クラス(A、B)の半数が履修します。

当初は学生一人当たり12日間(週4日で3週)で3単位取得の実習でしたが、平成21(2009)年度からは4日(1週)増加して、16日間で4単位に変更され、より一層充実しました。

実習に先立って歯科衛生科ではオリエンテーションを行い、諸注意、基礎知識・技術の確認等を徹底します。また、実習日数が祝日や大学内の行事等で不足する場合は、後日学内で補講を行います。学生は大学授業の1～5時限に相当する午前9時から午後5時50分まで、予め本人希望により決められた歯科診療所に出向いて実習指導を受けます。

実習先では週毎に目標を定めて歯科衛生士業務に直結する臨床の基礎から応用までを指導します。学生は患者とのコミュニケーション及びスタッフとの共同動作など実際の臨床に則した事項を学びます。そして、歯科医療の現場を直接体験する事により患者の気持ちを理解共有し、歯科衛生士への自信と自覚を養います。

実習は各期4グループに分かれ、実習先の受け入れ体制によりほとんどの学生は一人で指導を受ける。学内では経験できない実地教育ですが、同級生に依存することなく、自分で積極的に行動しないと何も得られません。

実習終了後、学生には実習日誌の提出を義務付けています。それには臨床内容を項目別に分類した欄を設け、習得した事が一目で判る様にしています。また、毎日の目標や知識・技術についての考察、感想等を書き込む余白もありますので、ページが進むにつれてその上達度も判り、自分で成長が実感できる様に工夫されています。

実習指導をお引き受け頂いている歯科診療所は、既に実習先としての登録手続きを済ませた鶴見・横浜の神奈川県を主として東京、埼玉を含めた地域の約50歯科診療所です。

指導内容は統一したマニュアルは作成せず、各実習先歯科診療所の特徴を活かす方向で、最低限必要とされる内容だけを示したガイドラインのみ提示して依頼します。

実習担当教員は6名(専任教員4名、実習助手2名)

で、実習先とは常に情報を交換し、時には直接訪問して現場での生の意見を伺うことにより学生を見守っています。

更に隔年で秋には実習先歯科診療所の院長及びスタッフの方々を大学へ招いて実習懇談会を開催しています。約2時間の忌憚のない意見交換が行われ、情報共有することにより未来への実習指導教育に繋げています。

歯科衛生科卒業生はほとんどの者が歯科診療所に就職しています。平成25(2013)年度卒業生: 98%

この10年で卒業生は約1,300人ですが、皆、歯科診療所実習を体験して就職をしました。この実習が、彼女たちが歯科衛生士として働く魅力を感じ、自分の将来に具体性を持ち、医療人としてのみならず人間としても成長し続ける事の一助になれば幸いと考えています。



臨地実習

臨地実習は、修得した基礎知識、技術を基に、公衆衛生等の現場において、円滑に業務を行う能力を習得するために、現場で実習を行い実践能力を身につけるための実習です。

実習は2年後期から3年前期に実施され、小学校、幼稚園、保育園、特別支援学校、中途障害者地域活動センター、障害者地域作業所、障害者支援施設、介護老人保健施設、デイサービスで実習を行い、歯と口の健康週間行事へも参加しています。

1. 小学校での歯科保健教育実習

平成16(2004)年度は、鶴見区内の小学校22校で実施し、平成25(2013)年度においても同様に22校で実施しています。

2. 幼稚園、保育園での歯科保健教育実習

平成16(2004)年度は、幼稚園2園、保育園3園で実施し、平成17(2005)年度に、幼稚園1園、保育園1園が増加、平成20(2008)年度に保育園1園増加し、平成25(2013)年度は、幼稚園3園、保育園5園で実施しています。

3. 幼稚園、保育園の見学実習

幼稚園、保育園の見学実習は、平成18(2006)年度から実施され、平成25(2013)年度においても引き続き実施されています。

4. 特別支援学校実習

平成16(2004)年度は、特別支援学校3校で実施し、平成19(2007)年度に1校増加し、平成25(2013)年度は4校で実施しています。



5. 中途障害者地域活動センター実習

平成19(2007)年度から中途障害者地域活動センター1施設での実習が開始され、平成25(2013)年度から1施設増加し、2施設で実施しています。

6. 障害者地域作業所実習

平成20(2008)年度から障害者地域作業所3施設での実習が開始され、施設の変更がありましたが、平成25(2013)年度においても3施設で実施しています。

7. 障害者支援施設実習

平成21(2009)年度から障害者支援施設での実習が開始され、平成25(2013)年度においても引き続き実施されています。

8. 介護老人保健施設実習

平成16(2004)年度から介護老人保健施設1施設での実習が開始され、平成19(2007)年度に1施設増加し、平成25(2013)年度は2施設で実施しています。

9. デイサービス実習

平成17(2005)年度から1施設で実習が開始され、施設の変更がありましたが、平成25(2013)年度においても1施設で実施しています。

10. 歯と口の健康週間行事 平成25(2013)年度歯の衛生週間が歯と口の健康週間に変更

平成16(2004)年度は、横浜市鶴見区、横浜市青葉区で実施された歯の衛生週間行事に参加し、平成25(2013)年度においても引き続き、歯と口の健康週間行事に参加しています。

保健学会

保健学会は、昭和52(1977)年11月11日に総会を開催し、学会規約、役員選出を行い、当時保健科長であった矢田晴次名誉教授が初代の学会長に就任されました。

学会の設立は、学内での学会設立の機運があり科の先生方からも「短期大学は教育の場であるとともに、専門の理論と実践活動の研究の場なくてはならない。」という意見がありましたことから、昭和51(1976)年秋の科会において、教員総意のもとに設立することになりました。

昭和53(1978)年3月に学会誌「保健つるみ」の創刊号を発刊しましたが、「保健つるみ」の文字は、昭和51年3月まで保健科長でありました今川与曹名誉教授のご染筆です。

本会は本学歯科衛生科教育の理念に基づき、口腔衛生教育及び学校保健教育の理論と実践の研究並びに会員の親睦をはかることを目的とし教員、在学生、卒業生を以て組織します。目的を達成するために研究会、研究発表会、講演会等を開催し会報、研究誌を発行してきました。総会は毎年12月第2週の土曜日に行い総会後に講演会、研究発表を行っています。保健学会誌「保健つるみ」を毎年3月に発行しています。

この10年で行ったことを以下に記します。

保健学会総会・学術集会の開催

平成16(2004)年度 第28回保健学会開催	
6月26日(土) 鶴見大学会館	メインホール
平成17(2005)年度 第29回保健学会開催	
6月25日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール
平成18(2006)年度 第30回保健学会開催	
12月9日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール
平成19(2007)年度 第31回保健学会開催	
12月8日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール
平成20(2008)年度 第32回保健学会開催	
12月13日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール
平成21(2009)年度 第33回保健学会開催	
12月12日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール
平成22(2010)年度 第34回保健学会開催	
10月23日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール
平成23(2011)年度 第35回保健学会開催	
12月10日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール
平成24(2012)年度 第36回保健学会開催	
12月15日(土) 鶴見大学記念館	記念ホール

平成25(2013)年度 第37回保健学会開催
12月14日(土) 鶴見大学記念館 記念ホール

会長

平成16(2004)年度	宮武 光吉
平成17(2005)～21(2009)年度	松本 康博
平成22(2010)～25(2013)年度	後藤 仁敏

副会長

平成16(2004)～26(2013)年度
木邑 知義 中澤千賀子

A. 特別講演

平成16(2004)年度 「QOLを支える口腔ケア・食支援」 講師：牛山 京子(日本歯科衛生士会監事)	
平成17(2005)年度 「介護予防における口腔ケアの姿 ―介護保険法改正をふまえて―」 講師：北原 稔(神奈川県茅ヶ崎保健福祉事務所保健福祉課長)	
平成18(2006)年度 「現代社会における女性の役割について」 講師：小山内美江(シナリオライター JHP・学校をつくる会代表 熱海国際交流会会長)	
平成19(2007)年度 「私が学んだ歯科衛生士教育と歯科衛生士界事情」 講師：加藤 久子先生(歯科衛生士)	
平成20(2008)年度 「高齢社会における歯科衛生士の役割」 講師：本間 和代(明倫短期大学歯科衛生士学科教授)	
平成21(2009)年度 「スマイルと化粧で美しく健やかに」 化粧の魅力演出と心身効果への心理学的アプローチ 講師：高野ルリ子(株式会社資生堂 ビューティーソリューション開発センター)	
平成22(2010)年度 「プレイクア(遊びの気づきの重要性)～楽しくなければ始まらない、楽しくなければ続かない～」 講師：川崎 陽一(株式会社 プレイケア代表取締役)	
平成23(2011)年度 「フリーランス歯科衛生士とかけて、何ととく？」	

講師：和田美登里(元祖歯科衛生士劇団「わっ歯っは」座長)

平成24(2012)年度
「免疫を高める生活習慣―アトピーからがんまで」
講師：藤田紘一郎(東京医科歯科大学名誉教授)

平成25(2013)年度
「これからの日本の歯科衛生士の役割」
講師：中垣 晴男(愛知学院大学名誉教授)

B. 奨励研究発表

平成15(2003)年度奨励研究報告 「学生を対象にした手洗いとその意識について―手指汚染を視覚的に確認できる装置を使用して―」 ○山崎 忍(鶴見大学短期大学部歯科衛生科)	
平成16(2004)年度奨励研究報告 「本学歯科衛生科学生の喫煙状況について―1995年度と2004年度における質問紙調査成績の比較―」 ○吉田美智子・玉木 裕子(鶴見大学短期大学部歯科衛生科)	
平成18(2006)年度奨励研究報告 1)「エックス線写真読影実習のための視覚教材の検討」 ○宮尾 奈々・松田 裕子(鶴見大学短期大学部歯科衛生科)	
2)「鶴見大学短期大学部歯科衛生科(保健科)卒業生の動向」 ○田中 宣子・佐野 孝子・中澤千賀子・森田 操・吉田美智子・石川奈保美・廣岡 千鶴・吉川 京・宮尾 奈々・縄岡 葉子・山崎 忍・吉田 真子・吉田 好江・清田 法子・松本 康博(鶴見大学短期大学部歯科衛生科)	
平成19(2007)年度奨励研究報告	なし
平成20(2008)年度奨励研究報告	なし
平成21(2009)年度奨励研究報告 「高齢者理解のための義歯の疑似体験学習の試み」 ○廣岡 千鶴・山崎 忍・吉田 好江・玉木 裕子・松田 裕子(鶴見大学短期大学部歯科衛生科)	
平成22(2010)年度奨励研究報告	なし
平成23(2011)年度奨励研究報告 「本学学生の生活実態とストレスについて」 ○清田 法子・縄岡 葉子・松田 裕子・玉木 裕子(鶴見大学短期大学部歯科衛生科)	
平成24(2012)年度奨励研究報告	なし

C. シンポジウム

平成25(2013)年度 「歯科衛生士の過去・現在・未来を考える」	
講演1「大学病院における歯科衛生士の取り組み」	昭和大学烏山病院歯科 技術主幹 日山 邦枝先生
講演2「病院歯科での歯科衛生士の取り組み 口腔ケアの現状と効果」	四街道徳洲会病院歯科口腔外科 主任歯科衛生士 久野 郁子
講演3「小学校での健康教育」	大和市立中央林間小学校 養護教諭 中田 敦子
講演4「横浜市の小・中学生の歯の健康に携わって」	横浜市学校保健会 歯科衛生士 穂積伊都子
講演5「歯科衛生士教育の体系化を目指して」	鶴見大学短期大学部 講師 吉田 好江
講演6「地域保健を担う歯科衛生士」	東京都品川区保健所 品川保健センター 高野 弘子

D. 一般発表

平成16(2004)年度 1)「介助歯磨における電動歯ブラシの応用―座位と仰臥位の比較―」 ○吉川 京・小澤 晶子・渡辺 孝章・佐野 孝子・石川奈保美・吉田 真子・前盛 好江(鶴見大学短期大学部歯科衛生科)	
平成17(2005)年度	なし
平成18(2006)年度 1)卒業研究発表：「食育：短期大学部学生の意識調査も含めて」 菅井 仁美(鶴見大学短期大学部歯科衛生科3年) 前澤真理子(指導教授)	
2)「現代日本人女性の歯の形態学的研究 ―本学歯科衛生科学生の顎模型を材料として―」 ○太田やす子・飯島 香・梶山 清香・萬納 佑子(鶴見大学短期大学部歯科衛生科平成17年度卒業生 卒業研究)・後藤 仁敏(指導教授)	
3)「北欧(フィンランド・スウェーデン)研修報告」	

- 奥津 正美・栗谷川 玲・小宮 志穂・武田 清香（鶴見大学短期大学部歯科衛生科3年）・前盛 好江（鶴見大学短期大学部歯科衛生科）
- 4) 「鶴見大学短期大学部歯科衛生科（保健科）卒業生の現状」
第1報 一就業状況と歯科衛生士業務内容および教育に対する意識調査一
中澤千賀子・○森田 操・佐野 孝子・田中 宣子・吉田美智子・石川奈保美・廣岡 千鶴・吉川 京・宮尾 奈々・縄岡 葉子・山崎 忍・吉田 真子・前盛 好江・沖村 洋美・清田 法子・松本 康博（鶴見大学短期大学部歯科衛生科）

平成19 (2007) 年度

- 1) 卒業研究：「現代日本人女性の歯の形態学的研究 一本学歯科衛生科学生の顎模型を材料として」
○磯川 亜美・○大里 香織・植木 紗絵・遠藤奈保子・小澤かおり・小原 久美（鶴見大学短期大学部歯科衛生科3年生）・後藤 仁敏（指導教授）

平成20 (2008) 年度 なし

平成21 (2009) 年度

- 1) 「特発性血小板減少性紫斑病患者の歯周治療」
○三神奈緒子 関谷 秀樹
東邦大学医療センター大森病院 口腔外科
- 2) 「鶴見大学短期大学部歯科衛生科学生に対するインプラント科実習の有用性」
○下田 文香¹⁾、藤堂 素子¹⁾、福田 優子¹⁾、加藤道夫²⁾、佐藤 淳一²⁾
¹⁾ 鶴見大学歯学部附属病院歯科衛生士部、²⁾ 鶴見大学歯学部口腔顎顔面インプラント科

平成22 (2010) 年度

- 1) 「歯科衛生士教育における解剖学・組織学実習の試み」
○後藤 仁敏・清田 法子・石井真奈美（鶴見大学短期大学部歯科衛生科）

平成23 (2011) 年度

- 1) 「喫煙の害」
○後藤 美佳²⁾ 前澤真理子¹⁾
鶴見大学短期大学部歯科衛生科 ¹⁾ 3年生²⁾
- 2) 東日本大震災～歯科ボランティア活動報告～
○石井真奈美（平成6年3月本学歯科衛生科卒）
特定非営利活動法人 神奈川県歯科衛生士会会員

平成24 (2012) 年度

- 1) 「ボランティアは必要なのか ～学生ボランティアと子どもたちの未来～」
○太田 杏奈¹⁾ 吉田 好江²⁾ 山根 明³⁾
鶴見大学短期大学部歯科衛生科 2年生¹⁾
鶴見大学短期大学部歯科衛生科 ²⁾
鶴見大学歯学部 物理学³⁾
- 2) 「隣接面のプラークコントロールに関する研究 歯科専売デンタルフロスの比較」
○植松 裕美¹⁾ 大塚 良子²⁾
¹⁾ 鶴見大学歯学部附属病院歯科衛生士部 高齢者歯科 ²⁾ 鶴見大学歯学部大学院 保存修復学講座

平成25 (2013) 年度 なし

E. 会誌発行



就職状況

本学の歯科衛生科は、長い歴史と卒業生の活躍により社会から厚い信頼を受けています。授業では、3年次に社会に必要な知識やマナーなどを学ぶキャリア形成科目「人生と職業」を必修としています。特に採用先の人事

担当者や卒業生を招き、必要とされています歯科衛生士像を知ることによって、社会の要請に応じた力を発揮して活躍できるように支援しています。

◆就職支援行事日程

歯科衛生科 就職に関する行事予定		
年次	月	ガイダンス・講座・報告会・模擬試験等
一・二年生	4	年度始めオリエンテーション
	5	第1回一般常識テスト模擬試験
	8	公務員試験対策講座
三年生	10	第2回一般常識テスト模擬試験
	4	年度始めオリエンテーション「人生と職業」(授業)
	5	「人生と職業」(授業) 歯科衛生士特別講座 第1回一般常識テスト模擬試験 各種模擬試験開始
	6	「人生と職業」(授業) 歯科衛生士特別講座
	8	公務員試験対策講座
	9	就職活動履歴書及び国家試験願書用写真撮影
	10	就職ガイダンス 履歴書の書き方講座 求人票公開・就職活動開始 就職面接対策マナー講座 第2回一般常識テスト模擬試験

※3年次開講の「人生と職業」はキャリア・就職に関する必修科目です。

◆過去5ヶ年の主な就職先

- 大学附属病院**
鶴見大学歯学部附属病院 昭和大学歯科病院 東京女子医科大学八千代医療センター 東京医科歯科大学附属病院 ほか
- 総合病院**
(医) 鉄蕉会亀田総合病院 神奈川県厚生農業協同組合連合会相模原協同病院 (医) 同愛会小澤病院 府中恵仁会病院 池上総合病院 轟病院 三井病院 けいゆう病院 東芝林間病院 横浜いずみ台病院 世田谷記念病院 小諸厚生総合病院 小山記念病院 ほか
- 企業診療所**
(株) 横浜銀行健康管理センター 三菱東京UFJ銀行健康センター ホワイトエッセンス銀座 医療生活協同生協歯科クリニック 公益財団法人ライオン歯科衛生研究所 ほか
- 公務員**
自衛隊横須賀病院 静岡県浜松市役所 ほか

◆歯科衛生科の就職状況

求人状況

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
就職者数	154	132	137	138	141	113	115	107	137
求人件数	991	974	943	879	798	753	876	1198	1184
学生1人あたりの件数	6.4	7.4	6.9	6.4	5.7	6.7	7.6	11.2	8.6

※平成16年度は3年生への移行に伴い、卒業生なし

職種別就職状況

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
歯科診療所	146	126	126	131	135	109	113	104	133
大学附属病院		2	5	1	1			1	1
総合病院			3	2	3	3	1	2	2
企業等診療所	1		1	1	2				1
公務員	4			2		1	1		
歯科助手		1	1	1					
一般企業		1							
その他	2	2	1						

専攻科

保育専攻

保育専攻は、少人数制教育と研究テーマ実習で高度な技能と感性を持つ保育者を養成する課程として平成7年度に開設されました。定員は20名で、これまでに280名近い学生が保育専攻を修了しました。

保育専攻では、以下のようなポリシーに基づいて、入学者の受け入れをし、保育実践についての考察や研究のできる保育者、より高度な現場対応力を備える保育者の育成に努めています。修了後は、必要要件を獲得したのちに、学位授与機構に申請することにより学士の学位を得て、幼稚園教諭一種免許状を取得する学生もいます。これまでにおよそ50名の修了者が学士の学位を得て、幼稚園教諭一種免許状を取得しています。

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

保育専攻は、短期大学での学業を基礎に子どもの健全な発育、発達と幸福に貢献し、人間性豊かで有能な指導性を備えた専門的実践者を養成することを目的としています。

この目的に基づき、次のような人を求めています。

1. 保育実践について、考察・研究を深めようとする人。
2. 社会における乳幼児の問題に深く関心を持ち、保育の専門職となる意欲のある人。
3. 禅の精神を基盤に豊かな人間性を培い、自己を高め続けようとする人。



授業風景「専攻科特別研究」

カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）

保育専攻の専門科目では、教育学・保育学・心理学を基幹とした専門的知識の向上を図り、実習・演習を通して実践の学びを深めるための科目を編成しています。また、学位授与機構への申請を視野に入れた研究に取り組む科目を開講しています。

また、実践者として自らレベルアップできるよう少人数制の良さを生かした授業形態等を工夫しており、さらに保育に関する興味ある領域について、より専門的な知識を深め、専門性の高い実践者が育つことを目指しています。

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

保育専攻は、以下の能力を身につけ、かつ単位を修得することにより、課程を修了できます。

1. 保育実践について、考察・研究できる力を身につけている。
2. 社会における乳幼児の問題により深く関心を持ち、知識を高める力を身につけている。
3. 適正な保育を行うことのできる多様な指導技能と豊かな表現力を習得している。
4. 禅の精神を基盤に豊かな人間性を培い、自己を高め続ける資質を獲得している。
5. 保育の現場において乳幼児の育ちを見据え、リーダーシップを発揮できる。
6. 保育者としての専門性を生かし、社会に貢献する力を備えている。



授業風景「乳児保育特論」

特別研究（必修科目）論文タイトル一覧（過去3年）

子どもと生き物との関わり～身近な動植物から学ぶこと～	子どもの自然環境と遊びの内容の関連性
幼児音楽へのギターへの活用	砂場における遊具の意味
共同の活動と主体性の育ち	キャンプにおける食体験の必要性
「幼児の遊びの中での見立て」について	幼稚園・保育所における運動会のあり方
保育所における発達障害の気づきに関する調査研究	発想力を育む造形指導に関する考察
砂場遊びにおける環境構成に関する一考察	保育現場の描画活動における子どもが持つイメージについての考察～形とイメージの関係を基に～
幼稚園教育要領の歴史の変遷 —音楽表現を中心に—	幼稚園における発達障害のある幼児への支援に関する研究—支援の実態と保育者による主観的評価に関するアンケートから—
子どもと自然環境 ～特に感性を伸ばす身近な自然環境の在り方～	幼児の言語文化におけるオノマトペについて
ごっこ遊びにおける言葉のニュアンス	子どもの内発的動機づけについて
幼児の遊びにおける音の意味	幼児の遊びの重要性について
幼児の音による創造的表現と指導	ムシと命との関わりから幼児が育む心
幼児の遊びに見られる音楽表現に関する一考察 —カール・オルフの教育理念を手がかりに—	災害による子どものストレスとその反応
幼児とグリム童話 —『おおかみと7ひきのこやぎ』を中心に—	保育所における2歳児の水遊びの一考察
「伝承遊び」に関する一考察	砂場遊びを通じた子どもの学び



授業風景「乳児保育特論」

福祉専攻

鶴見大学短期大学部に専攻科福祉専攻が開設されてから12年が経ちました。介護福祉士という国家資格の取得を目指して、福祉専攻の扉を開いて入学してきた多くの学生の学びを振り返り、「保育鶴見」第28号～第38号の原稿をもとにして、学生の歩んできた10年を振り返ってみたいと思います。

介護福祉士は、昭和62(1987)年「社会福祉士及び介護福祉士法」により誕生しました。

当初は、介護の専門知識と技術、倫理観をもった専門職として期待が大きかったように思います。介護保険法は平成19(2007)年に改正され、「入浴、排泄、食事その他の介護」から「心身の状況に応じた介護」という表現に変わりました。平成21(2009)年にカリキュラムが改正され、平成23(2011)年には、要介護高齢者等における医療的ニーズに対応するため、一定の研修を修了した介護職員にも喀痰吸引などが行えるようになりました。

授業の様子



介護技術(平成18年度)



介護福祉概論(平成25年度)



生活支援技術(平成24年度)



介護総合演習(平成25年度実習発表会)

カリキュラムの変更

平成15(2004)年度～平成20(2008)年度

授業時間や科目名は、全国統一で行われていました。「介護技術」や「医学一般」などの科目名で、2年課程では1650時間が義務づけられていました。

本学の実習は、5月2週間、9月4週間、11月4週間、在宅介護実習2日間でした。

平成21(2009)年度～現在

授業は、「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」の3領域に再編されました。

授業時間数は2年課程で1800時間(1年課程は1155時間)と増えました。

実習については、1年課程は360時間から210時間へと減少しました。

学生の状況

次に、この10年を振り返って、学生の印象を述べさせていただきます。

平成17(2005)年度：(専任教員として新たに田家英二が着任しました)

学内実習に助手の2名を加え、専門分野の学習が強化されました。44名の学生が個性豊かに学生生活を送っていました。

平成18(2006)年度：明るくにぎやかなクラスでした。津久井自然学校に2泊3日で出かけました。田家、比嘉、上田先生が参加し、現在の学長である伊藤克子先生も参加されました。

平成19(2007)年度：この年は、元気な男子がたくさん入学しました。一見まとまりのないクラスに見えましたが、卒業アルバムも立派なものをプレゼントしてくれました。

この年の卒業生の多くは、今介護の現場で輝いています。



卒業式後に全員で合唱

平成20(2008)年度：一言でいえば、真面目な学生が32名集まっていました。実習では、休まず遅刻せず、努力を惜しまずガンバリ屋さんが多かったのが印象的でした。高齢者や障害児・者のケアの現場で、今も頑張っている卒業生が多くいます。

平成21(2009)年度：好感度ナンバーワンのクラスでした。自分から進んで何事にも取り組む学生が多く、明るくてまとまりのある36名でした。

平成22(2010)年度：一人ひとりの思いがしっかりと伝わってくる、個性豊かな23名でした。とても熱心な学生もいれば、ふわふわした感じの学生もいました。

平成23(2011)年度：「うるさい、うるさい」と何度注意したことでしょう！とにかく騒がしいのを気にしない人が多かったですね。全員が卒業したことが、なによりもほっとした出来事でした。

平成24(2012)年度：専攻科がスタートして初めて女子のみのクラスでした。明るい笑顔があふれている25名でした。実習施設から次々と就職の依頼が来ていましたよ。

平成25(2013)年度：明るい笑顔、個性的な表現、個性豊かなファッションなどが、混ざり合って不思議な色合いを見せていました。就職先で頑張っていますか？

平成26(2014)年度：今、介護福祉士への一歩を踏み出そうとしています。毎日、真面目に授業を聞いているのが印象的です。

卒業後の状況

卒業生は、介護福祉士として5年以上の経験を生かしてケアマネジャーに挑戦する者、施設の生活相談員や実習指導者など、キャリアアップをしながら仕事をしている多くの先輩がいます。短期大学部の初任者研修(旧ホームヘルパー養成研修)の助手をしてくれる卒業生もいます。今後も、介護のリーダーとして後継者の育成や相談支援の業務等にチャレンジしてほしいと願っています。鶴見の卒業生は、今も介護福祉士や先生として活躍しています。

専攻科福祉専攻教員 平成26(2014)年6月現在

(専任教員) 上田 衛教授、白井 京子教授、
田家 英二准教授
(歯科衛生科) 前澤真理子教授
(非常勤講師) 坂田 幸枝、後藤 洋子、田中 優子、
丸岡 満美、深海久美子、明比庄一郎、
江村 圭巳、長島 潤、鈴木 正則、
戸田 京子、大橋 千枝、新井 恵子、
鈴木 政子、稲垣 宏樹、川西 智也
(順不同)

大学機関 図書館

鶴見大学図書館は昭和61(1986)年に現在の建物になって以来、蔵書は80万冊を数え、大学・短大部の学生や先生方に利用されています。現在では、附属中学・高校生や司書・司書補講習生、生涯学習セミナー受講者にも閲覧・貸出サービスを行っており、日々利用されています。また、朝日新聞出版の「大学ランキング」図書館部門では、例年高い評価を得ています。

施設面では全蔵書数の1/4にあたる20万冊を収容する、自由利用ができる開架の書架、669席の閲覧席、約50台のパソコンなど、広くゆったりと使える設計になっています。視聴覚ホール及び視聴覚室は、地下1階にあり、2階奥には、間仕切りを施したブース席や2階建ての閲覧席もあります。平成23(2011)年には、学修支援スペースとして可動式の机と椅子を設置し、自由にレイアウトして利用できるようになっています。

蔵書面では毎年1万数千冊を受け入れ、継続受入雑誌も7千点を数えています。また、江戸期以前の和本を中心に、貴重書も例年購入する一方で、選書ツアーを実施し、学生に書店で本を選んでもらうこともあります。



図書館内



閲覧室



鶴見大学図書館



学修支援スペース(2階)

図書館内でディスカッションを行う学習ができるスペースです。平成23(2011)年に新設され、学生の自由な利用とともに授業でも利用されています。



歯学系図書・雑誌(2階)

歯学関係の図書・雑誌の蔵書量は関東圏で随一です。
※写真は2階歯学系雑誌書架



2階建て閲覧席(2階)

個室仕様のため、勉強や読書に集中できるスペースで、学生に人気があります。



貴重書庫(3階)

温湿度を自動調整した内部には、江戸時代以前の和漢古典籍のほか、近代作家の自筆原稿など様々な資料を保管しています。



視聴覚室・ホール(地下1階)

休み時間や授業の合間など、学生によく利用されています。映画等の数千点の娯楽作品のほか、学術的な映像資料もこちらにあります。



電動式書庫(地下2階)

発行後年数の経った図書や雑誌は、書庫にあります。地下2階書庫は電動式で、地下1階の書庫と合わせて約60万冊の図書・雑誌が閉架にあり、出納によって利用に供されます。

保健センター

保健センターは、学生・教職員の健康保持・増進を目的として、昭和28（1953）年3月の鶴見女子短期大学国文科設置認可後31年を経た昭和59（1984）年5月に開設されました。同年6月第1回保健センター運営委員会が開かれました。また、保健センター年報1号は、昭和59（1984）・60（1985）・61（1986）年度版として昭和63（1988）年に創刊され、その後、12号（平成23・24年度）まで刊行されています。

鶴見大学保健センターの具体的な業務内容（右表）は時代とともに大きく変わり、現在ではメンタルヘルス、メタボリックシンドローム、喫煙、アルコール摂取などに対する対応が大きな課題になっています。さらに平成19（2007）年の麻疹の流行や、平成21（2009）年の新型インフルエンザの世界的流行の影響を受け新規に対策を立ててきました。メンタルヘルス対策では、平成19（2007）年度から20（2008）年度にかけて学内相談室を保健センター内に一本化して設置し、精神科医師と臨床心理士による面談日を週3日としました。また、平成20（2008）年の国のメタボ対策（保健指導）義務化に伴い、人事課が主導し個別指導が開始されました。喫煙に関しては全学教職員と連携し喫煙学生に対する禁煙援助（愛情卒煙）を開始、平成22（2010）年施行の神奈川県受動喫煙防止条例に関連して学内の喫煙場所数が1ヶ所に減りました。麻疹については新入生・職員に対する抗体検査を実施し、必要に応じワクチン接種を勧め学内流行を阻止しています。

開設以来30年を経た保健センターの業務は、全学各部署とのより緊密な連携のもと、従来の健康診断・応急処置業務から次第に拡大しつつあります。

鶴見大学保健センター職員

職員	昭和63年	平成26年
所長	1名	1名
事務長	1名	1名
併任医師	—	2名
看護師	1名	3名
事務職員	2名	—
嘱託精神科医	1名	1名
嘱託臨床心理士	—	1名



保健センター診察室

保健センター年間主要業務

4月	<ul style="list-style-type: none"> 学生定期健康診断実施 麻疹抗体検査（全学部新入生） HBs 抗原・抗体検査（歯学部歯学科4～6年生／大学院歯学研究科1～4年生／短期大学部歯科衛生科1～3年生／専攻科福祉専攻） 学生定期健康診断未受診者への対応 学生定期健康診断事後措置（再検査・二次検査） HBs 抗原・抗体検査結果通知、B型肝炎ワクチン接種案内通知（歯学部歯学科4～6年生／大学院歯学研究科1～4年生／短期大学部歯科衛生科1～3年生／専攻科福祉専攻） 健康診断証明書・身体に関する証明書発行開始
5月	<ul style="list-style-type: none"> 学生定期健康診断未受診者に対する健康診断 学生定期健康診断結果通知（全学生） 麻疹抗体検査結果通知、ワクチン接種勧奨（全学新入生） 教職員定期健康診断（主管：人事課） HBs 抗原・抗体検査（歯学部附属病院教職員等／短期大学部歯科衛生科教員／保健センター看護師／幼稚園教諭）
6月	<ul style="list-style-type: none"> 課外活動臨時健康診断実施（問診・心電図検査） 学生定期健康診断未受診者に対する健康診断 B型肝炎ワクチン接種（第1回） 教職員定期健康診断事後措置（有所見者への通知等）
7月	<ul style="list-style-type: none"> 課外活動臨時健康診断結果報告（顧問へ） B型肝炎ワクチン接種（第2回目） 結核定期健康診断実施報告（学生分） 保健センター運営委員会開催（第1回） アルコールバッチテスト実施（歯学部1年生）
8月	<ul style="list-style-type: none"> 全国大学保健管理研究会関東甲信越部会参加
9月	<ul style="list-style-type: none"> 教職員定期健康診断未受診者に対する健康診断実施後の事後措置（有所見者への通知等）
10月	<ul style="list-style-type: none"> 労働基準監督署教職員健康診断結果報告（主管：人事課） 防災用救急箱点検補充 インフルエンザ予防接種案内通知
11月	<ul style="list-style-type: none"> B型肝炎ワクチン接種（第3回） 非常勤講師健康診断（胸部X線検査）事後措置 結核定期健康診断実施報告（教職員分） 結核定期健康診断費補助申請 全国大学保健管理研究会参加 インフルエンザ予防接種実施 保健センター運営委員会開催（第2回） 次年度学生定期健康診断 課外活動臨時健康診断基本方針の決定
1月	<ul style="list-style-type: none"> 次年度学生定期健康診断準備開始（健康診断日程等通知）
2月	<ul style="list-style-type: none"> 学生定期健康診断委託業者と実施の打合せ
3月	<ul style="list-style-type: none"> 学生定期健康診断用マニュアル整備 学生健康診断個人票整理 学生定期健康診断オリエンテーション

◎卒煙教室の開催（本学歯学部附属病院卒煙外来と連携）
 ◎行事救護待機
 ①入学式 ②新入生本山一泊参禅会 ③オープンキャンパス（5月～9月） ④日本印度学仏教会 ⑤図書館司書・司書補講習（7月～9月） ⑥大学祭（10月） ⑦入学試験（9月～3月） ⑧OSCE（2月） ⑨卒業式（3月）

貴重書

所蔵する貴重書は約1万5千冊。古今和歌集や源氏物語などの古典籍のほか、ミルトンやスウィフト、ワーズワースなどの洋書、近代作家の自筆原稿・書簡などもあります。貴重書を使った授業も図書館で行われており、大学院生や卒業論文を書く学生が利用することも可能です。また、横浜市指定文化財3点、道元自筆の書なども所蔵しています。



「和漢朗詠集」伝後京極良経筆
横浜市指定文化財



貴重書展・企画展

それぞれ年に数回開催しています。貴重書展は、所蔵する貴重書からテーマに沿った資料を20点ほど展示しており、本学の先生による講演会が開催されたり、ギャラリートークが行われることもあります。また、新聞に掲載されたり授業や生涯学習セミナーで触れられた貴重書を展示する“貴重書ミニ展示”も随時行われています。企画展では、より多くの資料が学生の目に掛かるような様々なテーマを考え展示しています。



貴重書展の様子



企画展の様子

最近の貴重書展

回数	期間	テーマ
137	2014/ 6/17- 7/12	ロビンソン・クルソーの世界
136	2014/ 1/23- 2/15	源氏物語の和歌
135	2013/10/ 4-10/27	風格の古筆手鑑：深奥なる古筆切
134	2013/ 6/18- 7/11	川端康成とその時代
133	2013/ 1/23- 2/19	源氏物語のあそび
132	2012/10/23-11/12	近世都市長崎と国際貿易
131	2012/ 6/27- 7/18	鶴見大学図書館所蔵貴重書展
130	2012/ 1/19- 2/ 9	源氏物語のこどもたち
129	2011/10/27-11/16	見る・読む・比べるⅣ：ドキュメンテーション学科による古典籍へのアプローチ
128	2011/ 6/ 2- 6/21	中世の学芸：勅撰集・軍記・目録

最近の企画展

回数	期間	テーマ
35	2014/ 3/20- 5/25	新学期応援フェア2014：大学生活を豊かに！
34	2013/ 7/18- 9/17	学習アドバイザーからの推薦本
33	2013/ 3/22- 5/27	新学期応援フェア2013：図書館を使いつくせ！
32	2012/ 7/20- 9/20	みんなが選んだ絵本展
31	2012/ 3/22- 5/20	大学 Enjoy Go On 行事：大覚円成報恩行持
30	2011/ 7/15- 9/15	夏休みは賞タイム
29	2011/ 6/23- 7/ 8	準貴重書を紹介します！
28	2011/ 3/30- 5/22	資格大作戦：学生生活ステップアップ
27	2010/ 7/21- 9/19	映画になった怪物たち
26	2010/ 3/20- 5/23	昔懐かしい子供たちの“遊び”についての展示

その他の設備

そのほか館内には、学生の就職・キャリアをサポートするキャリア支援コーナー、学生が書店に出向いて選んだ本を展示する選書ツアー本コーナー、保育科の学生が授業や実習などで利用できる絵本・紙芝居のコーナー、主に英語英米文学科の学生のための英語読本のコーナーなどがあります。



選書ツアー本コーナー



キャリア支援コーナー

歯学部附属病院

当病院は昭和45（1970）年の開院以来、地域の皆様に質の高い歯科医療を提供するとともに、常に最先端の歯科医療の提供を心掛けて参りました。さらには、歯学部学生が行う臨床実習、臨床研修医の先生が行う卒後臨床研修のための教育機関としての機能を担ってまいりました。これまで診療・研究・教育という大学病院としての責務を果たしてこられましたのは、地域の患者様、ならびに地域の歯科医院の先生方からいただいた厚いご信頼の賜物と心より感謝いたしております。

さらに多くのご信頼をいただくため、病院教職員が一丸となって安全で安心な歯科医療の提供を実践して参ります。当病院では保存科、補綴科、口腔外科、矯正科、小児歯科等、従来型の歯科医療に加え、ドライマウス外来、口臭外来等の専門外来や、眼科、内科、循環器科といった口腔医療と全身医療との融合を図るための診療科を設置し、医科歯科連携によるチーム医療の推進を行うことで、多くの患者様、歯科医院の先生方から高い評価をいただいております。

世界に類を見ない超高齢化が進む中で、大学病院の果

たすべき役割は大きく、社会構造の変化に対応した歯科医療の提供を常に心掛けるとともに、一般の歯科医院では対応しきれない高度な医療を必要とする患者様への対応が責務と考えております。当病院は平成13年3月に全国初の「開放型病院」として厚生労働省から認可され、地域医療機関との病診・病病連携の強化と効率的な運用を図り、共同診療（入院を含む）の実施及び諸検査の受託を積極的に受け入れております。また、平成21（2009）年11月より電子カルテシステムの運用を開始するとともに患者サービスの更なる向上を目的として1階総合受付に自動再来受付機・自動支払機（各2機）を導入し、患者様の待ち時間を短縮することが出来ました。平成24年度からは最新医療として、がん治療の中で第四の治療と呼ばれる免疫療法の一つである樹状細胞ワクチン療法を導入いたしました。

今後とも、大学病院として社会のニーズにあった歯科医療を提供し続けるとともに、地域医療の拠点病院としての機能の充実を図り、皆様のご信頼、ご期待にお応えできるよう、教職員一同、最善の努力をしております。



歯学部附属病院



ヒポクラテス像（病院入口）

5	ナースステーション 病室501-515 手術室 中央外来手術室
4	保存科(むし歯・歯周病) 補綴科(クラウンブリッジ・義歯)
3	総合歯科1 総合歯科2 高齢者歯科 障害者歯科 口腔保健科 キッズルーム
2	口腔外科・顎顔面外科・口腔内科 矯正科 画像診断・放射線科(画像検査部) 歯学部 歯科麻酔科 中央検査室 口腔機能診療科 眼科
1	総合受付(総合受付・入館受付) 薬局 卒後心臓外来 初診科 小児歯科 口腔顎顔面 内科 循環器科
B1	食堂 売店
B2	機械室 電気室

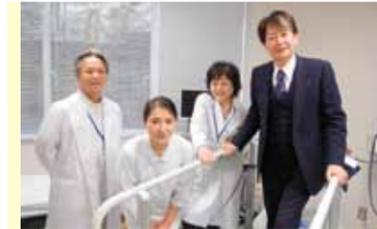
病院のフロア案内

各階案内



初診科

初めて来院する患者さんに対し、必要に応じた緊急処置、初期診断を行ったうえで各科への診療依頼を行っています。病院の玄関として患者さんが安心して診療を受けていただけるような診療科を目指しています。



内科

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの一般的な内科疾患の外来診療を行います。また、歯科と連携し「いびき外来」で睡眠時無呼吸症候群の診療もします。「卒煙外来」では、禁煙を希望する患者さんのお手伝いをします。



1階 2階



小児歯科

齲蝕(むし歯)の治療だけでなく、歯の外傷、噛み合わせの異常などお子さんの口腔内にみられる異常に対して、総合的な治療を行っています。お子さんがリラックスできるような環境を整え、健常児だけでなく障害児の治療も行っています。



口腔顎顔面インプラント科

歯のない部位にインプラント治療を行うだけでなく、耳、鼻、目、顎が欠損している顎顔面補綴領域にもインプラント治療を行っています。また「開放型病院」の制度を利用して多くの先生方が見学に来ています。



矯正科

歯科矯正治療とは、歯並びを単にきれいに整えるだけでなく、食物を良く咬めるようにかみ合わせや上下の顎の関係を改善し、口元を整え、発音を含めた機能の回復をはかる全身の健康に影響する歯科医療の一分野です。



眼科

初めて来院する患者さんに対し、必要に応じた緊急処置、初期診断を行ったうえで各科への診療依頼を行っています。病院の玄関として患者さんが安心して診療を受けていただけるような診療科を目指しています。



口腔外科・顎顔面外科

「Welcome to our clinic!」を基本理念に掲げスタッフ一丸となり、口腔癌、顎変形症、顎関節疾患、顎口腔機能の再建とリハビリなどを中心に臨床、研究、教育に邁進しています。



口腔内科

口腔とその周辺領域の疾患や全身疾患に付随する様々な口腔病変を対象に治療を行う診療科です。外科治療に加え、口腔機能を温存する内科的アプローチに基づいた治療により患者様のQOL(生活の質)の維持・向上を図ります。



画像診断・放射線科、画像検査部

歯科用CT、医用CT、MRI装置、超音波検査装置を備え、一般歯科診療および顎顔面領域、医科領域の画像検査、インプラント術前検査、顎関節症、悪性腫瘍の診断など、多様化する来院患者さんへの画像検査ならびに画像診断を提供しています。遠隔画像診断にも取り組んでいます。



口腔機能診療科

舌がピリピリする、口が乾く、口の中がなにかへん、味がおかしい、口臭が気になる、白くて美しい歯にしたい、若さを保ちたい、歯科を受診する患者さんは多様化しています。こんなニーズに対処するのが専門外来です。



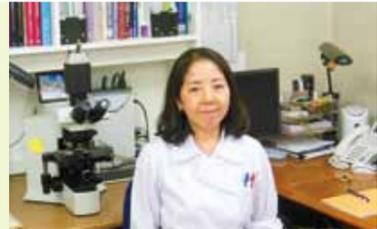
歯科麻酔科

年間あたり全身麻酔を約400症例、精神鎮静法を約1,000症例に行っています。難治性疼痛疾患や麻痺などの治療を行うペインクリニックでは、年間あたり約2,500症例の治療を行っています。

2階 3階 4階 5階



中央検査室
中央検査室には3名の臨床検査技師が在籍し、血液、尿、微生物等の検体検査と採血業務を行うと共に生理検査室では心電図、呼吸機能検査を行っています。



病理診断科
病理診断科では細胞・組織検査に対する病理診断や手術時における術中迅速診断と共にこれらの診断結果の説明を行っています。また外部施設の病理検査も行っており、院内のみならず院外の施設との地域医療連携を推進しています。



高齢者歯科
高齢者歯科では、65歳以上の有病者および75歳以上の患者さんを対象としています。さらに、加齢に伴う口腔機能の低下に対する対応、摂食・嚥下リハビリテーション、訪問治療と多面に渡り診療が行われています。



障害者歯科
障害（知的、運動機能、精神、他）を合併し、通常の歯科室では診療が困難で、特別な配慮が必要な患者様の治療を行っています。バリアフリー化、呼吸・循環モニタリング、鎮静法による対応を行っています。



総合歯科1
学科開設以来続いている診療参加型臨床実習では、CBT（知識の評価）とOSCE（実技と態度の評価）に合格した学生が、実際に患者さんの治療を行うほか、手術の見学などを行いながら、歯科医師としての技能を磨きます。



総合歯科2
厚生労働省が定める卒後臨床研修プログラムに則り、上級歯科医の指導の下に研修医が診療を行っています。特に一般歯科診療に必要とされる全身管理、診査、診断、治療方針等、多重チェックを行い安全性の向上に努めています。



口腔保健科
主に歯周治療後のメンテナンスを担当。歯科衛生士の学生が歯科予防処置、歯科保健指導を歯科医師、歯科衛生士の指導の下に行っています。また、他に疾患が発見された場合には、各科と連携し対応しています。



保存科
歯を保存し機能させていくための診療をします。治療の対象は、むし歯、歯の中の神経、歯を支える歯肉や骨です。また、むし歯や歯周病の発症予防や、治療終了後の歯を定期検診によって見守ることも当科の重要な役目です。



病棟・手術室
手術室においては、全身麻酔管理下に様々な口腔顎顔面領域の手術を行っています。また、病棟は32床を有しており、手術を受けた患者さんの周術期管理をはじめ、入院下での治療を要する患者さんを24時間体制でサポートしています。



中央技工室
歯科技工研修科は、歯学部附属病院の中央技工部として来院患者の症例技工を行うと共に歯科技工士の卒後教育に携わってきました。現在、職員11名、研修生19名で構成され、臨床・教育・研究に力を注いでいます。



補綴科（クラウンブリッジ・義歯）
歯の齧蝕や欠損をクラウンブリッジや義歯などで補い、咀嚼、発音、審美を改善し、QOLの向上に努めています。最近ではインプラントやコンピュータテクノロジーを駆使した最先端の補綴治療を提供しています。

女子学生寮

鶴見大学女子学生寮は、大学中心キャンパスから歩いて約20分の閑静で自然に恵まれ広々とした敷地の一角にあります。平成15（2003）年3月に竣工した鉄筋コンクリート3階建、100名収容の学生寮はワンルームの個室

で、生活に必要な施設・設備はすべて揃っています。入寮生の出身が、日本の各地域から集まっていること、また学部学科・学年と一緒に寮生活を営んでいるので、それらを越えた交流ができるのが魅力となっています。



女子学生寮の外観



中庭



ゲストホール



食堂

仏教文化研究所

本学は、仏教、特に禅の精神に基づく「大覚円成 報恩行持」を建学の精神とし、「心の教育」と「オンライン教育」を進め、人間だけでなく、生けるものすべてに対する真の優しさを持った人間を育成し、より良い社会、未来を築いていくことを使命としています。

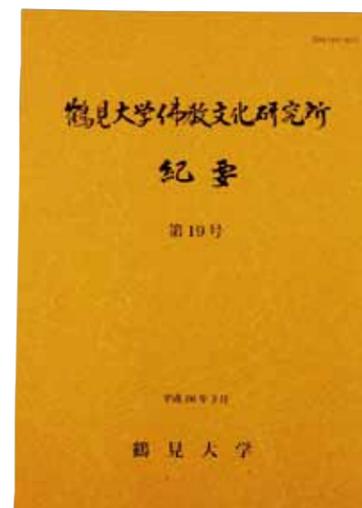
そこで平成7（1995）年、学園創立七十周年記念事業の一環として、学長直轄の附属研究機関となる仏教文化研究所が設立されました。その為、所長は鶴見大学学長が併任しています。本研究所の目的は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教の思想・文化・芸術及

びその関連領域に関する研究を推進すると共に、国際的学术交流を積極的に行い、学術の発展に寄与することです。

活動として、公開シンポジウム、『仏教文化研究所紀要』などの書籍刊行、国際的学术交流、研究会などを行っています。建学の精神の具現化において中心的な役割を担うべき仏教文化研究所は、学園の教育、地域貢献だけではなく、更には仏教者の社会参加の現状と問題点までも視野に入れながら様々な活動を行っています。



総持学園が創立90周年、研究所が設立20周年を迎え、先制医療研究センターと共同で公開シンポジウムを開催しました。



平成26(2014)年3月刊行



先制医療研究センター

鶴見大学先制医療研究センターは、鶴見大学の建学の精神に則り、先駆的医療技術の創出とその普及に関する事業を通じて、産学（官）連携を図りながら、優れた「人間力」を備えた医療従事者等の育成と雇用の拡大等を目的に掲げ、全学的な附置機関の一つとして平成23（2011）年度に設立されました。平成26（2014）年度からは、前年度までに準備してきた具体的な事業内容の具現化への手段として、本研究センター内に寄附講座（医療技能開発学寄附講座）が設置されました。ここに、専任の寄附講座助教（有給）2名及び非常勤教員（准教授等）4名を任用し、加えて、歯学部からも4名の兼任教員を配置

して体制が整備されました。これに基づき、歯科医師等の医療従事者における専門性の高い医療技術の修得を支援する研修事業の実施及び医療従事者のキャリアパスに関連する研究事業を行っています。

更に、平成25（2013）年度より準備を進めていた仏教者等の医療参加についての事業に関連して、終末期医療等の現場において新たな医療支援者等として期待される臨床宗教師の育成事業をご本山と協働して企画し、修行僧を対象とした育成の基礎課程を開始しました。本事業については、宗門における新たな取組として注目されています。



シンポジウム「インプラント診療の安全文化を再興するシビリゼーション」ポスター



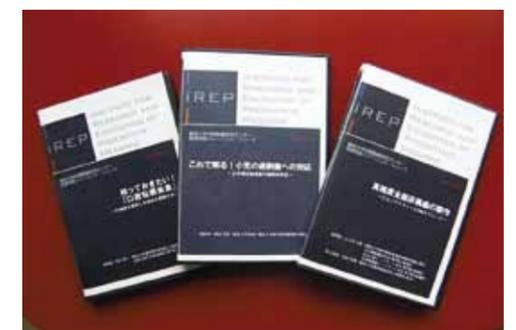
鶴見大学創立50周年・鶴見大学短期大学部60周年記念事業・シンポジウム「終末期における医療と宗教の協働化に向けて」ポスター



臨床宗教師に関する報道記事 (中外日報 6月25日付掲載記事 中外日報社提供)



臨床宗教師育成事業の研修会においてグループワーク中の修行僧



医療技術教育用DVD

国際交流センター

国際交流センターは平成22（2010）年10月に開設し、前田伸子センター長、永坂哲主任、臨時職員の3名をスタッフとしてスタートし現在に至っています。建学の精神に則り、国際的学术交流の促進に資するとともに学術・文化・教育研究・医療に関わる国際協力を通じて、世界平和と人類の福祉に貢献することを目的として、本センターは様々な業務を行っています。その中には、本センター独自で展開する業務のほか、文学部、歯学部、短大部、三松幼稚園ならびに図書館等の機関と連携・支援する業務もあります。前者における活動の特徴として、国際的社会的貢献を重視していることが挙げられます。

本センターの設置により国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）およびNPO団体なんみんフォーラムFRJとの連携で、歯学部附属病院にて診療チーム“RPT”が、平成22（2010）年2月より世界に先駆けて継続実施して

いる「難民申請者のための無料歯科治療支援」は、人道支援活動のコアとなってさまざまな拡がりを見せている。平成25（2013）年11月末現在で31の国と地域から140名の難民申請者患者の診療回数が1,120回にも達する本学の貢献が、本学と国連、難民支援NPO's、在日難民、日本政府、マスメディア等とのネットワークをもたらしと共に、関連するチャリティ活動やシンポジウム開催・参加にもつながっています。

文学部とは学生の国際インターンシップ、歯学部とはロンドン大学との学生国際交流のほか大学・大学院の英語教育や歯学部の臨床実習教育、短大部とは「中東地域乳・幼児就学前教育の拡充」研修への協力、三松幼稚園とは被災地支援“サンタ・プロジェクト”への参加、図書館とは海外からの来訪者案内を通じて協力・支援を行っています。



センターでは、歯学部におけるロンドン大学クイーンメアリー校との学生交流を支援しています。臨床研修を通じた派遣・受け入れ双方向の夏期2週間プログラムとして好評です。学生たちは滞在中に友情を深めながら、専門分野のみならずホスト国の文化も貪欲に吸収しています。



短大部がJICA協力事業として毎年実施する「中東地域乳・幼児就学前教育の拡充研修」への協力も活動の一端です。

文学部ドキュメンテーション学科が本学にて実施する国際インターンシップに、通訳・翻訳・視察案内等で協力しました。



平成26（2014）年5月、国連が世界の大学と協力して「人権、識字能力、持続可能性、紛争」における問題解決に取り組む組織“国連アカデミック・インパクト”のメンバーに本学が選ばれました。本センターがコーディネートする“難民人道支援活動”が高く評価された結果であり、平成26（2014）年5月末現在24校のみという少ない日本の参加大学数の名誉ある一員です。

課外活動

本学の課外活動公認団体（クラブ）は、文科系29団体、体育系32団体です。

【文科系団体】

図書館研究会、放送研究部、文芸部、合唱部、美術部、演劇部、ESS、茶道部、書道部、写真部、児童文化部みつる会、生物部、軽音楽フォークギター部、自然愛好会、歯科医療研究会、管弦楽団、釣同好会、ポップス研究会、漫画研究会、考古学研究会、天文部、コンピュータ同好会、映画研究会、手話サークル、JSL吹奏楽部、国際対口腔がんボランティア協力隊、アパレル同好会、JAZZ研究会、地域貢献ボランティアサークル

【体育系団体】

卓球部、弓道部、競技ダンス部、バレーボール部、ゴルフ部、硬式庭球部、スキー部、柔道部、剣道部、サッカー部、バスケットボール部、空手道部、バドミントン部、アメリカンフットボール部、硬式野球部、ラグビー部、基礎体力増進会、陸上競技部、水泳同好会、ヨット部、少林寺拳法部、日本拳法部、だんすぶ、軟式野球部、フットサル部、フィットネス部、チアリーディング部、フィギュアスケート部、ソフトテニス同好会、ダーツ同好会、山岳部、鶴見シューティングクラブ

学生生活において、勉学が重要であることは言うまでもありませんが、正課教育だけでは得られない重要な役割を持つものに課外活動があります。

本学では全ての団体が学部の違い、在学期間（歯学部6年、文学部4年、短期大学部保育科2年、歯科衛生科3年）や授業期間サイクルが異なる学生同士で組織し、大学施設をお互いに調整しながら共同で使用しています。不便なことも多いですが、その中で学生自身が自主的に構成・運営していく事に大きな意味があると考えています。文科系と医歯系の学部の課外活動団体が、共通の場で活動している例は、全国でも稀有なことです。活動を通して多様な価値観を持った学生たちが一つの時間を共有すること。人脈が広がること。新たな世界が開けることなど有意義なことも多くあり、将来的に協調性や社会性を養い、人間的に成長していくことを最大の目的としています。

本学の課外活動は顧問制、届出・許可制をとっており、一定のルールのもとで自主的な活動を行い、大学はそれを公認することにより、部室の提供や各種援助金の交付、施設の貸出などの支援を行っています。

毎年4月第2土曜日には、新入生クラブオリエンテーションを開催し、各団体の活動状況・内容等を紹介すると共に、新入部員の募集を行っており、多数の新入生が参加しています。

毎年度末にはクラブ代表者オリエンテーションを実施し、代表者としての心構えやルール、団体登録更新手続きなどについて説明や指導を行い、更に、年度初めには課外活動顧問会を開催し、顧問の委嘱と意見交換等を行い、クラブに関する諸問題について認識を深め、改善できるように努めています。

また、課外活動を円滑にかつ、発展・向上させるために課外活動公認団体連合会（以下、連合会）が組織されています。これは学生自らが組織した課外活動公認団体（クラブ・同好会）を統括する組織で、連合会は全ての公認団体から組織され、文化部連合（文連）・体育部連合（体連）があります。連合会には団体会議と役員会が置かれ、課外活動に関するさまざまな問題を解決するために活動しています。団体会議は月に1回（原則として第4金曜日）開催され、各団体代表者の出席により審議が行われます。新入生歓迎オリエンテーションの実施や紫雲祭への協力、部室棟の管理（部室の適正配分・大掃除の計画実行）も行うなど、大きな役割を担っています。

活動の推移表

年度	参加率 (%)			団体数		
	文連	体連	全体	文連	体連	全体
H16 (2004)	17.62	24.14	39.7	32	31	63
H17 (2005)	15.86	24.97	39.07	31	29	60
H18 (2006)	16.43	28.13	42.93	30	31	61
H19 (2007)	16.02	27.91	42.34	29	31	60
H20 (2008)	16.03	26.52	40.86	30	32	62
H21 (2009)	16.48	24.64	38.98	31	33	64
H22 (2010)	15.98	22.24	36.74	29	30	59
H23 (2011)	16.77	22.26	37.08	30	30	60
H24 (2012)	18.52	22.65	38.77	30	29	59
H25 (2013)	18.5	23.77	39.66	28	31	59

10年の具体的な活動

ここ10年の間で、継続している団体が多々ある中、新たに設立した団体、逆に休部から廃部となってしまった団体と、トータルで見れば団体数にそれほど変動はありませんが、大学生生活の一部とする課外活動への関心が少し薄れている傾向にあります。

しかし、平成17（2005）年12月、課外活動を学生が自主的に統括する組織「鶴見大学・鶴見大学短期大学部課外活動公認団体連合会」が発足され、以降、連合会を中心に各団体は日々活動に励み、大会及び発表の場でその成果を挙げています。

体育系団体

■硬式野球部 平成21(2009)年度春季関東歯科大学リーグ優勝

また、23(2011)年度神奈川大学野球秋季リーグ準優勝（第7回関東地区大学野球選手権出場）

■剣道部 平成21年度春季関東医科系大学女子剣道大会準優勝

■空手道部 平成22(2010)年度秋季関東医科歯科系空手道大会女子団体組手優勝・男子団体組手準優勝
他、各人が出場した大会においては、日頃の練習の成果が発揮され、上位入賞も多々ありました。



硬式野球部

文科系団体

■みつる会 平成19(2007)年度鶴見まちづくり功労賞を受賞し、さらに財団法人学生サポートセンターより助成団体として採択されました。

■写真部 平成21(2009)年度当時写真部部長の学生が、写真雑誌「PHaT PHOTO」の企画に作品を応募し、見事グランプリに輝きました。

文科系団体は、体育系団体のように日頃の活動が成績として出てきません。

しかし、演劇部は年に数回学内で公演を実施したり、合唱部は老人福祉施設などで歌唱を披露したり、書道部・写真部・美術部は学内で作品を展示したりしています。

例年4月に新入生歓迎オリエンテーションが開催され、各団体は部員の勧誘を行っています。本学の課外活動団体は、在学年数の異なる学部が一緒に活動している点が特徴の一つですが、短期大学部2年制の学生は、入部したとしてもすぐに卒業することになり時間的余裕がないのか、参加率は低迷しています。反面、歯学部は6年制のため長く活動することができ、また、歯学部生は「全日本歯科学生総合体育大会」という全国の国公私立歯科大学が参加し毎年2期に分かれて開催されている大会に参加できるため、特に体育系団体への参加率は良い傾向にあります。



空手道部



剣道部



弓道部

日々の活動の他に、大学の行事である「紫雲祭」への参加や、オープンキャンパスでの高校生に向けての紹介など、積極的に参加している姿が見られます。

最後に、平成23（2011）年3月11日の東日本大震災後、学生有志の要望により「東日本大震災学生ボランティア」による宮城県気仙沼市の地元小・中学生の学習支援や歯科衛生の啓発活動支援に取り組んできました。その活動は現在も継続していますが、メンバーらはさらに地元鶴見区周辺での活動にも積極的に取り組んでいます。

このように、学生自身が課外活動への参加を積極的に行ってくれることを今後も期待します。



バドミントン部



書道部



合唱団



サッカー部



硬式庭球部



茶道部



軽音楽フォークギター部



バレーボール部



だんすぶ



演劇部



管弦楽団



バスケットボール部



チアリーディング部



児童文化部みつる会



全日本歯科学生総合体育大会

社会貢献・地域連携活動

地域貢献・ボランティア活動

CIAL 鶴見文化事業

平成24（2012）年度から、禅と深い関係にある鶴見大学、駒澤大学と大本山總持寺、建功寺、建長寺、円覚寺が協働して、日本文化とその源流である「禅・禅文化」を、地域の方に分かりやすく発信する事業を開始しました。具体的な活動として、CIAL 鶴見（JR 鶴見駅ビル）の5階にある“坐月一葉”において、法話・講演・坐禅体験を交代で実施しています。また、一般公開の「禅文化フォーラム」も開催しており、今年度は11月2日に本学学生会館において、「海外から注目されている禅・禅文化とは何か」をテーマに開催しました。



禅カフェ

横浜市鶴見区との包括連携協定

「相互の緊密な連携と協力により、地域の課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の発展に寄与すること」を目的として、平成26（2014）年7月に本学と鶴見区の間で包括連携協定が締結されました。締結式には、鶴見区から征矢区長はじめ幹部の方々と鶴見区のマスコットキャラクター「ワックん」、本学から伊藤学長をはじめ6名とつるみん、つるたんが出席しました。

この包括連携協定の締結により、双方の知的、人的、物的資源を最大限に活用し、更なる相互連携の充実・強化を図り、連携を進めていきます。



連携事項事業内容

- (1) 防災・防犯に関すること
- (2) 子育て支援・青少年の育成に関すること
- (3) 福祉・健康・医療に関すること
- (4) 文化・芸術・スポーツに関すること
- (5) まちづくり・環境保全に関すること
- (6) 前各号に掲げるもののほか地域の諸問題の解決に関すること

大学・短大部学生の地域貢献活動

鶴見大学では平成24（2012）年、学生が人や社会に関わる経験ができるよう、地元でのボランティア活動の場の開拓につとめ、豊岡商店街、区役所、警察署、社会福祉協議会、国際交流ラウンジなどを訪問しました。その結果、商店街の人々からの惜しみない協力とアドバイスを頂き、学生は地域社会の豊かさや足を使って現実を丁寧に知ろうとする努力の重要性を発見しました。



浴衣で打ち水イベント

2年間の豊岡商店街と学生たちとの関係が、4月1日、「地域交流協定書」の締結に結実し、「街なかに賑い・華やぎと安らぎ・潤い・落ち着きを」プロジェクトが始動。また、平成24（2012）年度、西口広場オープンカフェ（月1回日曜日）の運営手伝いに積極的に参加した学生が代表者となり、「地域貢献ボランティアサークル」を設立、大学公認サークルとなりました。



「街なかに賑い・華やぎと安らぎ・潤い・落ち着きを」プロジェクト

8月第一週日曜日に同商店街主催で行われる恒例の「地球を冷やそう」（浴衣で打水）イベントと連動して、商店街の54本の街灯に設置されるフラッグ用に、上記プロジェクトの趣旨に沿った絵と書を学生主体で制作。



商店街に設置されたフラッグ

「鶴見」という地域の抱える課題、またはそれらを改善するために行われている活動等を学生が多角的に知り、学生が主体となって地域社会への貢献を考え、実際に行動を起こし、地域社会への貢献の責任を担っていくことを理想とする」（「地域貢献ボランティアサークル」設立趣意書より）。部員36名でスタート。



浴衣で打ち水イベント参加学生

学生と地域にとっての成果

こういった活動の結果、学生が主体的に、自分たちの興味や学んでいることと地域のニーズとの接点を見出し、持続的な活動を試みようという機運が生まれつつあります。鶴見図書館での、子供たちへの絵本読み聞かせ会の定期的な開催計画も、上記「子供向け多文化共生啓発イベント」に参加した学生からの発案がきっかけでした。



東日本大震災でのボランティア活動

平成23（2011）年3月11日の東日本大震災を受けて、歯学部では4月2日に震災援助支援委員会が発足しました。

同じく学生も「自分たちにも何かできることがあれば」という当時の歯学部5年生を中心とした有志が震災数日後には結集し、現地での支援活動について議論をしていました。平成23（2011）年5月のゴールデンウィークには、阪神淡路大震災（平成7（1995）年）の際に本学も協力をさせていただいたSVA（シャンティ国際ボランティア会）の現地本部（宮城県気仙沼市）に、本学教員と学生の計5名が訪問して、避難所での炊き出しや掃除などのお手伝いをしながら、本学での支援活動について検討を行いました。

その後まもなくして、「鶴見大学東日本大震災救援ボランティア対策委員会」が発足され、学生ボランティアチームが結成されました。

平成23（2011）年夏季、「鶴見大学東日本大震災救援

学生ボランティアチーム」は、宮城県気仙沼市の小中学校において初めてのボランティア活動を行い、冬季・春季と活動を継続してきました。

平成26（2014）年には「学生ボランティアチーム」と名称を改め、気仙沼市での活動は縮小して継続しながら、鶴見区や横浜市の地元地域での活動に視野を移し、取り組みを始めました。



宮城県気仙沼市にて 前田副学長と

学びーばの誕生

「子ども達が笑顔であれば大人も笑顔になれる」「子どもたちの場をつくることによりご父母の時間もつくることができる」ことを信念に居場所をつくる学習支援活動「学びーば」を提案し、受け入れていただきました。（平成23（2011）年6月28日）



活動4年目を迎えた学びーば

平成23（2011）年の7月に気仙沼市立大谷中学校と大谷小学校で開校した活動は、現在では本学学生の他に、附属高校、總持寺の僧侶、他大学、専門学校、看護学校の学生などの参加もあり、子どもたちを支援する学生の輪は広がっています。平成26（2014）年8月までの活動で、参加延べ人数は1,700名を超えました。現在では気仙沼市立鹿折（ししおり）小学校と大谷小学校の2校において、春休みと夏休みに開校しています。

学びーばでは、自主学習を見守る他に、学生オリジナルの教材による学習、体育館でのドッジボール、凧揚げなどの他、流しそうめんや夏祭りなど、さまざまなイベントも実施しています。歯学部学生企画の「指の石膏模型づくり」「歯のキーホルダーづくり」、文学部文化財学科学学生企画の「勾玉づくり」など、各学部の特色を活かしたイベントも企画しています。



修学旅行を企画：

Yokohama で学びーば

平成25（2013）年には大学OBなどの有志による実行委員会のもと、支援する2校の6年生の修学旅行として「Yokohama で学びーば」を開催しました。2泊3日で、鎌倉やみなとみらいなどを見学し、本学にも遊びに来ていただきました。歯医者さん体験や図書館での貴重書物の閲覧などを体験してもらいました。大本山總持寺のご協力をいただき、本山に宿泊もさせていただきました。



Yokohama で学びーば：貴重書物閲覧



Yokohama で学びーば：歯医者さん体験



学びーばの風景



医療支援活動 訪問診療の施設で

医療支援活動

学びーばの活動を機に医療支援についても要請をいただくことになりました。「気仙沼・南三陸歯科口腔保健支援事業（平成24年）」「移動困難高齢被災者の長期的口腔管理事業（平成25年）」を実施する宮城県歯科医師会・気仙沼歯科医師会への支援、また「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」の主催団体として、各種研修会やお茶っこの開催を中心に、被災地域における保健・医療・福祉系の人材育成の支援をしています。

歯学部附属病院の国際ボランティア活動

平成22（2010）年2月より国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）やNPO団体“FRJ”と連携して「難民申請者のための無料歯科治療支援」を継続実施しています。現在、世界31の国と地域からの難民申請者患者が本学で治療を受けています。



難民申請者の無料歯科治療（附属病院）



難民申請患者・出身国分布図

難民支援プロジェクトチーム“RPT”のメンバーは、千葉県四街道市のウガンダ人コミュニティ、埼玉県蕨市のクルド人コミュニティ、東京都新宿区ミャンマー人コミュニティで出張歯科検診も行うなどの活動もしています。



ウガンダ人コミュニティでの出張検診



クルド人コミュニティでの出張検診

中学・高校生徒のボランティア活動

鶴見大学附属中学校・高等学校では、JRC国際ボランティア部が奉仕・安全・国際理解を基本方針として活動をしています。

奉仕活動としては、募金活動ほか、学校近隣、鶴見川周辺の地域を定期的に清掃活動を行い街の美化に努めています。近年マスコミでも取り上げられているスポーツゴミ拾いの大会にも積極的に参加し、好成績を残した大会もありました。また潮田地域ケアプラザを中心として、地域で生活する高齢者の方の健康維持に向けたレクリエーションの内容を考え、準備し実施する活動も行っています。汐田総合病院では、春夏秋冬の季節毎の飾り付けを作り、病院内の飾り付けを行っています。



校内募金活動



地域清掃活動



鶴見川清掃活動



病院ボランティア活動



タイ大使館訪問

「安全」の活動では、高校生の部員は例年、夏休みに赤十字救急法救急員の資格取得のための講習を受講しています。例年冬に開催される、赤十字救急法競技会へ参加します。この競技会は小学生から社会人まで参加する大きなもので、上位入賞するためには、かなりの訓練が必要です。近年では、平成22（2010）年度 第14回赤十字救急法競技会神奈川県大会において三角巾リレー競技1位、総合3位の成績を収めました。

国際理解では、学期毎に大使館や国際的な活動を行っている機関も訪問しています。これまでにカナダ大使館・ジャマイカ大使館・サウジアラビア大使館・ドイツ大使館・タイ大使館などを訪問しました。

生涯学習セミナー

鶴見大学生涯学習セミナーは、「開かれた大学」、「地域に密着した大学」を基に、毎年春・秋の2回、智慧・創造・向上という3つの柱を軸として開講しています。

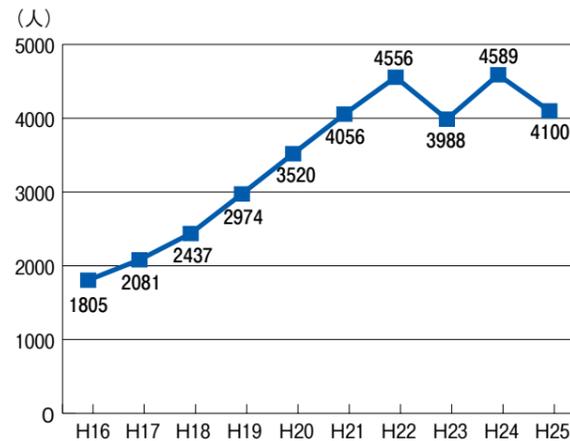
講座の分類として、「文学」、「趣味と実用」、「実務・検定対策」、「語学」、「パソコン」など9つのテーマを掲げており、なかでも本学の建学の精神に基づく「宗教と生きがい講座」や「歴史と文化講座」は、常に人気が高く地域の人々も多数受講しているのが特徴となっています。

講師には、文学部、歯学部、短期大学部の教授陣が当たるほか、本学の設置母体である大本山總持寺をはじめ各界から著名人を迎え好評を得ています。

当初は、平成9（1998）年に5講座をもって開講し、受講者は112人でしたが、平成25（2013）年度は、講座を172講座まで増やし、受講者は、春（第1クール）1,788人、秋（第2クール）2,312人に達して、年間4,100人の受講者数となりました。

受講者増の背景には、学校教育だけでなく、生涯にわたり学習を続けることで、豊かな人間性を育み新しい知識や能力を身につけようとする社会のニーズの高まりがありますが、本学では、受講者アンケート・リサーチを行い、開講講座の内容の検討や「生活課題への学習支援」という企画コンセプトのもと、様々な年代層のニーズに沿った講座を地域連携推進委員会（旧生涯学習運営委員会）で協議して内容の充実を図っていること、また効果的なポスター、パンフレットの配布のほか、ホームページ・新聞によるPR活動を行ったこと等が受講者増につながっているものと思われます。

受講者推移



横浜市民大学講座

横浜市民大学講座は、本学の特性を活かして教育研究の成果を還元することを目的に昭和56（1981）年度から毎年開講しています。当初は横浜市教育委員会との共催でしたが、平成16（2004）年からは横浜市教育委員会の後援となり、平成25（2013）年度で33回を数えています。

毎年文学部各学科および歯学部歯学科の特色を生かし、それぞれの教員が教育研究の成果を、市民に分かりやすいように工夫を凝らした講座を実施しており、平成26（2014）年からは短期大学部も保育科・歯科衛生科合同で参画しました。

ここ10年間は次のようになっています。

年度	タイトル	担当
H16	（あらすじ）だけではない世界の古典文学	文学部 英語英米文学科
H17	にはほんのことは さまざま	文学部 日本文学科
H18	文化財に学ぶ —歴史・美術・考古を通して—	文学部 文化財学科
H19	知っておきたい、歯のこと顎のこと —お口は健康のパロメーター	歯学部 歯学科
H20	本のあれこれ —昔の本から未来の本まで—	文学部 ドキュメンテーション学科
H21	源氏物語の10日間 —永遠の古典を楽しく、わかりやすく—	文学部 日本文学科
H22	欧米文学の古典的名著に親しむ —イギリス、アメリカ、ドイツ、フランスの19世紀古典文学の世界—	文学部 英語英米文学科
H23	文化財学の方法 —歴史・考古・美術工芸を通して—	文学部 文化財学科
H24	本のあれこれ —写本・版本から電子書籍まで—	文学部 ドキュメンテーション学科
H25	一生を通じてお口の健康を守る知恵 —スペシャリストに聴く最新の歯科疾患治療法—	歯学部 歯学科



司書・司書補講習

鶴見大学司書・司書補講習は昭和29（1954）年に開講しました。これまでに輩出した修了生は、司書約1万名、司書補約5千名となっております。今年開講60周年を迎え、9月には記念式典・講演会・祝賀会を開催しました。あわせて「鶴見大学司書・司書補講習60周年記念誌」も刊行しました。



三松幼稚園

お友だち！お先にどうぞ

鶴見大学短期大学部附属
三松幼稚園 園長 山崎 和子



幼児期は自分のことしか考えられない自己中心性から周りにいる自分以外の他者とぶつかり合いながら相手の気持ちに気づき自制することができるという自律性（セルフコントロール）が芽生える時期です。

そういう時だからこそ、子どもの傍らにいる大人たちが率先して“お先にどうぞ”という言葉が日常生活の中で意識して使っていくことが大切と考えます。そうすることにより幼いながらも相手をおもいやるといった優しい心がそだちます。

ある時、2階の部屋から階下のホールへ移動する際、階段でバツリと年中組と年長組が一緒になってしまったことがありました。その際に担任はどちらかともなく“お先にどうぞ”という言葉で交わし、子どもたちはそれを耳にしていました。そして年長組の担任が、“ではお先に”と行って先に降りていくと子どもたちから「年中さんが待っているから、早く降りなくちゃね」という言葉が自然に発せられたとのこと。それを聞き、相手のことを思いやれるやさしさがきちんともうすでに育っていると感じ、とても嬉しく私も温かい気持ちになりました。加えて日頃の積み重ねがいかに大切かとあらためて思いました。

これから“お友だち！お先にどうぞ”という言葉が園内のあちらこちらで響き、さらに心も響

き合う幼稚園にしていきたいと強く願っております。

そしてまた、この“お友だち！お先にどうぞ”という教育目標宣言を前にして私の役割は、思いやりをもって友だちと接する「利他のこころ」を三松幼稚園の子どもたちの心にしっかりと根づかせ、それを次に伝え継承していける子どもたちを育てていくことと考えております。



移動動物園

10年の歩み

昭和31(1956)年に總持寺三松関総門わきに設立された三松幼稚園は、昭和53(1978)年に新園舎となり現在の場所に建築されました。平成25(2013)年には、園舎耐震工事・園内木質化工事が行われ、神奈川県産の木材を活用し、木のぬくもりもある園舎へ生まれ変わりました。また、園庭遊具老朽化のため、すべり台を撤去しローラーすべり台の設置、ジャングルジム・のぼり棒を撤去しアスレチック「つるみんハウス」の設置により、今まで以上に子ども達の運動発達を促しています。

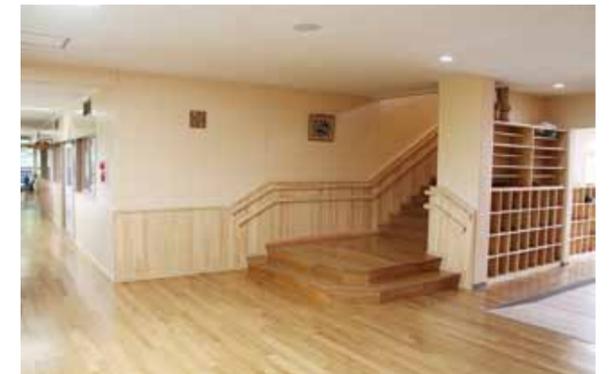
曹洞宗大本山總持寺の「禅の精神」に基づいた教育を大切に、總持寺境内の緑に囲まれた環境の中で、日常生活を通し命の大切さや感謝の心を培い、子ども一人ひとりが心豊かな人として成長することを目標にしています。また、年長児は總持寺布教教化部参禅室のご指導により、月1回の幼児坐禅にて『静』の時間を体験しています。

平成19(2007)年から鶴見大学・附属中高等学校・幼稚園共同で取り組みを始めた「ペットボトルのキャップを集め、その売却益で途上国の子ども達へワクチンを送ろう」という活動は、現在も小さな手からたくさんの温かい気持ちが集まり続け、地球や環境に関心を持つきっかけとなっています。また、外国（中東地域・韓国など）からの視察団や研修生の受け入れ、保育科・歯科衛生科の勉強の場としても広く活用され、幼稚園の現場の状況や、現代の子どもの様子などの理解を深めています。

現代の日本は、大変“子育てがしにくい時代”であり、幼稚園の役割が大きくなってきています。三松幼稚園としては、園庭開放や子育て相談・講演会などを通して、地域の子育て支援をスタートさせました。平成27(2015)年度には創立60周年を迎えます。



玄関ホール



アスレチック「つるみんハウス」



おいもほり(10月)

子ども子育て支援新制度スタートにあたり

平成27(2015)年度より、子ども子育て支援新制度が導入されます。幼稚園は今、さかんに子ども達のために進むべき道を模索中です。この制度はあくまで利用者側からの視点から考えられています。本園が一番にすべきことは幼稚園の意義や幼稚園が大切にしている事などを保護者にきちんと明確に、かつ分かりやすく伝えることです。

幼児期の教育は生涯に渡る人格形成の基礎を培うとても重要な時期であり、幼稚園教育要領の①遊びによる教育、②環境による教育、③個に応じた指導、という三本柱を軸に毎日保育をしていることを具体例をあげて説明するとともに、地域の子育てのセンター的役割を担うという使命感を持ち“今、自園が出来る子育てサポートは何か”を真剣に考え、出来ることは何でも率先して行なっていくことを実践しています。

さらに、自園の保育を振りかえり、より質の高い保育

をめざしていくことが必須です。質の高い保育とは、①幼児期にふさわしい発達が保証され、一人ひとりの長所や可能性が拓かれている②子どもの主体性と保育者の意図性のバランスが取れている③自園の保育を公開し、第三者に評価をしてもらっている（同じ仲間同士で保育を見合い話し合い公開園の良さや課題が浮き彫りにされている）④学び合い高め合い語り合えるという学ぶ意識の高い教師集団である等です。

将来どんな時代になろうとも、どんな制度が導入されようと、はじめに“子どもにとっての最善は何か”を考え、ブレずに実践していくことが重要と捉え、子どもたちが将来も幸せであるために今身につけるべき大切なことをプロの立場から社会に訴えていくことが本園の使命です。

～すべては子どもたちのために～



発表会(2月)



年長児の幼児坐禅



ニュージーランド視察研修を終えて

この夏、オークランドにあるナーサリー（保育園）や公立及び私立幼稚園そしてインターナショナルの小学校を視て回る機会をいただきました。

ニュージーランドは“テ・ファリキ”というカリキュラムを用いてどのような市民（大人）にするのがとても明確になっていました。環境も貝や松ぼっくり、石といった自然物が必ず用意されていること、いつでもすぐに絵が描けるスペースが確保されていること等々設定がある程度統一されている感じがしました。

訪れた日は寒く雨がふっていましたがそんな中レインコートを着て外であそび回る子ども達の笑顔がとても印象的でした。

驚いたことにニュージーランドは、5歳の誕生日の次の日にはそれぞれ順次小学校へ入学するというシステムです。ですから入学式も当然なく幼・小の接続期など考えることもない（地域によってはラーニング・ストーリーズの中から自分で選んで小学校へ持っていったり、週1回小学生が幼稚園に来て交流したりはしています）とのことでした。

日本の教育・保育との大きな違いを感じた視察となったと共に我が保育を振り返り省察する良いきっかけとなりました。

ニュージーランドの教育やラーニング・ストーリーズをそのまま日本に持ってきてもうまくいくとは考えていませんが、せっかく学んできたことを基に日本式あるいは自園流にかえて子どものための記録を作っていきたいと思っています。

三松幼稚園 園長 山崎 和子



ラーニング・ストーリーズ
その子が興味（関心）を持っていることや、夢中になりチャレンジし、自分を表現したり、自分の役割・責任を他の子と関わったりしながら果たしていることを写真と一緒に記載した個人記録の冊子



年間行事

毎月 誕生会・礼拝・身体測定・坐禅（年長）

4月

入園式・始業式・はなまつり・クラス懇談会・個人面談・園児引取り訓練



5月

こどもの日・親子遠足・保育参観日・内科検診・同窓会（卒園生）



6月

プール開き・親子であそぶ日・総持寺参拝・歯科検診



7月

七夕まつり・クラス懇談会・大そうじ・盆踊り・終業式・保護者会・夏季保育



8月

夏季保育



9月

始業式・敬老の日・総持寺参拝



10月

運動会・園外保育



11月

願書受付・移動動物園・七五三・保育参観日・バザー・防災訓練



12月

作品展・成道会・個人面談・おもちつき・大そうじ・終業式・保護者会



1月

始業式・お正月あそび



2月

豆まき・発表会・涅槃会・おわかれ遠足（年長）・総持寺参拝



3月

ひなまつり・クラス懇談会・おわかれ会・大そうじ・卒園式・修了式・保護者会



文学部・短大部同窓会

昭和42（1967）年の設立以来、建学の精神である「大覚円成 報恩行持（感謝を忘れず 真人となる）」に則り、会員相互の親和を図り、社会福祉の増進、学術研究の奨励、社会文化の向上並びに母校の発展に寄与することを目的として歩み続け、三年後の平成29年には同窓会創立50周年を迎えます。

設立当初の先輩諸姉のご苦勞を礎石とし、この半世紀の間に、同窓会活動も少しずつ推移してまいりました。特に環境がデジタル社会へと大きく変わる平成の幕開けに、大きく進化を遂げたと言えるでしょう。平成4（1992）年、卒業生が母校の教室でカルチャーに親しむための生涯セミナー事業を立ち上げて、その受付実行に対応する事務処理のシステムを改善し合理化し得たことが大きな変革の一つに挙げられます。このことは現在ある同窓会の布石となったと言っても過言ではないでしょう。

今では、生涯セミナー事業は同窓会事業の大きな柱の一つとなり、卒業生ばかりでなく、一般の方々にも多くご参加いただくまでになりました。このセミナーの開講は今年で22年目となり、母校の先生方にご出講下さっているおかげで質の高い講座を提供できていることを誇りにしています。その中で、18年続いている英米文学講座の講座録をまとめた著書『映画・文学・アメリカン』（志村正雄著、松柏社出版）が同窓会編集で刊行（2015年1月予定）される運びにもなりました。

また、充実している事務管理は、平成23（2011）年3月の東日本大震災の際にその機動力を発揮し、被災同窓生の把握と対応を短期間で可能としました。その後は同窓生が同窓生の為に支援する活動の形が被災地支援委員会として残り、支援活動を続けています。

平成25（2013）年6月には鶴見大学文学部50周年、鶴見大学短期大学部60周年の記念事業として、鶴見大学、歯学部同窓会、弊同窓会との共催で「ホームカミングデー」を開催いたしました。これは、母校と両同窓会が共に手を携えた初めての事業となり、有森裕子氏による「よろこびを力に・・・」をテーマにした記念講演会は卒業生のみならず、大学関係者、地域の方々をお迎えして、それまでにない規模になりました。同日、キャンパスツアーも組まれて大学のピーアールの役目も果たし、大変意義深いものであったと言えます。

本年、母校は総持学園創立90周年という記念すべき年を迎え、文学部・短大部同窓生は44,000有余名を数える程となりました。これからの将来に向けて「同窓力」の結束を図り、また、次世代の参加を見据えて、可能性を追求し、新たな同窓会作りを進めているところです。



「オール鶴見」で開催された文学部50周年・短期大学部60周年記念ホームカミングデー
平成25年6月22日、午前中は懇親会、午後はオリンピックメダリスト有森裕子氏の講演会が行われた。



平成26年5月25日開催 定例総会（写真上）と懇親会



被災地支援活動 毎年10月の大学祭に参加

歯学部同窓会

総持学園創立90周年に祝意を申し上げますと共に、今日の歯学部を取り巻く社会状況の変化と同窓会の関わりについてお話をさせていただきます。

歯学部は創立以来44年余の歴史を持っていますが、この年月の中で歯学部を取り巻く社会状況は大きく変化してきました。昭和33（1958）年に国民健康保険法が制定され、昭和36（1961）年に全国の市町村で国民健康保険事業が始まり、「誰でも」「どこでも」「いつでも」保健医療が受けられる国民皆保険制度が確立しました。この時を境にして国民の歯科医療に対する需要が急拡大して歯科医師不足が社会問題化したことは覚えている方も多いことと思います。この当時、歯科医師養成の大学は全国で9校を数えるのみでした。そこで国策として昭和42（1967）年までに私立2校と国立5校が誕生しました。その後昭和45（1970）年から昭和48（1973）年までに私立の7大学に歯学部が創設され、その中の1つとして昭和45（1970）年に我が歯学部が設立されました。この時点で全国に22の歯科医師養成校が存在することとなりましたが、さらに昭和53（1978）年までに6校が増設され現在の28大学29校体制が作られることとなりました。これほど急激な歯科大学歯学部の増加は、その後に歯科医師過剰という新たな社会問題を生みだすことになりました。

た。そして平成18（2006）年に文部科学大臣と厚生労働大臣の間で確認書が交わされ、文部科学大臣より入学定員のさらなる減少の方針が示され、厚生労働大臣からは国家試験合格基準の引き上げ方針が示されました。この両大臣の確認書は、歯科医師過剰という社会問題への国策が示されたものです。私たち歯科医師も歯科大学歯学部も国の法律により活動を規定されています。そのために国策の変化により多大な影響を受けることとなります。私たち歯学部同窓会は「親睦」「研鑽」「相互扶助」を活動の三本柱としていますが、今日ではこれに加えて医政へのかかわりが必要となっています。私も同窓会の活動と並行して20年以上にわたり歯科医師会の医政に関わってきました。また私たちの同窓生から石井みどり参議院議員を国政の場に送り出しています。国民歯科医療のあり方に対する国との交渉窓口は日本歯科医師会が担っています。いま同窓会は会員数5,000名を越す組織になってきましたが、同窓生も着実に成長して国や地方の様々な分野で活躍してくれています。2年後に私たち同窓会は創立40周年を迎えますが、この時に向けて時代に即した同窓会活動を展開し、母校歯学部への支援に一層の力を注ぎたいと考えています。



宗教行持

	大学・短大部	中学校・高等学校
4月	8日 降誕会 はなまつりコンサート	8日 花まつり 中旬 授戒会参拝
5月	中旬 新入生本山一泊参禅会	初旬 学校授戒会
6月	4日 歯塚供養	
7月	初旬 精霊祭	初旬 精霊祭 (み魂まつり)
9月	下旬 解剖献体秋季彼岸会供養 実験動物慰霊供養	下旬 彼岸会週間 29日 両祖忌
10月	中旬 解剖献体精霊供養 御征忌 下旬 秋季本山参禅会	5日 達磨忌 中旬 御征忌参拝
11月	20日 太祖降誕会	18日 初代校長忌 21日 太祖降誕会
12月	8日 成道会	8日 成道会 下旬 地藏まつり
1月	下旬 解剖献体合同葬儀	中旬 耐寒参禅会 26日 高祖降誕会
2月	15日 涅槃会	15日 涅槃会・針供養
3月	中旬 解剖献体春季彼岸会供養	初旬 卒業報恩参禅会
		毎月1日 祝祷朝礼

三松幼稚園	
8日 降誕会 (花まつり)	
初旬 プール開き礼拝 總持寺参拝	
中旬 み魂まつり (盆踊り)	
中旬 敬老の日總持寺参拝 (祖父母同伴)	
20日 太祖降誕会 卒園記念製作「三仏忌」(年長)	
8日 成道会	
26日 高祖降誕会	
15日 涅槃会 下旬 總持寺参拝	
毎月 幼児坐禅会 (年長) 毎月 祝祷礼拝 (全園児)	



降誕会 (花まつり)
(三松幼稚園・4月)



歯塚供養
(大学・6月)



精霊祭
(中学・高校・7月)



解剖献体秋季彼岸会供養
(大学・9月)



太祖降誕会
(中学・高校・11月)



幼児坐禅会
(三松幼稚園・毎月)

安心・安全の取り組み

学校法人総持学園 施設設備総合整備計画 ～ひとを育てる未来空間～

本学園では安全で安心な教育・研究及び診療の活動環境を確保するため、「学校法人総持学園 施設設備総合整備計画（平成23（2011）年度～平成27（2015）年度）」を策定し、整備事業を計画的に進めています。

整備工事は耐震補強計画で対象とした①旧耐震基準により建築された建物、②居室機能を有し法律に基づく規模以上の建物、③耐震診断の結果で耐震補強が必要とされた建物について、Ⅰ期工事（平成23（2011）～24（2012）年度）として大学・短大部の1号館・2号館を、Ⅱ期工事（平成24（2012）～25（2013）年度）として大学・短大部の体育館、3号館・4号館、並びに中学・高校の体育館、三松幼稚園園舎の耐震補強改修工事を実施し、完了しました。また、この総合整備計画には、災害対策として、貯水槽・自家発電設備・防災備蓄倉庫等の防災機能強化、限りある資源を有効に活用し省エネに配慮したエコキャンパス化、特別支援者に優しいバリアフリー化等の工事を併せて実施し、さらに幼稚園では木材利用の促進を図るため、内装改修（木質化）工事を実施しました。

平成26（2014）年度は、大学・短大部の5号館整備工事のほか、総持学園創立90周年の記念事業として、獅子ヶ谷グラウンドに屋内練習場の新設工事を進めています。より充実した教育・研究・診療活動の環境整備のため、病院棟や他の施設設備においても計画的に整備事業を進めていきます。



1号館外壁鉄筋コンクリート耐震壁増設



2号館外壁耐震鉄骨ブレース・非常用発電機



3号館外壁垂直鉄骨ブレース増設



太陽光発電設備新設

地域防災

本学園のキャンパスは、地域の方々にとっても身近な施設であり、地域住民の生涯学習、文化、スポーツ等の活動やコミュニティの場にもなっています。安全・安心なまちづくりのためにも、広域避難場所の指定ともなっている大本山總持寺との連携強化のほか、地域行政機関とも協定して、本学園の社会的使命が果たせるよう地域防災にも取り組んでいます。



大学体育館内部水平・垂直鉄骨ブレース増設



中学・高校体育館内部水平・垂直鉄骨ブレース増設
高効率型照明器具更新



横浜市・大本山總持寺・大学との防災協定

防災マニュアル・防災訓練

本学園では、防災に対する全学共通の理解を深めるとともに、大規模地震が発生した場合に速やかに適切な対応がとれるよう、教職員用、学生・生徒用、病院用等の「大規模地震対応マニュアル」「停電マニュアル」を関係諸機関と協議して作成し、配付しています。また、毎年定期的に防災訓練を実施し、学生・生徒・園児の安否確認システムの構築など組織的に取り組んでいます。



中学・高校の地震・火災発生を想定した防災訓練



幼稚園の避難訓練

大学祭 (紫雲祭)

回数	期間	テーマ	実行委員長	講演・ライブ等
第1回	1965.11.4~6	ここに第一歩を —新しき明日への前進のために	近藤千津子 (英3)	講演 「ことばの意味論的分析」 奥水 実 (国立国語研究所員) 「鷗外・漱石・藤村」 瀬沼茂樹 (評論家) 「当用漢字制定の前後」 関 宜市 (文学部教授) 「擬声語の生態」 宮田幸一 (文学部教授) 「国語問題」 江湖山恒明 (文学部非常勤講師) シンポジウム 現代生活における宗教と道徳の役割を考える
第2回	1966.11.3~5	さあ歩もう 共に考えながら	小林孝子 (保2)	講演 「どうでもよい話」 松山善三 (脚本家) シンポジウム 「女子大生と女子大学のあり方」 広島まさる (短大部教授)・間宮 武 (文学部非常勤講師) 「禅と現代人」 三沢智雄 (学長)・山内舜雄 (文学部非常勤講師)
第3回	1967.11.2~4	語ろう我らの世界 "平和と女性"	安井淑子 (日3)	講演 「平和ってなんだろう」 寺山修司 (詩人) 「西洋文学の一側面」 本田顕彰 (英文学者) シンポジウム 「平和における女性と宗教」 暉峻淑子 (文学部非常勤講師)・半田孝康 (文学部非常勤講師)・志村正雄 (文学部非常勤講師) 招待会議 「現代生活における宗教」 議長: 江幡恭子 リサイタル 川村深雪 (美作女子短大教授)、丹羽勝海 (日本大学芸術学部講師)
第4回	1968.11.2~4	問い返そう! 大学祭とは何か —それを生むもの —それを育てるもの	今 弘美 (日3)	講演 「こどもと読書」 石井桃子 (児童文学者) 「青春とは何か」 白井吉見 (文芸評論家) 「組織と個」 暉峻淑子 (文学部非常勤講師) シンポジウム 「女子大生の生き方 その当面する諸問題」 松田知寿 招待討論会 「学生の役割」
第5回	1969.11.29~12.1	"抵抗と変革" —現状の打破から自立した個人を— 新しきものに未来を私達の手で歴史を選択しよう!	田中あけみ (英3)	講演 「抵抗と変革について」 なた・いなだ (作家) 「ラオスとラオ人」 山崎清 (短大部教授) シンポジウム 「安保と沖縄」 招待討論会 「大学紛争の現状」 婦人会議 「破戒から創造へ」
第6回	1970.11.28~30		神谷積子 (日)	シンポジウム 「地域闘争を中心に」
第7回	1971.12.4~5		漆田久美子 (日)	講演 「大学の自治について」 畑田重夫 (国際政治学者) 「大学で何を学ぶか」 真下信一 (多摩美術大学学長)
第8回	1972.11.3~5		田中宏子 (歯1)	講演 「大学で何を学ぶか」 島田豊 (日本福祉大学教授) 「女子の教育」 宮本なおみ (元目黒区議会議員) 討論会 「大学で何を学ぶか」 コンサート あかてん (ミュージシャン)、麻田 浩 (ミュージシャン)、石川鷹彦 (ギタリスト)、柿沼メリー (ミュージシャン)、チューリップ (バンド)、ブレッド & バター (バンド)
第9回	1973.11.2~5		八反恵美子 (日)	講演 山崎 清 (短大部教授) 公開討論会 「神奈川県下の学生と語ろう」 コンサート 加川良 (ミュージシャン)、ジブシーブラッド (バンド)、ジャン (ミュージシャン)
第10回	1974.11.3~5			講演・討論会 「アメリカンライフ」 花山勝友 (歯学部非常勤講師) コンサート ガムガム (バンド)、チューリップ (バンド)
第11回	1975.11.2~4	「和」・・・燃えあがる創造と連帯の炎	井端和弘 (歯2)	コンサート 山本コータロー & ウィークエンド (バンド)
第12回	1976.11.3~5	"円" 学祭・・・その円 (つながり) を求めて	日下部善胤 (歯2)	コンサート イルカ (ミュージシャン)、オフコース (バンド)
第13回	1977.11.2~4	今、互いを見つめなおすとき	中島冬樹 (歯2)	講演 水木しげる (漫画家) 「歯なしの話」 山下 浩 (東京医科歯科大学名誉教授) 講話 萩松大成 (大本山総持寺布教部長) コンサート 銀座アウトローブルースバンド (バンド)、シルクロード (バンド)、ダウタウン・ブギウギ・バンド (バンド)
第14回	1978.11.3~5	流れ行く歴史の中にわれらの時代を築き上げよう 紫雲より出ずる稲妻よ 時代に光をはしらせよ 世代に音を轟かせよ 我等の歴史は今...	大島健美 (歯2)	講演 庄司 薫 (作家) 討論会 「あなたにとって紫雲祭とは一体何だろう?」
第15回	1979.11.3~5	充実と前進	風間富雄 (歯2)	講演 永井路子 (作家) コンサート 庄野真代 (ミュージシャン)、パンダフルハウス (バンド)、ふくじゅ草 (バンド) ミニコンサート 所ジョージ (ミュージシャン) ミュージカル Mr.SLIM COMPANY (劇団)
第16回	1980.11.1~3	自己の確立	青木秀啓 (歯2)	講演 森村 桂 (作家) コンサート 浜田省吾 (ミュージシャン)、DO! (ミュージシャン)
第17回	1981.11.1~3	INFINITY 無限・・・ゼロからの可能性	鈴木正和 (歯2)	落語 三遊亭楽太郎 (落語家)、三遊亭永楽 (落語家) コンサート イルカ (ミュージシャン)
第18回	1982.11.2~4	REALITY 現実を見つめて	村上俊成 (歯2)	講演 田中小実昌 (作家) 落語 三遊亭円丈 (落語家) コンサート HOUND DOG (バンド)
第19回	1983.11.2~4	ポケットに COMMUNICATION	高川徹一 (歯2)	イントロクイズ 司会: 井上杏美 (ミュージシャン)、横田ひとみ (ミュージシャン) コンサート ザ・スクエア (バンド)
第20回	1984.11.2~4	From Now 新たなステップ	紙谷 寛 (歯2)	講演 「今、女性たちは」 落合恵子 (作家) コンサート 角松敏生 (ミュージシャン)
第21回	1985.11.2~4	MAIDEN VOYAGE 処女航海	伊藤祐一 (歯2)	コンサート 鈴木雄大 (ミュージシャン)、伊豆田洋之 (ミュージシャン)
第22回	1986.11.1~3	Imagine	大島貴志 (歯5)	コンサート 杏里 (ミュージシャン)
第23回	1987.11.1~3	Progress	山岸理文 (歯3)	コンサート 山本達彦 (ミュージシャン)
第24回	1988.11.1~3	原点に還れ	高橋英明 (歯2)	講演 古館伊知朗 (アナウンサー)
第25回	1989.11.1~3	Energy—明日への Step—	松田郁子 (日2)	コンサート 池田 聡 (ミュージシャン)



回数	期間	テーマ	実行委員長	講演・ライブ等
第26回	1990.11.2～4	両手一杯の好奇心	大島章子 (英2)	教授討論会 「現代学生カタギを斬る」 角家文雄 (文学部教授)、後藤仁敏 (歯学部助教授)、松崎洋子 (歯学部助教授)、間宮厚司 (文学部講師) トークショー 石田純一 (タレント)
第27回	1991.11.2～4	ツルの主張	大島章子 (英3)	教授討論会 「大学生活における大学生の恋愛観と結婚観」 岩佐美代子 (文学部教授)、高橋昭三 (文学部教授)、間宮厚司 (文学部助教授)、斎藤 晃 (短大部講師) コンサート 電気 GROOVE (バンド)
第28回	1992.11.1～3	THE 鶴見 SHOW	及川芳理 (英2)	教授討論会 「恋愛観 Part2 安定愛 VS 瞬間愛」 角家文雄 (文学部教授)、河野真知郎 (文学部助教授)、間宮厚司 (文学部助教授)、平田喜信 (文学部非常勤講師)、戸田雅美 (短大部助教授)、池田貴族 (ゲスト出演) ライブ DRAGON (DJ)、HAPPY 山川 (MC)
第29回	1993.11.2～4		大野智子 (日2)	
第30回	1994.11.1～3	新軌道	吉村三和子 (日2)	講演 「宇宙からみた地球環境」 秋山豊寛 (宇宙飛行士) パリエティショー 清水ミチコ (タレント)
第31回	1995.11.3～5	Revivre ～蘇生～	高江州真樹 (歯2)	講演 「ドラマチックな人生を」 小山内美江子 (脚本家) 「歯と歯ぐきの健康について」 大森郁朗 (歯学部教授)
第32回	1996.11.2～4	SPARKLE !	野尻洋子 (英3)	パリエティショー あさりど (お笑いタレント)、爆笑問題 (お笑いタレント)
第33回	1997.11.1～3	STIMULUS	園田正敏 (歯3)	トークショー アリ to キリギリス (お笑いタレント)、つぶやきシロー (お笑いタレント)、袴田吉彦 (俳優)
第34回	1998.11.1～3	INTERACTIVE 一点から無限へ	園田正敏 (歯4)	講演 「愛する者への挽歌—茂吉、賢治、光太郎とイギリス詩—」 芳賀 徹 (東京大学名誉教授) 「比較文化とは何か」 相良英明 (文学部教授) ライブ 小橋賢児 (俳優)、THE POSTMAN (バンド) お笑いライブ ネブチューン (お笑いタレント)、アンラッキー後藤 (お笑いタレント)
第35回	1999.11.2～4	Search for the Truth —真実に向かって—	武田裕介 (歯3)	講演 「異国への憧憬」 石田千尋 (文学部教授) お笑いライブ いつもここから (お笑いタレント)、シャカ (お笑いタレント)、Take2 (お笑いタレント)、デンジャラス (お笑いタレント) トークショー 坂道コロコロ (お笑いタレント)、吉野公佳 (タレント)
第36回	2000.11.3～5	たとえばこんな休みの日には	金子夏樹 (歯3)	お笑いライブ やるせなす (お笑いタレント)、アクション (お笑いタレント)、アルファルファ (お笑いタレント)、ホーム・チーム (お笑いタレント) 特別ライブ ブラックバイナリー SOS (お笑いタレント)、火災報知器 (お笑いタレント) トークショー 細川茂樹 (俳優)
第37回	2001.10.27～28	STAND UP !! ～乗り遅れるな！この瞬間を！！～	東海林英弘 (歯3)	ライブ audio active (バンド)、WRENCH (バンド)、ホフディラン (バンド)
第38回	2002.10.26～27	愛・花・夢 (あいかむ)	大泉章一 (日3)	お笑いライブ サカリスト (お笑いタレント)、品川庄司 (お笑いタレント)、ダイノジ (お笑いタレント)、ロバート (お笑いタレント) 特設ステージ 神和座 (和太鼓集団)、東野 hobo ひろあき (ミュージシャン)
第39回	2003.10.25～26	絆—きずな—	渡辺奈緒子 (日3)	講演 「鎌倉時代書写 和漢朗詠集について」 高田信敬 (文学部教授) 対談 「金八先生と国際ボランティア」 小山内美江子 (脚本家) トークショー 假屋崎省吾 (華道家) お笑いライブ インパルス (お笑いタレント)、ドラックドラゴン (お笑いタレント)、北陽 (お笑いタレント)、ロバート (お笑いタレント)
第40回	2004.10.30～31	JUMP !	澤柳 徹 (財3)	コンサート Lynx (フルーツアンサンブル) ライブ 玉置成実 (ミュージシャン)
第41回	2005.10.29～30	「和」	川又星児 (財3)	講演 「枯葉剤の30年」 中村梧郎 (フォトジャーナリスト) お笑いライブ ロバート (お笑いタレント)、タカアンドトシ (お笑いタレント)、あべこうじ (お笑いタレント)、カラテカ (お笑いタレント)
第42回	2006.10.28～29	色彩 (いろいろ)	村田 海 (財3)	講演 「ポルポト時代を生きのびて」 久郷ボンナレット (平和運動家) お笑いライブ キングコング (お笑いタレント)、イシバシハザマ (お笑いタレント)、グレートホーン (お笑いタレント)、ハリセンボン (お笑いタレント)
第43回	2007.10.27～28	SURPRISE !	佐々木香奈子 (日3)	講演 「絵本を届ける運動」 林 飛鳥 (シャンティ国際ボランティア会) ライブ SunSet swish (バンド)
第44回	2008.10.25～26	愛♥鶴見博	佐藤智美 (財3)	お笑いライブ 品川庄司 (お笑いタレント)、トータルテンボス (お笑いタレント)、はんにゃ (お笑いタレント)、渡辺直美 (お笑いタレント)
第45回	2009.10.24～25	クローバー	平山峻明 (ドキュ3)	講演 「『色のない空』から『虹色の空』へ」 久郷ボンナレット (平和運動家) コンサート 石井真郷 (ヴァイオリン)、大地宏子 (ピアノ：短大部講師) ライブ RAG FAIR (バンド)
第46回	2010.10.30～31	「虹」	小松 楓 (ドキュ3)	シンポジウム 歯—と to Heart 落語 「紫雲寄席」 柳亭市江 コンサート 石井真郷 (ヴァイオリン)、甲斐章浩 (チェロ)、大地宏子 (ピアノ：短大部講師) お笑いライブ 超新塾 (お笑いタレント)、LLR (お笑いタレント)、はんにゃ (お笑いタレント)、チョコレートプラネット (お笑いタレント)
第47回	2011.10.29～30	「華」	宇野真由 (財3)	シンポジウム 歯—と to Heart ライブ マーティン・コネリー (ギター：文学部准教授) ライブ Rake (シンガーソングライター) コンサート 錦織裕子 (メゾ・ソプラノ：短大部実技助手)、大地宏子 (ピアノ：短大部講師)
第48回	2012.10.27～28	「鳥」	宮本浩幸 (日3)	座談会 「Voice ～達人たちの座談会～」 矢尾一樹 (声優)、松本梨香 (声優)、高橋広樹 (声優)、藤原祐規 (声優)、飯田利信 (声優)
第49回	2013.10.26～27	"1"	豊川春菜 (ドキュ2)	トークショー 「素敵なひとときを過ごすなら、今でしょ！」 桐山 連 (俳優)

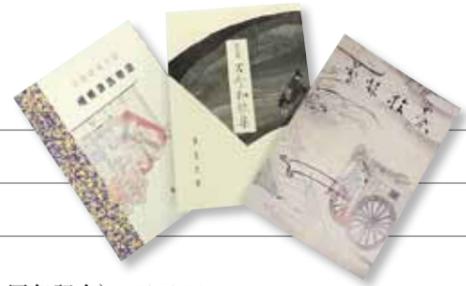


主な学園出版物

図書

※年代順

- 古教照心 総持学園創立五十周年記念誌 1975.10
- 鶴見大学歯学部創立十周年記念誌 1979
- 鶴見大学の歩み
(短期大学部創立二十五周年・文学部創立十五周年・歯学部創立十周年記念) 1979.11
- 三松幼稚園の教育 1979.3
- 鶴見大学文学部論集(創立二十周年記念) 1983.3
- 人々悉道器 総持学園創立六十周年記念誌 1984.10
- 鶴見大学図書館の歩み(図書館新築記念) 1986.10
- 芸林拾葉 鶴見大学図書館新築記念貴重書図録 1986.10
- 契沖筆古今和歌集 日本文学科研究室編
(鶴見大学図書館竣工記念) 1986.5
- 鶴見大学図書館蔵和漢書略目録
(中世文学会 本学開催記念) 1988.5
- 鶴見大学図書館蔵貴重書展目録
(大学院文学研究科開設記念) 1989.7
- 鶴見大学歯学部創立二十周年記念誌 1990.10
- 源氏五十四帖絵巻で見る源氏物語; ボイデル・シェイクスピア戯曲画集で見るシェイクスピア劇
(文学部創設三十周年記念) 1992.11
- 梗概源氏物語(文学部創立三十周年記念) 1993.1
- 鶴見大学文学部論集(創立三十周年記念) 1993.3
- 目で見る総持学園七十年のあゆみ 1994.10
- 古典籍と古筆切 鶴見大学蔵貴重書展解説図録
(総持学園創立七十周年記念) 1994.10
- 未来へはばたけ夢と希望(総持学園創立八十周年記念) 2004.10
- 和歌と物語 鶴見大学図書館蔵貴重書八十選
総持学園創立八十周年記念展示図録 2004.10
- 鶴見大学の宗教行事(仏教系大学会議研修会本学開催記念) 2010.10
- 鶴見大学歯学部創立四十周年記念誌 2011.3
- 大本山總持寺の成立と発展
(大本山總持寺御移転百周年記念) 2012.5
- 写真でつづる鶴見大学小史
鶴見大学創立五十周年・鶴見大学短期大学部創立六十周年記念誌 2013.11
- 鶴見大学司書・司書補講習60周年記念誌(総持学園創立90周年記念) 2014.9



雑誌

- 鶴見大学紀要 第1部 日本語・日本文学編
第2部 外国語・外国文学編
第3部 保育・歯科衛生編
第4部 人文・社会・自然科学編
- Campus now(大学・短期大学部広報紙)
- 鶴見大学報
- 鶴の林 附属中学・高等学校
- 三松:さんしょうしんぶん 三松幼稚園
- 国文鶴見 日本文学会
- 鶴見日本文学会報 日本文学会
- 鶴見大学国語教育研究 日本文学科
- ひろば(鶴見大学国語教育研究 別巻) 日本文学科
- 鶴見日本文学 大学院日本文学専攻
- 鶴見大学源氏物語研究所年報
- Tsurumi review 英語・英文学会
- 鶴見英語英米文学研究 大学院英米文学専攻
- 比較文化研究 比較文化研究所
- 文化財学雑誌 文化財学会
- 鶴見文化財学会報 文化財学会
- Documentation:news letter ドキュメンテーション学会
- 鶴見歯学 歯学会
- 保育鶴見 短期大学部保育学会
- 保健つるみ 短期大学部保健学会
- 鶴見大学仏教文化研究所紀要
- 鶴見大学保健センター年報
- 一夏会報(司書・司書補講習会報)



歴代学園主 ● 理事長 ● 学長 ● 校長

● 学部長 ● 図書館長 ● 病院長 ● 園長

学 園 主

新井 石禅	(大正14~昭和2)
杉本 道山	(昭和2~昭和4)
秋野 孝道	(昭和4~昭和9)
栗山 泰音	(昭和9~昭和10)
伊藤 道海	(昭和10~昭和15)
鈴木 天山	(昭和15~昭和16)
大森 禅戒	(昭和16)
高階 瓏仙	(昭和16~昭和17)
福山 界珠	(昭和17~昭和18)
久我 篤立	(昭和18)
佐川 玄彝	(昭和18~昭和19)
熊沢 泰禅	(昭和19)
渡辺 玄宗	(昭和19~昭和32)
孤峰 智璨	(昭和32~昭和43)
岩本 勝俊	(昭和43~昭和52)
乙川 瑾映	(昭和52~昭和57)
梅田 信隆	(昭和57~平成8)
成田 芳髓	(平成8~平成10)
板橋 興宗	(平成10~平成14)
大道 晃仙	(平成14~平成23)
江川 辰三	(平成23~現在)

理 事 長

伊藤 道海	(大正14~昭和2)
黒田 鉄巖	(昭和3~昭和9)
中村 甄宗	(昭和9~昭和10)
五十嵐 絶聖	(昭和10~昭和11)
孤峰 智璨	(昭和11~昭和16)
今井 鉄乘	(昭和16~昭和17)
鏡島 宗純	(昭和17~昭和19)
小坂 準爾	(昭和19~昭和20)
安藤 文英	(昭和20~昭和26)
大道 英仙	(昭和26~昭和30)
岩本 勝俊	(昭和30~昭和34)
細川 石屋	(昭和34~昭和37)
室峰 梅逸	(昭和37~昭和44)
村上 道隆	(昭和44~昭和47)
成田 芳髓	(昭和47~昭和50)
渡辺 秀雄	(昭和50~昭和52)
松浦 英文	(昭和52~昭和55)

大道 晃仙	(昭和55~昭和58)
斉藤 信義	(昭和58~平成8)
江川 辰三	(平成8~平成11)
渡邊 剛毅	(平成11~平成14)
伊東 盛熙	(平成14~平成20)
横山 敏明	(平成20~平成23)
乙川 暎元	(平成23~現在)

学 長

中根 環堂	(大正13~昭和34.11)
三澤 智雄	(昭和34.12~昭和42.11)
近藤 壽治	(昭和43.2~昭和44.3)
渡辺 榎雄	(昭和44.4~昭和51.10)
三輪 全龍	(昭和51.10~平成4.3)
横尾 太壽	(平成4.4~平成4.11)
高崎 直道	(平成4.12~平成16.11)
柳澤 慧二	(平成16.12~平成21.3)
木村 清孝	(平成21.4~平成26.3)
伊藤 克子	(平成26.4~現在)

中学校・高等学校校長

中根 環堂	(大正13~昭和34.11)
三澤 智雄	(昭和34.12~昭和42.11)
近藤 壽治	(昭和43.2~昭和44.3)
渡辺 榎雄	(昭和44.4~昭和45.3)
渡邊 潜龍	(昭和45.4~昭和50.3)
中根 専正	(昭和50.4~平成10.3)
菅原 節生	(平成10.4~平成18.3)
伊藤 克子	(平成18.4~平成22.3)
中川 光憲	(平成22.4~現在)

文学部長

久松 潜一	(昭和38.4~昭和47.3)
志田 延義	(昭和47.4~昭和52.3)
宮田 幸一	(昭和52.4~昭和53.3)
滝沢 陽一	(昭和53.4~昭和55.3)
江藤 保定	(昭和55.4~昭和56.3)
池田 利夫	(昭和56.4~昭和60.3)
滝沢 陽一	(昭和60.4~平成元.3)
池田 利夫	(平成元.4~平成5.3)
岩佐美代子	(平成5.4~平成7.3)
志村 正雄	(平成7.4~平成11.3)
宇賀治正朋	(平成11.4~平成13.3)
内田 道雄	(平成13.4~平成15.3)
本吉 侃	(平成15.4~平成17.3)
永田 勝久	(平成17.4~平成21.3)
長塚 隆	(平成21.4~平成25.3)
高田 信敬	(平成25.4~現在)

歯学部部長

長尾 優	(昭和45.4~昭和50.10)
石川 堯雄	(昭和50.12~平成元.3)
河野 篤	(平成元.4~平成4.3)
柳澤 慧二	(平成4.4~平成8.3)
清水 正春	(平成8.4~平成10.3)
柳澤 慧二	(平成10.4~平成13.6)
細井 紀雄	(平成13.7~平成17.3)
福島 俊士	(平成17.4~平成19.3)
瀬戸 皖一	(平成19.4~平成20.3)
新井 高	(平成20.4~平成22.3)
小林 馨	(平成22.4~現在)

短大部長

榊田 桂	(昭和45.4~平成3.5)
廣島まさる	(平成3.6~平成7.3)
島田 義弘	(平成7.4~平成9.3)
露木 悟義	(平成9.4~平成11.3)
海野 阿育	(平成11.4~平成12.3)
伊藤 克子	(平成12.4~平成17.3)
上田 衛	(平成17.4~平成19.3)
矢島 道彦	(平成19.4~平成21.3)
上田 衛	(平成21.4~平成25.3)
渡辺 孝章	(平成25.4~現在)

図書館長

中根 専正	(昭和28.4~昭和38.3)
武田虎之助	(昭和38.4~昭和49.11)
岡田 温	(昭和50.4~昭和55.3)
中村 初雄	(昭和55.4~昭和57.3)
手崎 政男	(昭和57.4~昭和60.3)
池田 利夫	(昭和60.4~昭和62.3)
千葉 元承	(昭和62.4~平成元.3)
丸山昭二郎	(平成元.4~平成7.3)
納富 常天	(平成7.4~平成9.3)
宇賀治正朋	(平成9.4~平成11.3)
大森 郁朗	(平成11.4~平成13.3)
露木 悟義	(平成13.4~平成15.3)
高田 信敬	(平成15.4~平成19.3)
朝田 芳信	(平成19.4~平成24.3)
二藤 彰	(平成24.4~現在)

歯学部病院長

今川 与曹	(昭和45.4~昭和48.3)
渡辺 義男	(昭和48.4~昭和60.3)
中村 治郎	(昭和60.4~昭和62.3)
河野 篤	(昭和62.4~平成元.3)
花村 典之	(平成元.4~平成4.2)
尾花 甚一	(平成4.3~平成5.3)
桑原 洋助	(平成5.4~平成6.9)
雨宮 義弘	(平成7.1~平成9.3)
石橋 克禮	(平成9.4~平成11.3)
瀬戸 皖一	(平成11.4~平成19.3)
新井 高	(平成19.4~平成20.5)
斎藤 一郎	(平成20.6~平成24.3)
朝田 芳信	(平成24.4~現在)

短期大学部附属 三松幼稚園園長

中根 環堂	(昭和31.4~昭和34.11)
三澤 智雄	(昭和34.12~昭和42.11)
三輪 全龍	(昭和42.11~昭和43.2)
近藤 壽治	(昭和43.2~昭和44.3)
渡辺 榎雄	(昭和44.4~昭和47.3)
森田 金蔵	(昭和47.4~昭和52.3)
上村 映雄	(昭和52.4~昭和61.3)
池田 光政	(昭和61.4~平成4.3)
横山 完雄	(平成4.4~平成9.3)
松樹 素道	(平成9.4~平成10.3)
黒田真喜子	(平成10.4~平成26.3)
山崎 和子	(平成26.4~現在)

学園年表

- 大正13** (1924) 4 光華女学校設置。横浜市中区大岡町 総持会館。中根環堂、校長に就任
9 学校を大岡町より大本山總持寺香積台に移転
9 校舎を所在地 (206m) に移転
10 校服制定
12 校章制定

- 大正14** (1925) 2 鶴見高等女学校設置 (大本山總持寺開山常済大師600回大遠忌記念事業)
5 校舎竣工
5 生徒自治会「薫風会」誕生
9 校友会会則制定
12 運動場設置

- 大正15** (1926) 2 鶴見高等女学校開校式並びに校舎落成
6 寄宿舎 (光華寮) 竣工

- 昭和2** (1927) 4 「つるのはやし」創刊
10 校舎 (弘誓館) 竣工

- 昭和3** (1928) 3 光華女学校第1回卒業式
12 弓道場設置

- 昭和4** (1929) 3 鶴見高等女学校第1回卒業式
3 校舎 (恭敬館) 竣工

- 昭和5** (1930) 5 光華女学校を鶴見女子職業学校に校名変更
甲種4カ年、乙種3カ年制とする

- 昭和6** (1931) 4 ハワイより留学生受け入れ始まる
6 校舎 (精進館) 竣工
10 鶴見女子職業学校を光華女学校に校名還元。学則改正。(第一本科4カ年第二本科3カ年、研究科1カ年)

- 昭和7** (1932) 6 校章制定

- 昭和9** (1934) 10 光華女学校、鶴見高等女学校鶴友会誌「はたらき」(月刊)創刊

- 昭和10** (1935) 9 校舎 (修徳館) 竣工

- 昭和11** (1936) 4 校服改定
4 校舎 (慈眼館・光照館) 竣工

- 昭和12** (1937) 4 光華女学校を鶴見第一女学校に校名変更
家政科、経済科の各4カ年制とする
10 講堂設置



初代短期大学長・校長
中根 環堂



開校当時の表玄関と中根環堂校長



階段教室での授業 (昭和3年)



中学・高校正面校舎光照館 (昭和10年)

- 昭和13** (1938) 4 学校報国団結団式
10 学園創立15周年記念式典

- 昭和14** (1939) 7 道守地藏尊開眼供養

- 昭和15** (1940) 11 白浜修養道場開設 (千葉県安房郡白浜町万願寺)

- 昭和16** (1941) 9 報国隊結成式

- 昭和17** (1942) 3 中根環堂校長、駒澤大学学長に就任
5 光華寮修築工事竣工
9 英語が随意科目となり、作業科とする

- 昭和18** (1943) 3 「つるのはやし」と「はたらき」が合体し「鶴之林」(18号)を発行
3 午後5時50分、本校外火。講堂を残して全校舎焼失
4 總持寺天真閣、待鳳館、東台小学校校舎の一部及び講堂等にて授業開始
5 中根環堂校長、学校の復興に専念するため駒沢大学学長を辞任
12 学校報国団総動員令により東芝、日産等の工場へ生徒動員始まる

- 昭和19** (1944) 1 学園の経営母体を財団法人総持学園とする
4 鶴見第一女学校を鶴見女子実業学校に校名変更
家政科を技術科、経済科を商業科に名称変更

- 昭和20** (1945) 2 東部第1900部隊、本校校舎を使用
4 疎開生徒激増
8 終戦により動員生徒、工場から全員復校
8 校舎使用の東部第1900部隊解散

- 昭和21** (1946) 1 進駐軍部隊講堂を使用
11 校舎 (慈眼館) 竣工。復興祭

- 昭和22** (1947) 2 鶴見女子実業学校、鶴見高等女学校援護会設立
4 六・三・三制実施に伴い新制鶴見女子中学校を設置
6 生徒自治会設立
6 「鶴の林」復刊 (タブロイド版)
10 P.T.A. 双輪会設立
11 鶴見女子実業学校を鶴見第一女学校に校名還元

- 昭和23** (1948) 4 鶴見第一女学校、鶴見高等女学校を合併統合し、新制鶴見女子高等学校を設置 (普通科、家庭科、商業科)
6 双輪会規約改正。援護会と双輪会を合併
10 学園創立25周年記念式典
校舎 (精進館、発心館) 竣工



講堂朝礼 (昭和13年)



手旗の練習 (昭和17年)



講堂を残し校舎全焼 (昭和18年)

- 昭和24** (1949)
- 3 創立25周年記念誌発行
 - 10 制服改定
 - 11 「鶴の林」タブロイド版より A5判の冊子に復す
 - 11 鶴見女子成人学校（各種学校）を設置
 - 12 赤十字赤い羽根募金の募金額全国1位で表彰

- 昭和25** (1950)
- 4 坂本学園興国中学校・高等学校（男子校）の運営を継承し、鶴見学園中学校・高等学校に校名変更

- 昭和26** (1951)
- 3 財団法人総持学園より学校法人総持学園に組織変更
 - 4 鶴見女子高等学校普通科にコース制導入（家政、文科、理数）
 - 5 校服改定
 - 10 校舎（和光館）竣工

- 昭和27** (1952)
- 4 鶴見女子高等学校家庭科にコース制導入（家庭、被服）
 - 10 校舎（道光館）竣工

- 昭和28** (1953)
- 3 鶴見女子短期大学国文科（入学定員40名）設置
学長、中根環堂。国文科長、金沢庄三郎
 - 3 鶴見学園中学校、高等学校を閉校
 - 4 短期大学第1回入学式
教室は高等学校の2教室を仮教室として使用
 - 5 中根環堂学園長、神奈川県私学教育功労者として県知事より表彰
 - 5 学制発布80周年式典に際し、中根環堂学園長が教育功労者として文部大臣より表彰
 - 9 中学・高等学校体育館竣工
 - 10 学園創立30周年記念（体育館竣工、短期大学設置）祝典

- 昭和29** (1954)
- 4 短期大学において文部省認定司書講習
文部大臣委嘱司書補講習を開講
 - 10 中根環堂学園長、産業教育70周年式典に際し県知事より表彰
 - 12 短期大学校舎（1,565㎡）竣工

- 昭和30** (1955)
- 3 中根環堂学園長、第2回横浜市文化賞受賞
 - 5 中根環堂学園長、藍綬褒章受章
 - 8 中学・高等学校校舎（浄光館）竣工
 - 10 中学・高等学校体育館で第10回国民体育大会バドミントン競技を実施
 - 10 「鶴見女子短期大学紀要」創刊

- 昭和31** (1956)
- 4 鶴見女子短期大学幼稚園教員養成所及び三松幼稚園（543㎡）設置
 - 4 短期大学において第1回文部省委嘱
博物館学芸員講習会開講
 - 9 中学・高等学校の社会福祉事業の功績に対し県知事より表彰



国文科認可申請書



初代国文科長・金沢庄三郎



女子短期大学校舎（昭和30年代）



中学・高校体育館国体バドミントン会場となる（昭和30年）

- 昭和32** (1957)
- 1 短期大学に保母養成機関として鶴見保育学院を設置
 - 1 中学・高等学校双輪会元役員による「道交会」設立。会長、武田憲平
 - 9 中根環堂学園長、私学振興の功勞により神奈川県文化賞受賞

- 昭和33** (1958)
- 12 中学・高等学校生徒会新聞「鶴女時報」（季刊）創刊

- 昭和34** (1959)
- 2 中学・高等学校校舎（慈眼館）竣工
 - 4 鶴見学園中学・高等学校の元校舎の一部を改造し、
大学学生寮（光華寮）とする
 - 11 学園創立35周年記念講演「科学文明の行方」湯川
秀樹博士紹介後、中根環堂学園長遷化
渡邊潜龍、学園長代理に就任
 - 11 学園創立35周年記念式典
故中根環堂学園長の胸像除幕式
 - 11 故中根環堂学園長、学園葬
正六位勲五等瑞宝章下賜
 - 12 三澤智雄、学園長及び短期大学学長、中学・高等
学校長に就任

- 昭和36** (1961)
- 12 四年制大学設置準備委員会発足

- 昭和37** (1962)
- 3 三松幼稚園保育室（206㎡）竣工
 - 4 短期大学に保育科、保健科（入学定員各50名）設置
保育科長、榎田桂。保健科長、山崎清

- 昭和38** (1963)
- 3 幼稚園教員養成所及び鶴見保育学院閉校
 - 4 鶴見女子大学文学部日本文学科
英米文学科（入学定員各40名）設置
文学部長・日本文学科長、久松潜一
英米文学科長、松浦嘉一
校舎は鶴見区荒立の光華寮の一部を改造して使用
（2,776㎡）
 - 4 鶴見女子大学第1回入学式
 - 5 大学学生寮（光華寮）第1棟（2,369㎡）竣工
 - 6 大学後援会設立。会長藤山愛一郎
 - 11 学園創立40周年記念式典及び鶴見女子大学開学式
 - 11 中学・高等学校特別教室校舎（精進館）竣工
 - 11 大学学友会機関紙「鶴見女子大学新聞」創刊
 - 11 「鶴見女子大学紀要」創刊

- 昭和39** (1964)
- 3 大学学生寮（光華寮）第2棟（1,459㎡）竣工
 - 7 大学父母会設立
 - 8 中学・高等学校プール2面設置
 - 8 大学「父母会報」創刊



湯川秀樹博士（中央コートの人）を迎えて（昭和34年11月）



二代学長・校長
三澤 智雄



初代文学部長
久松 潜一



短大光華寮建設（昭和37年12月）



創立40周年・大学開学記念式典（昭和38年）

- 昭和40**
(1965)
- 3 大学荒立校舎に図書館(461㎡)竣工
 - 4 中学・高等学校講堂において總持寺二祖国師600回大遠忌記念曹洞宗教育者大会開催
 - 4 中学・高等学校、高松宮御夫妻来校
 - 5 鶴見女子大学日本文学会設立
 - 10 大学第1回大学祭「紫雲祭」開催
 - 10 大学構内に神奈川県歯科医師会の「歯塚」建立
 - 10 中学・高等学校運動場拡張

- 昭和41**
(1966)
- 3 大学日本文学会機関誌「国文鶴見」創刊
 - 3 短期大学第2校舎として灯台寮(788㎡)を移築及び荒立第2校舎(762㎡)竣工
 - 11 久松潜一教授、文化功労者として受章

- 昭和42**
(1967)
- 3 大学総合校舎(8,559㎡)竣工(1号館)
 - 3 文学部第1回卒業式
 - 6 大学講堂(634㎡)竣工
 - 8 中学・高等学校弓道場竣工
 - 11 大学同窓会設立
 - 11 学園長三澤智雄遷化
室峰梅逸理事長、学園長代理
三輪全龍、学長代行
渡邊潜龍、中学・高等学校長代理に就任

- 昭和43**
(1968)
- 2 近藤壽治、学園長及び大学学長、中学・高等学校校長に就任
 - 2 歯学部開設準備委員会発足
 - 10 故三澤智雄学園長1周忌にちなみ中学・高等学校校庭に弥勒菩薩像建立
 - 11 大学同窓会報「つるみ」創刊
 - 11 鶴見女子短期大学保育学会設立

- 昭和44**
(1969)
- 4 渡辺樫雄、学園長及び大学学長、中学・高等学校長に就任
 - 4 歯学部設立準備室設置
 - 7 大学2号館(11,981㎡)竣工
 - 9 「鶴見女子大学報」創刊
 - 9 大学御殿場校地(19,800㎡)寄贈を受ける
 - 11 学園創立45周年記念式典

- 昭和45**
(1970)
- 1 大学3号館(6,534㎡)竣工
 - 4 歯学部歯学科(入学定員80名)設置
歯学部長、長尾優
 - 4 歯学部附属病院設置
 - 4 渡邊潜龍校長代理、副学園長及び中学・高等学校長、成人学校長に就任
 - 5 歯学部第1回入学式
 - 6 中高等学校後援会設立
会長・横山健一
 - 7 歯学部設置及び2号館竣工祝賀会
 - 8 大学職員宿舎(1,592㎡)竣工
 - 10 文学部英語英文学会設立
 - 12 大学学生寮(光華寮)第3棟(2,061㎡)竣工



中学・高校入学式 正面玄関(昭和42年4月)



大学総合校舎



三代学長・校長
近藤 壽治



四代学長・校長
渡辺 樫雄



五代校長
渡邊 潜龍



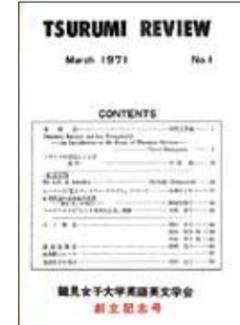
初代歯学部長
長尾 優

- 昭和46**
(1971)
- 3 文学部英語英文学会機関誌「Tsurumi Review」創刊
 - 3 中学・高等学校校舎(光照館)竣工
 - 4 鶴見女子短期大学を鶴見女子大学短期大学部に名称変更
短期大学部国文科、保育科、保健科入学定員を各100名に変更
 - 4 中学・高等学校鶴友同窓会機関誌「はたらき」復刊
 - 12 大学全学協議会で11月21日を開学記念日とする

- 昭和47**
(1972)
- 4 大学2号館増改築
 - 6 所在地表示変更により大学所在地は横浜市鶴見区鶴見2丁目1番3号となる
 - 6 所在地表示変更により大学学生寮は鶴見区東寺尾5丁目20番1号となる
 - 10 中学・高等学校長渡邊潜龍、学制100年記念式典において文部大臣より教育功労者として表彰
 - 10 歯学部第1回解剖体精霊供養法会
 - 10 歯学部解剖霊安室本尊開眼供養

- 昭和48**
(1973)
- 4 鶴見女子大学を鶴見大学に名称変更
歯学部を男女共学とする
 - 4 鶴見女子大学短期大学部を鶴見大学女子短期大学部に名称変更
 - 4 高等学校家庭科を調理科に名称変更し生徒募集を再開
普通科の家庭・文科・理科の各コースをⅠ類・Ⅱ類・Ⅲ類に名称変更
 - 4 文学部日本文学科、英米文学科の入学定員を各100名に変更
 - 4 大学・女子短期大学部校章、校旗を制定
 - 5 「鶴見大学紫雲会」発足
 - 5 大学土曜公開講座開始
 - 11 勝木保次教授、文化勲章受章

- 昭和49**
(1974)
- 3 中学・高等学校校舎(浄光館)竣工
 - 3 歯学部動物舎(280㎡)竣工
 - 4 大学、常陸宮御夫妻来学
 - 5 大学荒立テニスコート(2,698㎡)設置
 - 7 歯学部長尾學術奨励賞制定
 - 7 歯学部第7回全日本歯科学学生総合体育大会に初参加
 - 9 大学4号館(3,234㎡)竣工
 - 12 中学・高等学校隣接地7,500㎡の校地取得



Tsurumi Review (創刊号)



光照館



調理師コース調理実習(昭和48年)



歯学部教授
勝木 保次

- 昭和50**
(1975)
- 3 中学・高等学校にバレーコート3面設置
 - 4 歯学部入学定員を120名に変更
 - 4 中学・高等学校渡邊潜龍校長、名誉校長に就任
中根専正、校長に就任
 - 4 大学荒立に弓道場 (298㎡) 設置
 - 6 大学新入生本山一泊参禅会 (第1回)
 - 7 歯学部、歯学会設立
 - 10 大学師岡グラウンド (14,557㎡) 設置
 - 10 学園創立50周年記念式典
 - 11 斉藤勇顧問教授、文化功労者として受章
 - 12 歯学部歯学会機関誌「鶴見歯学」創刊



第1回大学新入生本山一泊参禅会 (昭和50年6月)

- 昭和51**
(1976)
- 3 鶴見大学校歌制定 (作詞・志田延義、作曲・團伊玖磨)
 - 3 大学体育館 (7,537㎡) 竣工
 - 4 文学部日本文学科、英米文学科の入学定員を各150名、歯学部歯学科は140名に
女子短期大学部国文科、保育科は各200名
保健科は150名に変更
 - 4 文学部に博物館学芸員課程開設
高等学校栄養科学科を食物科に名称変更
 - 10 三輪全龍、学長に就任
 - 11 大学同窓会が活動拠点を「鶴見大学文学部・短期大学部同窓会」と「鶴見大学歯学部同窓会」に分け、その連合体を鶴見大学同窓会とする

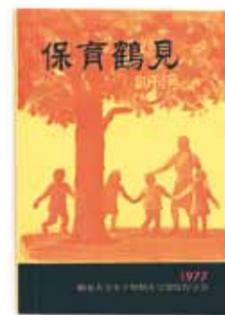


六代校長
中根 専正

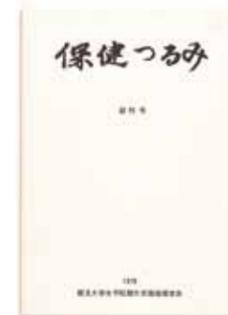


五代学長
三輪 全龍

- 昭和52**
(1977)
- 1 大学荒立運動場 (13,316㎡) 設置
 - 2 成人学校校舎竣工
 - 3 女子短期大学部保育学会機関誌「保育鶴見」創刊
 - 4 大学院歯学研究科博士課程歯学専攻 (入学定員18名) 設置
歯学研究科長、石川堯雄
 - 4 文学部源氏物語研究所準備委員会発足
代表、池田利夫
 - 8 歯学部附属病院棟 (15,066㎡) 竣工
 - 10 中村元顧問教授、文化勲章受章
 - 11 女子短期大学部保健学会設立
 - 12 歯学部同窓会報創刊



保育鶴見 (創刊号)



保健つるみ (創刊号)

- 昭和53**
(1978)
- 1 中学・高等学校校舎 (発心館) 竣工
 - 3 女子短期大学部保健学会機関誌「保健つるみ」創刊
 - 3 渡辺樺雄、学園長を退任
 - 4 歯学部入学定員を160名に変更
 - 7 三松幼稚園園舎 (2,072㎡) 竣工
 - 9 三松幼稚園を鶴見大学女子短期大学部附属三松幼稚園に名称変更
 - 9 歯学部第1回実験動物慰霊供養法会
 - 10 中学・高等学校体育館 (現道光館) 竣工
 - 11 中学・高等学校テニスコート (全天候式) 設置

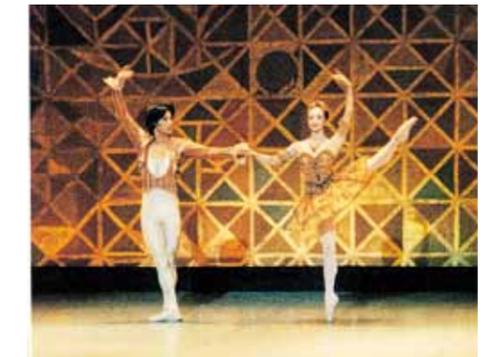
- 昭和54**
(1979)
- 1 中学・高等学校剣道道場 (直心館) 竣工
 - 1 大学講堂釈尊像入仏開眼供養
 - 3 大学洋弓場 (198㎡) 設置
 - 4 三松幼稚園収容定員を6学級240名に変更
 - 10 大学図書館別館 (雑誌閲覧室) 3号館に開設 (550㎡)
 - 10 歯学部10周年記念式典、祝賀会
歯学部10周年記念誌刊行
 - 11 大学開学25周年記念式典
 - 11 「鶴見大学の歩み」刊行



歯学部解剖体慰霊塔建立 (昭和56年3月)

- 昭和55**
(1980)
- 1 大学図書館報「アゴラ」創刊
 - 4 三松幼稚園収容定員を7学級280名に変更
 - 5 女子短期大学部国文学会設立
 - 9 歯学部第2研究棟 (RI棟・460㎡) 竣工

- 昭和56**
(1981)
- 3 歯学部解剖献体者慰霊塔建立
 - 3 大学院歯学研究科博士課程第1回修了式
 - 6 鶴見大学国語教育研究会発足



松山バレエ団/清水哲太郎・森下洋子 (昭和59年11月)

- 昭和57**
(1982)
- 4 高等学校普通科コース制 (I類、II類、III類) を
教養・総合・文理コースに変更
 - 12 中学・高等学校新弓道場 (道心館) 竣工

- 昭和59**
(1984)
- 5 大学に保健センター (165㎡) 竣工
 - 10 学園創立60周年記念式典
中学・高等学校創立60周年記念講堂・図書館 (6,700㎡) 竣工
 - 10 本尊釈迦牟尼如来像開眼供養
 - 10 創立60周年記念誌「人々悉道器」刊行
 - 11 中学・高等学校記念講堂こけら落とし (松山バレエ団)

- 昭和60**
(1985)
- 11 高等学校2年生、第1回日中友好修学旅行

- 昭和61**
(1986)
- 9 大学図書館 (7,366㎡)、大学5号館 (3,035㎡) 竣工
 - 9 道元自筆「対大己五夏閻梨法 (断簡)」 (道正庵切) を大学図書館に収蔵
 - 10 「鶴見大学図書館の歩み」「藝林拾葉」刊行
 - 10 歯学部と首都医科大学口腔医学院が姉妹校締結



韓国暹国大学校と姉妹校締結 (昭和62年10月)

- 昭和62**
(1987)
- 10 歯学部と韓国暹国大学校が姉妹校締結

- 昭和63**
(1988)
- 4 女子短期大学部保健科を歯科衛生科に名称変更

- 平成元**
(1989)
- 4 大学院文学研究科修士課程 日本文学専攻・英米文学専攻 (入学定員各6名) 設置
文学研究科長・池田利夫
日本文学専攻主任、岩佐美代子
英米文学専攻主任、関本栄一
 - 4 有隣堂ギャラリーにて大学図書館所蔵貴重書展開催
 - 11 中学・高等学校飯綱研修道場竣工
 - 12 大学図書館学術情報センターと接続



有隣堂ギャラリーにて (平成元年4月)

- 平成2** (1990)
- 4 鶴見女子成人学校を廃校し、総持学園文化教室と名称変更
 - 4 大学那須研修セミナーハウス (877㎡) 竣工
 - 10 歯学部創立20周年記念式典

- 平成3** (1991)
- 11 大学図書館所蔵「和漢朗詠集」が (1991) 横浜市文化財に指定

- 平成4** (1992)
- 4 横尾太壽、学長事務取扱に就任
 - 12 高崎直道、鶴見大学学長に就任
 - 11 歯学部教職員宿舎及びゲストハウス (1,619㎡) 竣工
 - 12 文学部創立30周年記念祝賀会

- 平成5** (1993)
- 9 中学・高等学校で、月1回土曜日休日 (1993) の週5日制を実施
 - 10 大学図書館所蔵「大般若波羅蜜多經」が横浜市指定文化財に指定

- 平成6** (1994)
- 2 道元自筆「対大己五夏閻梨法 (断簡)」(道正庵切) を大学図書館に収蔵 (第2葉)
 - 4 大学院文学研究科博士後期課程日本文学専攻 (入学定員3名) 設置
文学研究科長、岩佐美代子
日本文学専攻主任、大屋幸世
 - 4 高等学校商業科を改組して経済情報科を設置
 - 4 中学・高等学校で授業週5日制を実施
 - 10 学園創立70周年記念式典
 - 10 日本橋丸善ギャラリーにて図書館貴重書展開催

- 平成7** (1995)
- 2 女子短期大学部専攻科保育専攻学位授与機構の認定
 - 2 阪神大震災救援ボランティア活動を実施
 - 4 女子短期大学部専攻科保育専攻 (入学定員20名) 設置
 - 4 鶴見大学仏教文化研究所開設
所長、高崎直道
 - 7 中高獅子ヶ谷総合グラウンド (35,168㎡) 設置

- 平成8** (1996)
- 1 大学広報紙「Campus Now」創刊
 - 3 鶴見大学仏教文化研究所「紀要」創刊
 - 4 鶴見大学のスクールマーク (ロゴマーク) のデザイン決定
 - 4 歯学部高齢者歯科学講座開設
 - 12 歯学部とメルボルン大学歯学部が学術交流協定締結



六代学長
高崎 直道



横浜市指定文化財 大般若波羅蜜多經



道元自筆「対大己五夏閻梨法 (断簡)」



日本橋丸善ギャラリーにて (平成6年10月)



大学広報誌「Campus Now」創刊 (平成8年1月)



スクールマーク (ロゴマーク)

- 平成9** (1997)
- 3 鶴見大学会館 (7,165㎡) 竣工
 - 4 大学院文学研究科博士後期課程英米文学専攻 (入学定員3名) 設置
文学研究科長、志村正雄
英米文学専攻主任、高橋昭三
 - 4 文学部比較文化研究所開設
所長、高橋昭三
 - 6 鶴見大学と放送大学が単位互換に関する協定締結
 - 10 鶴見大学生涯学習センターにてセミナー開設

- 平成10** (1998)
- 4 文学部文化財学科 (入学定員60名) 設置
学科主任、大三輪龍彦
 - 4 文学部日本文学科、英米文学科
各入学定員を120名に変更
 - 4 菅原節生、中学・高等学校校長に就任
 - 4 鶴見大学歯学部顎機能研究センター設立
 - 4 6号館 (5,176㎡) 竣工
 - 6 文学部文化財学科開設記念公開講演会・祝賀会
 - 11 文学部文化財学科実習棟 (133㎡) 設置

- 平成11** (1999)
- 2 歯学部とタイ・タマサート大学歯学部が学術交流協定締結
 - 4 鶴見大学女子短期大学部を鶴見大学短期大学部に名称変更
国文科、保育科男女共学
 - 10 文学部文化財学会設立

- 平成12** (2000)
- 2 第1回三松幼稚園卒園記念絵画コンペ
 - 3 歯学部とロンドン大学クイーンメリー・ウェストフィールド校が学術交流協定締結
 - 4 文学部に曹洞宗宗侶養成課程 (仏教専修科) 設置
 - 6 歯学部とスリランカ・ペラデニア大学が学術交流協定締結
 - 9 歯学部第3研究棟 (761㎡) 取得
 - 10 歯学部創立30周年記念式典

- 平成13** (2001)
- 1 歯学部顎機能研究センターがバイオベンチャー研究開発拠点に選定
 - 1 神奈川県内16大学の大学院での単位互換と共同研究などの学術交流協定書調印
 - 1 横浜市内大学間学術・教育交流協議会設立
 - 2 岩佐美代子名誉教授、読売文学賞受賞
 - 3 歯学部附属病院と横浜市歯科医師会との間で同病院施設の利用に関する覚書を締結
 - 4 大学学生証・身分証明書がID化される



鶴見大学会館



七代校長
菅原 節生



6号館



学生証・身分証明書がID化される (平成13年4月)

- 平成14**
(2002)
- 3 歯学部とアメリカ・ベイラー歯科大学が学術交流協定を締結
 - 4 大学院文学研究科博士前期課程、後期課程文化財専攻(入学定員 前期課程4名、後期課程2名)設置
文化財学専攻主任、大三輪龍彦
 - 4 文学部英米文学科を英語英米文学科に名称変更
 - 7 大学教職員専用駐車場竣工
 - 9 歯学部と中国首都医科大学口腔医学院が姉妹校交流を継続のため合意書に調印
 - 10 短期大学部専攻科福祉専攻の実習施設を設置

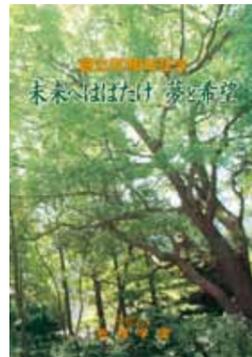
- 平成15**
(2003)
- 3 大学女子学生寮(2,757㎡)竣工
 - 4 短期大学部専攻科福祉専攻(入学定員40名)設置
 - 4 短期大学部歯科衛生科が2年制から3年制へ移行
 - 4 短期大学部国文学科入学定員を100名に変更
 - 4 大学院英米文学、英語学分野の単位互換に関する協定調印 鶴見大学、駒澤大学、獨協大学

- 平成16**
(2004)
- 4 文学部ドキュメンテーション学科(入学定員60名)設置
学科主任、岡田靖
 - 4 文学部日本文学科、英語英米文学科、各入学定員を90名に変更
 - 4 財団法人大学基準協会より大学基準適合認定証を受ける
 - 7 歯学部とスイス・ベルン大学歯学部が学術協定を締結
 - 7 文学部ドキュメンテーション学会設立
 - 9 大学記念館(6,576㎡)竣工
 - 9 大型エレベーター1号館に設置
 - 10 学園創立80周年記念式典
記念誌「未来へはばたけ夢と希望」刊行
 - 10 「和歌と物語 鶴見大学図書館蔵貴重書80選」刊行
 - 12 柳澤慧二、学長代行に就任

- 平成17**
(2005)
- 3 柳澤慧二、鶴見大学学長に就任
 - 3 「文化財学雑誌」(文学部文化財学会編)創刊
 - 3 「介護ケア研究会」(短期大学部専攻科福祉専攻編)創刊
 - 3 「ドキュメンテーション ニュースレター」(文学部ドキュメンテーション学会編)創刊
 - 11 三松幼稚園、創立50周年記念講演会
創立50周年園児記念式典



大学記念館



七代学長
柳澤 慧二

- 平成18**
(2006)
- 1 神奈川県議団6名と県教育局職員2名が図書館を正式訪問
 - 3 図書館、神奈川県立図書館と相互協力協定を締結
 - 4 伊藤克子、中学・高等学校校長に就任
 - 4 短期大学部国文学科学生募集停止
 - 4 入試センターを1号館に設置
 - 10 「鶴見大学国語教育研究、別巻、ひろば」(文学部日本文学科国語教育研究会編)創刊

- 平成19**
(2007)
- 3 文学部、韓国外国語大学校と学術交流・学生交流に関する協定を締結
 - 4 鶴見女子中学校・高等学校を鶴見大学の附属とし、鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校に名称変更
 - 4 獅子ヶ谷グラウンド(硬式野球場)(35,166㎡)竣工式
 - 5 歯学部、香港大学歯学部と姉妹校協定を締結
 - 6 歯学部附属病院「歯科医療情報推進機構」の評価基準に適合

- 平成20**
(2008)
- 3 短期大学部国文学科廃止
 - 4 鶴見大学附属鶴見女子中学校・高等学校を鶴見大学附属中学校・高等学校に名称変更し、制服改定男女共学
 - 10 白鷺女子高等学校と鶴見大学との間で教育交流に関する協定を締結
 - 12 文学部・リジャイナ大学(カナダ)と学術交流に関する覚書を締結
 - 12 鶴翔寮竣工

- 平成21**
(2009)
- 3 歯学部、チェティナッド歯科大学(インド)と学術交流協定を締結
 - 3 附属中学校・高等学校新校舎(教科エリア・ホームベース型)(9,902㎡)竣工
 - 4 木村清孝、鶴見大学学長に就任
 - 4 歯学部、南カリフォルニア大学歯学部(アメリカ)と学術協力協定を締結
 - 4 附属高等学校仏教専修科創設
 - 11 歯学部附属病院、電子カルテの運用を開始
 - 11 三浦学苑高等学校と鶴見大学との教育交流に関する協定を締結



八代校長
伊藤 克子



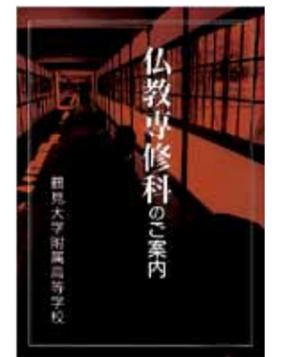
獅子ヶ谷グラウンド



鶴翔寮(仏教専修科寮)



八代学長
木村 清孝



平成22
(2010)

- 2 鶴見大学・UNHCR共同プロジェクト「庇護申請者のための歯科診療」発足
- 3 文学部、ニューイングランド大学（オーストラリア）と学術交流に関する覚書を締結
- 3 鶴見大学短期大学部「財団法人短期大学基準協会」の基準に適合
- 4 中川光憲、中学・高等学校校長に就任
- 4 3ステージ制導入（中高）
- 6 県立保土ヶ谷高等学校と鶴見大学との間で教育交流に関する協定を締結
- 6 鶴見大学仏教文化研究所主催公開シンポジウム「總持寺の歴史と文化」開催
- 10 国際交流センター設置
- 10 「鶴見大学の宗教行事 成道会と精霊祭」刊行
- 12 歯学部開設40周年記念パネルディスカッション・式典

平成23
(2011)

- 3 「鶴見大学源氏物語研究所年報」（源氏物語研究所編）創刊
- 4 鶴見大学「財団法人大学基準協会」の基準に適合
- 4 歯学部、教育探索歯学講座及び臨床探索歯学講座に寄附講座新設
- 5 先制医療研究センター設置
- 5 鶴見大学、世新大学（台湾）と学術・学生交流協定を締結
- 6 鶴見大学仏教文化研究所主催公開シンポジウム「御移転の真実を探る」開催
- 12 中川文部科学大臣が歯学部附属病院の「難民支援歯科診療」を視察

平成24
(2012)

- 4 歯学部歯学科の入学定員を120名に変更
- 4 事務組織を再編し、新たに学生支援センター、入試キャリアセンター、教育研究支援センターを設置
- 5 「大本山總持寺の成立と発展 新たな百年に向けて」刊行
- 6 日本印度学仏教学会・第63回学術大会開催
- 10 鶴見大学大学院歯学研究科と横浜市立大学大学院医学研究科の間で学術交流に関する協定締結
- 10 鶴見大学創立50周年・鶴見大学短期大学部創立60周年を記念して鶴見大学公式マスコットキャラクター「つるみん」が誕生、学園祭でお披露目



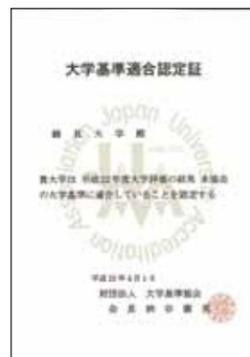
大学公式マスコットキャラクター「つるみん」(左)と「つるたん」(右)



九代校長
中川 光憲



歯学部開設40周年記念行事（平成22年12月）



平成25
(2013)

- 3 ドキュメンテーション学科で、台湾の世新大学と鶴見大学との国際交流協定に基づき、正規授業として初めての海外研修を実施
- 5 文学部ドキュメンテーション学科、北京大学情報管理学科と学術交流に関する協定を締結
- 6 文学部ドキュメンテーション学科、中山大学情報管理学部と学術交流に関する協定を締結
- 6 歯学部、プリティッシュコロンビア大学歯学部（カナダ）と姉妹校協定を締結
- 9 鶴見大学、東北大学及びClioで再生医療に関する共同研究契約を締結
- 10 神奈川県立永谷高校と鶴見大学との間で教育交流に関する協定を締結
- 11 鶴見大学創立50周年、鶴見大学短期大学部創立60周年記念式典「記念誌 写真でつづる鶴見大学小史」刊行
- 12 鶴見大学仏教文化研究所と仏光大学仏教研究センター（台湾）との間で学術交流協定を締結

平成26
(2014)

- 3 3年生オーストラリア語学研修旅行実施（中学）
- 4 鶴見大学・鶴見大学短期大学部の新ロゴマーク決定
- 4 事務局に地域連携推進課、入試課、キャリア支援課を設置
- 4 鶴見大学と豊岡商店街協同組合との間で地域交流協定を締結
- 4 伊藤克子、鶴見大学学長に就任
- 7 鶴見大学と横浜市鶴見区との間で包括連携協定を締結
- 9 司書・司書補講習開講60周年記念式典・講演会・祝賀会「鶴見大学司書・司書補講習60周年記念誌」刊行
- 10 横浜市・大本山總持寺・鶴見大学との防災協定を締結
- 11 学園創立90周年記念式典・祝賀会挙行記念誌「感謝を忘れず真人となる」刊行



大学創立50周年・短大部創立60周年記念式典（平成25年11月）



総括委員会 ● 実行委員会 名簿

記念行事

総持学園は、大正13（1924）年4月に、今日の鶴見大学附属中学・高等学校の前身である光華女学校の誕生から平成26年に創立90周年を迎えることとなりました。

平成25年には、短期大学部は開学60周年、文学部は50周年を、また、平成22年には、歯学部は40周年を迎えました。創立90周年のキャッチフレーズを、建学の精神の確認と具現化を一層促進するため、「大覚円成 報恩行持」（感謝を忘れず 真人となる）に据え、学園のさらなる発展と活性化を目指し、大学、短大、中高、幼稚園が「教育目標宣言」を掲げ、記念式典等の記念行事を学園あげて実施することとなり、各委員会が設置され、事業の推進にあたりました。

本誌は、「未来へはばたけ 夢と希望」と題して創立80周年に編纂された記念誌に続けて、この10年間の本学園の歩みを中心に、100周年へ向けての足がかりとして記念誌編纂委員会によって編まれました。

この節目の年に、学園の一員として、また委員の一人としてこの記念事業に係わることができたことに感謝申し上げます。次の大きな100周年という大きな節目へむけての一步となれば幸いです。

末筆ながら、原稿の作成や資料の提供に、ご協力ご支援を賜った方々へ厚くお礼申し上げます。

編集委員長 寺田 俊一

● 総括委員会

- ◎乙川 暎元 理事長
- 落合 一恵 副理事長・事務局長
- 伊藤 克子 常務理事・学長
- 前田 伸子 理事・副学長
- 中川 光憲 理事・中高校長
- 高田 信敬 理事・文学部長
- 小林 馨 理事・歯学部長
- 渡辺 孝章 理事・短大部長
- 小島 信道 理事・総務部長
- 山崎 和子 幼稚園長

● 実行委員会

- ◎伊藤 克子 学長
- 前田 伸子 副学長
- 落合 一恵 事務局長
- 高田 信敬 文学部長
- 相良 英明 文学部教授
- 小林 馨 歯学部長
- 下田 信治 歯学部教授
- 渡辺 孝章 短大部長
- 神田 伸生 短大部教授
- 中川 光憲 中・高校長
- 寺田 俊一 中・高副校長
- 山崎 和子 幼稚園長
- 原口 咲子 幼稚園副園長
- 塚田 茂 事務局次長
- 瀧川 孝 企画広報室長
- 小島 信道 総務部長
- 門井昇二郎 財務部長
- 黒井 和男 学生支援センター事務部長
- 戸田 邦男 入試キャリアセンター事務部長
- 竹内 康治 総務課長
- 前田 憲泰 経理課長
- 上田 裕之 中・高事務長

● 小委員会

式典・祝賀会関係委員会

- ◎瀧川 孝 企画広報室長
- 下田 信治 歯学部教授
- 片山倫太郎 文学部教授
- 小澤 晶子 短大部教授
- 佐々木健瑛 キャリア支援課長
- 佐藤 詩穂 短大部教学課職員
- 家永 亮 総務課職員
- 寺田 俊一 中・高副校長
- 上野 正人 中・高教諭
- 上田 裕之 中・高事務長
- 雲林院麻斗 中・高職員
- 原口 咲子 幼稚園副園長

渉外関係委員会

- ◎小島 信道 総務部長
- 石田 達夫 中・高主幹教諭
- 花田 信弘 歯学部教授
- 根岸 純子 文学部准教授
- 平野 司 地域連携推進課職員
- 中田 真博 中・高教諭
- 中村 園子 中・高職員

記念誌編纂委員会

- ◎寺田 俊一 中・高副校長
- 小島 信道 総務部長
- 伊藤 正義 文学部教授
- 長谷川雅子 歯学部助教
- 橋本 弘道 短大部准教授
- 長谷川豊祐 学術情報事務長
- 相馬奈美子 文学部教学課職員
- 鈴木 重夫 中・高主幹教諭
- 今井 保夫 中・高教諭
- 川野 正裕 中・高教諭
- 斉藤 浩二 中・高職員
- 萩原 由美 幼稚園教諭

(◎は委員長 ○は副委員長)

○6月14日(土) 仏教文化研究所設立20周年記念 公開シンポジウム
『心の安らぎを求めて－仏教者の社会参加』
釈徹宗氏、新川泰道氏、金子昭氏、前田伸子氏
(場所：大学会館メインホール)

○9月13日(土) 司書・司書補講習60周年 記念式典・祝賀会
(場所：大学記念館記念ホール 他)
記念講演会『司書講習の今後の方向性』
文部科学省生涯学習政策局社会教育課 課長補佐・高橋睦子氏
記念講演会『地方自治体における図書館員養成と司書講習』
公益社団法人日本図書館協会 専務理事・西野一夫氏

○10月27日(月)～11月28日(金) 中根環堂先生・三澤智雄先生回顧展
(場所：中・高記念講堂、大学会館センタープラザ)

○11月3日(祝) 中・高 ホームカミングデー
(場所：中・高記念講堂 他)

○11月15日(土) 学校法人総持学園創立90周年 記念式典・祝賀会
(場所：中・高記念講堂 他)

○11月25日(火) 三松幼稚園 親子観劇会 (場所：中・高記念講堂)

○12月11日(木) 創立90周年記念講演会
『さかなクンのお魚と環境のお話』 さかなクン
(場所：中・高記念講堂)

創立90周年記念

感謝を忘れず^{ひと}真人となる

平成26年11月15日発行

編集／90周年記念誌編集委員会

発行／学校法人 総持学園 乙川 暎元

横浜市鶴見区鶴見2-1-3

電話 045-581-1001(代)

印刷／神奈川新聞社
